看 護 学 科
シ ラ バ ス

実務経験のある教員等による授業科目一覧（看護学科）

NO	科目名	単位時間	実務経験内容
1	生活科学	30	本科目は，管理栄養士，一級建築士として実務経験のある教員による授業である。
2	人間関係論	30	本科目は，臨床心理士として実務経験のある教員による授業である。
3	病理学総論	15	本科目は，医師として実務経験のある教員による授業である。
4	病態生理学	30	本科目は，看護師，保健師として実務経験のある教員による授業である。
5	疾病論Ⅰ	30	本科目は，医師として実務経験のある教員による授業である。
6	疾病論Ⅱ	30	本科目は，医師として実務経験のある教員による授業である。
7	疾病論Ⅲ	30	本科目は，医師として実務経験のある教員による授業である。
8	疾病論Ⅳ	30	本科目は，医師として実務経験のある教員による授業である。
9	疾病論Ⅴ	30	本科目は，医師，歯科医師として実務経験のある教員による授業である。
10	臨床栄養学	30	本科目は，管理栄養士として実務経験のある教員による授業である。
11	臨床薬理学	30	本科目は，医師として実務経験のある教員による授業である。
12	リハビリテーション論	30	本科目は，理学療法士，作業療法士，言語聴覚士として実務経験のある教員による授業である。
13	チーム医療論	30	本科目は，看護師，保健師，薬剤師，管理栄養士，放射線技師，介護福祉士として実務経験のある教員による授業である。
14	治療論	30	本科目は，医師，放射線技師，看護師として実務経験のある教員による授業である。
15	健康教育論	15	本科目は，看護師，保健師として実務経験のある教員による授業である。
16	社会保障論	15	本科目は，社会福祉主事として実務経験のある教員による授業である。
17	心理臨床	15	本科目は，臨床心理士として実務経験のある教員による授業である。
18	関係法規	30	本科目は，看護師，保健師，助産師として実務経験のある教員による授業である。
19	看護学概論	30	本科目は，看護師として実務経験のある教員による授業である。
20	看護倫理	15	本科目は，看護師として実務経験のある教員による授業である。
21	共通基本技術Ⅰ	30	本科目は，看護師，保健師として実務経験のある教員による授業である。
22	共通基本技術Ⅱ	15	本科目は，看護師として実務経験のある教員による授業である。
23	共通基本技術Ⅲ	60	本科目は，看護師として実務経験のある教員による授業である。
24	共通基本技術Ⅳ	30	本科目は，看護師，保健師として実務経験のある教員による授業である。
25	生活援助技術Ⅰ	30	本科目は，看護師として実務経験のある教員による授業である。
26	生活援助技術Ⅱ	30	本科目は，看護師として実務経験のある教員による授業である。
27	生活援助技術Ⅲ	30	本科目は，看護師として実務経験のある教員による授業である。
28	診療の補助技術Ⅰ	30	本科目は，看護師として実務経験のある教員による授業である。
29	診療の補助技術Ⅱ	15	本科目は，看護師として実務経験のある教員による授業である。
30	技術演習・評価Ⅰ	30	本科目は，看護師として実務経験のある教員による授業である。
31	技術演習・評価Ⅱ	30	本科目は，看護師として実務経験のある教員による授業である。
32	基礎看護学実習	45	本科目は，看護師として実務経験のある教員による授業である。
33	対象別保健論	30	本科目は，保健師として実務経験のある教員による授業である。
34	保健指導論	30	本科目は，保健師として実務経験のある教員による授業である。
35	看護過程展開論Ⅰ	30	本科目は，看護師，保健師として実務経験のある教員による授業である。
36	看護過程展開論Ⅱ	30	本科目は，看護師として実務経験のある教員による授業である。
37	健康回復援助論	30	本科目は，助産師として実務経験のある教員による授業である。
38	薬物療法と看護	30	本科目は，看護師，助産師として実務経験のある教員による授業である。
39	手術療法と看護	45	本科目は，看護師として実務経験のある教員による授業である。
40	終末期と看護	30	本科目は，看護師として実務経験のある教員による授業である。
41	看護過程実習	135	本科目は，看護師として実務経験のある教員による授業である。
42	成人看護学概論	15	本科目は，看護師として実務経験のある教員による授業である。
43	成人看護方法論Ⅰ	30	本科目は，看護師として実務経験のある教員による授業である。
44	成人看護方法論Ⅱ	30	本科目は，看護師として実務経験のある教員による授業である。

NO	科目名	単位時間	実務経験内容
45	成人看護方法論Ⅲ	30	本科目は，看護師として実務経験のある教員による授業である。
46	成人看護方法論Ⅳ	30	本科目は，看護師として実務経験のある教員による授業である。
47	老年看護学概論	15	本科目は，看護師として実務経験のある教員による授業である。
48	老年看護方法論Ⅰ	30	本科目は，看護師として実務経験のある教員による授業である。
49	老年看護方法論Ⅱ	30	本科目は，看護師として実務経験のある教員による授業である。
50	小児看護学概論	15	本科目は，看護師として実務経験のある教員による授業である。
51	小児看護方法論Ⅰ	30	本科目は，医師として実務経験のある教員による授業である。
52	小児看護方法論Ⅱ	30	本科目は，看護師として実務経験のある教員による授業である。
53	母性看護学概論	15	本科目は，助産師として実務経験のある教員による授業である。
54	母性看護方法論Ⅰ	30	本科目は，医師，助産師として実務経験のある教員による授業である。
55	母性看護方法論Ⅱ	30	本科目は，医師，助産師として実務経験のある教員による授業である。
56	精神看護学概論	15	本科目は，看護師として実務経験のある教員による授業である。
57	精神看護方法論Ⅰ	30	本科目は，医師として実務経験のある教員による授業である。
58	精神看護方法論Ⅱ	30	本科目は，看護師として実務経験のある教員による授業である。
59	成人・老年看護学実習Ⅰ	135	本科目は，看護師として実務経験のある教員による授業である。
60	成人・老年看護学実習Ⅱ	135	本科目は，看護師として実務経験のある教員による授業である。
61	老年看護学実習	90	本科目は，看護師として実務経験のある教員による授業である。
62	小児看護学実習	90	本科目は，看護師として実務経験のある教員による授業である。
63	母性看護学実習	90	本科目は，看護師，助産師として実務経験のある教員による授業である。
64	精神看護学実習	90	本科目は，看護師として実務経験のある教員による授業である。
65	在宅看護概論	15	本科目は，看護師として実務経験のある教員による授業である。
66	在宅看護方法論Ⅰ	30	本科目は，看護師，保健師として実務経験のある教員による授業である。
67	在宅看護方法論Ⅱ	30	本科目は，看護師として実務経験のある教員による授業である。
68	医療安全	15	本科目は，看護師として実務経験のある教員による授業である。
69	災害看護	30	本科目は，看護師，保健師として実務経験のある教員による授業である。
70	国際看護	15	本科目は，看護師として実務経験のある教員による授業である。
71	看護専門職論	30	本科目は，看護師として実務経験のある教員による授業である。
72	ケーススタディ	30	本科目は，看護師として実務経験のある教員による授業である。
73	看護研究Ⅰ	30	本科目は，看護師として実務経験のある教員による授業である。
74	看護研究Ⅱ	60	本科目は，看護師として実務経験のある教員による授業である。
75	看護技術総合評価Ⅰ	30	本科目は，看護師，助産師として実務経験のある教員による授業である。
76	看護技術総合評価Ⅱ	30	本科目は，看護師として実務経験のある教員による授業である。
77	しまの医療と看護Ⅰ	30	本科目は，保健師として実務経験のある教員による授業である。
78	しまの医療と看護Ⅱ	30	本科目は，保健師として実務経験のある教員による授業である。
79	感染症と看護	30	本科目は，看護師として実務経験のある教員による授業である。
80	認定看護セミナー	60	本科目は，看護師，保健師として実務経験のある教員による授業である。
81	在宅看護実習	90	本科目は，看護師，保健師として実務経験のある教員による授業である。
82	統合実習	135	本科目は，看護師，保健師，助産師として実務経験のある教員による授業である。
83	しまの看護実習	45	本科目は，看護師，保健師として実務経験のある教員による授業である。
	合　計	3120	

自然科学Ⅰ

講師:栗和田 隆、錦織 寿、三仲 啓

単位数:1単位　時間数:30時間　授業学年:1学年

必修選択:必修

■科目目標

生物・化学の基礎を再確認し、人体の構造と機能の学習を助けるとともに、物理学の基本法則を理解して、看護技術のエビデンスの理解につなげる基礎的能力を養う

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	(生物1)生物の性質、生物学の範囲	講義	講義の内容について復習を行うこと
2	(生物2)細胞の構造と機能、呼吸	講義	教科書を予め読んでおくこと
3	(生物3)血液と循環器系	講義	教科書を予め読んでおくこと
4	(生物4)消化と吸収、神経の働き	講義	教科書を予め読んでおくこと
5	(生物5)遺伝の仕組みとバイオテクノロジー	講義	講義の内容について復習すること
6	(化学1)看護における化学の必要性、物質の構成について理解できる	講義・演習	医療における化学薬品の使用の歴史を予習することが望ましい
7	(化学2)イオン結合、共有結合、金属の性質などを理解し、モルの概念を理解できる	講義・演習	中学校～高校の化学について復習しておくことが望ましい
8	(化学3)モル当量の計算ができる。また、気体の性質を理解できる	講義・演習	授業後の復習を行うこと
9	(化学4)浸透圧、化学反応式について理解できる	講義・演習	小テストの実施。授業後の復習を行うこと
10	(化学5)化学平衡、酸と塩基について理解できる。また、pH計算ができる	講義・演習	小テストの実施。授業後の復習を行うこと
11	(物理1) 作用・反作用の法則が理解できる。重さと質量の違いが理解できる	講義・演習	小テストの実施
12	(物理2)力の合成・分解により3つ以上の力のつりあいが理解できる。摩擦力の性質を学ぶ	講義・演習	小テストの実施
13	(物理3)物体に働く力がつり合うには力のモーメントのつり合いも必要であることを理解する	講義・演習	小テストの実施
14	(物理4)重心位置の影響，ボディメカニックスを学ぶ	講義・演習	
15	(物理5)圧力(水圧，大気圧)を理解する。血圧の意味と測定原理を理解する	筆記試験	小テストの実施

■受講上の注意
(生物)わからない内容があれば高校の教科書等で復習し授業中に質問すること。
(化学)中学、高校の内容を復習しておくことが望ましい

■成績評価の方法
(生物)終講試験100%
(化学)終講試験(80%)、小テスト(20%)により総合的に評価する。
(物理)終講試験(内容は毎回の小テストと同様なもの)

■テキスト参考書など
(生物・化学)やりなおし　生物　化学　照林社(物理)「やりなおし　数学　物理」照林社

■備考
中学、高校の教科書に目を通しておくこと
割合・比例配分の計算練習や物理の練習問題として以下を自習するとよい。
(物理)毎回プリントを配付する

自然科学Ⅱ（化学）:選択制

講師:錦織 寿

単位数:1単位　時間数:30時間　授業学年:1学年

必修選択:選択必修

■科目目標

化学の理解を深め、基礎医学や看護学につながる化学の基礎的知識を養う

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	自然化学Ⅰの復習:モル当量計算ができる	講義・演習	自然化学Ⅰの内容を復習しておく
2	水の性質について理解できる	講義・演習	自然化学Ⅰの内容を復習しておく
3	濃度計算ができる	講義・演習	課題演習の実施
4	化学平衡について理解できる	講義・演習	授業後、復習を行なうこと
5	pH計算ができる	講義・演習	小テストの実施
6	化学反応式が作成できる	講義・演習	授業後、復習を行なうこと
7	原子の構造を理解できる	講義・演習	授業後、復習を行なうこと。
8	物体間に働く力を理解できる	講義・演習	授業後、復習を行なうこと。
9	化学反応のエネルギー変化を理解できる	講義・演習	授業後、復習を行なうこと。
10	有機化合物（炭化水素）の性質について理解できる	講義・演習	分子模型の利用
11	有機化化合物（芳香族）の性質について理解できる	講義・演習	分子模型の利用
12	生体内のエネルギー生産について理解できる	講義・演習	授業後、復習を行なうこと
13	浸透圧について理解できる	講義・演習	小テストの実施
14	各種の濃度計算ができる	講義・演習	自然化学Ⅰの内容を復習しておく
15	終講試験とまとめ	筆記試験	

■受講上の注意
中学、高校の内容を復習しておくことが望ましい

■成績評価の方法
終講試験（80%）、小テスト（20%）により総合的に評価する。

■テキスト参考書など
『やりなおし　生物　化学』照林社□適宜、資料プリントを配布する

■備考
中学、高校の教科書に目を通しておくこと

自然科学Ⅱ（物理）:選択制

講師:三仲 啓

単位数:1単位　時間数:30時間　授業学年:1学年

必修選択:選択必修

■科目目標

看護の現場や日常生活で必要となる動作や操作を物理学の基本法則に基づいて
合理的に考え，実行・対処できるようになる

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	静止している物体に働く複数の力を正しく指摘できる	講義・演習	自然科学Ⅰ「力のつり合い」の復習 小テストの実施
2	斜面上の物体やファウラー位の患者に働く力を理解できる	講義・演習	小テストの実施
3	圧力の知識を基に浮力やサイフォンの原理を理解し，看護現場での応用例を知る	講義・演習	自然科学Ⅰ「圧力」の復習 演示実験，小テストの実施
4	定圧装置の原理を理解し，吸引などへ応用例を知る	講義・演習	圧力の演習問題 小テストの実施
5	運動の法則（運動方程式）と運動量の概念を使い，物体に働く力と速度の変化の関係が理解できる	講義・演習	小テストの実施
6	物体の運動エネルギーと物体が受ける仕事の関係から，物体が受ける力の大きさを小さくする方法が理解できる	講義・演習	小テストの実施
7	力学的エネルギーの保存則と一般のエネルギー保存則が理解できる	講義・演習	小テストの実施
8	熱の基本的な性質と熱の伝わり方が理解できる	講義・演習	小テストの実施
9	気体の基本性質を知り，酸素ボンベの圧力と残量の関係などが理解できる	講義・演習	小テストの実施
10	日常生活でも必要な電気の基礎知識（電圧，電流，電力）を基に，電気器具を安全に使用できる	講義・演習	小テストの実施
11	波動の振幅，振動数，周期，波長，速さなど基礎概念を知り，人の耳の性質が理解できる	講義・演習	小テストの実施
12	カメラやファイバースコープなどの光学器械の原理と人の目の構造と性質が理解できる	講義・演習	小テストの実施
13	電磁波の種類とそれぞれの性質が理解できる	講義・演習	小テストの実施
14	放射線の種類を理解し，その危険性と有効利用法を知る	講義・演習	小テストの実施
15	まとめと終講試験	筆記試験	

■受講上の注意
毎回の小テストは周囲の者と相談して解答するとよい。演習の時間が足りないので下記の参考書を自習すること。

■成績評価の方法
終講試験（内容は毎回の小テストと同様なもの）

■テキスト参考書など
物理の練習問題として以下を自習するとよい。「やりなおし　数学　物理」照林社

■備考
毎回プリントを配布する

論理的思考

講師：村上 光朗

単位数：1単位　時間数：30時間　授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

日本語の表現方法の基礎的知識を再確認し、読解力、記述力の向上を目指すとともに、論理的思考の強化を図り、主体的な判断能力、推論能力を養うとともに、論理的な文章を推敲する基礎的能力を養う

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	発想法—まずはイメージから	講義	配布したレジュメは必ずファイルする
2	短い文章・文学作品の作成	講義	課せられた宿題はきちんと提出すること
3	キーワードから文章化へと	グループワーク、講義	グループワークに主体的に参加すること
4	接続詞を大切にする	講義	与えられた課題を予習しておくこと
5	映像をもとにして文章化する	鑑賞、ワーク	映像鑑賞に真剣に向き合うこと
6	映像をもとにして脚本化する	グループワーク、講義	グループワークを人任せにしないこと
7	ルーブリックとは何か	講義	ルーブリックの構造を理解する
8	ルーブリックの作成	グループワーク、講義	より精度の高いルーブリックを作成する
9	脚本化した作品の発表	プレゼンテーション	ルーブリックを活用して評価する
10	図式的思考を大切にする	講義	看護場面での図式的応用を考える
11	文献を読む—マナーを考える	講義	看護におけるマナーを論理的に考える
12	文献を引用して文章化する	講義、ワーク	文章作法を改めて考えて文章化する
13	文献を読む—ケアとキュア	講義	看護におけるケアを論理的に考える
14	難しい文章に挑戦する	講義、ワーク	論理的かつ長文の文章を作ってみる
15	まとめと試験	筆記試験	復習を十分に行い試験に臨むこと

■受講上の注意
与えられた課題や宿題は、様式や決まりを守り、きちんとやり遂げて期日までに必ず提出すること

■成績評価の方法
課題レポート及び各種提出物（50%）、試験（50%）

■テキスト参考書など
加野芳正編著『マナーと作法の社会学』（東信堂）加野芳正編『看護の人間学—癒しとケアの時代に向けて』（世織書房）他

■備考
レジュメや参考資料等は適宜配布する（ファイルし、整理しておくこと）

情報科学

講師：福崎 賢治

単位数：1単位　時間数：30時間　授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

コンピュータリテラシー、情報倫理、情報セキュリティに関する知識を習得し、情報処理の基本的能力を養う

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	レポートを作成できる1	講義・演習	
2	レポートを作成できる2	講義・演習	予習を行うこと
3	案内文を作成できる1	講義・演習	予習を行うこと
4	案内文を作成できる2	講義・演習	予習を行うこと
5	表を作成できる1	講義・演習	予習を行うこと
6	表を作成できる2	講義・演習	予習を行うこと
7	グラフを作成できる1	講義・演習	予習を行うこと
8	グラフを作成できる2	講義・演習	予習を行うこと
9	データベースを使える1	講義・演習	予習を行うこと
10	データベースを使える2	講義・演習	予習を行うこと
11	表計算ソフトの関数を使える1	講義・演習	予習を行うこと
12	表計算ソフトの関数を使える2	講義・演習	予習を行うこと
13	表計算ソフトの関数を使える3	講義・演習	予習を行うこと
14	情報倫理を理解できる	講義・演習	予習を行うこと
15	情報セキュリティを理解できる	講義・演習	予習を行うこと

■受講上の注意
予習を必ず実施すること

■成績評価の方法
平常点30%、授業中の提出課題70%により総合的に評価する

■テキスト参考書など
なし

■備考
毎回参考プリントを配布する

基礎統計

講師：福崎 賢治

単位数：1単位　時間数：30時間　授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

数的計算方法および統計学の基礎知識を習得し、医療・看護場面で求められる量的データを扱う基礎能力を養う

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	看護に必要な計算の概略を理解できる	講義・演習	小テストの実施
2	分数と少数の扱いを理解する	講義・演習	予習を行うこと
3	0乗、マイナス乗を理解できる	講義・演習	予習を行うこと
4	正比例を使える	講義・演習	予習を行うこと、小テストの実施
5	単位の考えを理解できる	講義・演習	予習を行うこと
6	単位の接頭語を理解できる	講義・演習	予習を行うこと、小テストの実施
7	単位の換算ができる	講義・演習	予習を行うこと
8	溶液の濃度を理解できる	講義・演習	予習を行うこと、小テストの実施
9	圧力の単位を理解できる	講義・演習	予習を行うこと
10	薬容量の計算ができる	講義・演習	予習を行うこと、小テストの実施
11	点滴の計算ができる	講義・演習	予習を行うこと
12	希釈の計算ができる	講義・演習	予習を行うこと、小テストの実施
13	酸素ガスの計算ができる	講義・演習	予習を行うこと
14	BMI、カロリー計算ができる	講義・演習	予習を行うこと、小テストの実施
15	終講試験およびまとめ	筆記試験	

■受講上の注意
予習を必ず実施すること、宿題を課すので必ず実施すること。

■成績評価の方法
平常点10%、小テスト・課題20%、試験70%により総合的に評価する

■テキスト参考書など
『やり直し　数学　物理』時政孝之著、照林社

■備考
資料プリントは適宜配布する

生活科学

講師：坂上 ちえ子、有村 恵美、木下 朋美、宍戸 克実

単位数：1単位　時間数：30時間　授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

多様化する生活、それを取りまく生活環境（衣食住を含めて）を理解するとともに、自らの生活を振り返り、よりよい生活、生活環境について考え、人間・生活を把握する基礎的能力を養う。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	衣生活―1 繊維や織物、布に備わる性質と特徴について興味を持って理解できる （坂上）	講義	ワークシートに要点を記入しながら受講すること
2	衣生活―2 被服の役割や環境への適応性について関心を持って理解できる（坂上）	講義	ワークシートに要点を記入しながら受講し、簡単な実験にも取り組むこと
3	衣生活―3 被服選択や管理のために必要な知識を主体的に理解できる（坂上）	講義	ワークシートに要点を記入しながら受講し、簡単な実習にも取り組むこと
4	衣生活―4 高齢者、障害者用衣服の素材や機能性について具体的に理解できる（坂上）	講義・グループワーク	ワークシートに要点を記入しながら受講し、グループで協力して演習内容にも取り組むこと
5	衣生活―5 終講試験とまとめ（坂上）	筆記試験	食生活―1 食品の機能が理解できる
6	食生活―1 食品の機能が理解できる（有村・木下）	講義	主体的に取り組むこと
7	食生活―2 栄養素、食品ごとの種類と食品の調理性が理解できる（有村・木下）	講義	主体的に取り組むこと
8	食生活―3 食生活と健康について理解できる（有村・木下）	講義	主体的に取り組むこと
9	食生活―4 食生活指針について理解できる（有村・木下）	講義	主体的に取り組むこと
10	食生活―5 食生活のチェックを通して食事バランスガイドについて理解できる まとめと試験（有村・木下）	講義・筆記試験	主体的に取り組むこと
11	住生活―1 住生活の歴史や間取りの変遷について理解できる（宍戸）	講義・グループワーク	授業中に作図ワークを実施
12	住生活―2 住空間の構成について理解できる（宍戸）	講義・グループワーク	授業中に作図ワークを実施
13	住生活―3 安全な住まい、機能的な住まいについて理解できる（宍戸）	講義・グループワーク	授業中に作図ワークを実施
14	住生活―4 多様な居住スペース、ライフスタイルについて理解できる（宍戸）	講義・グループワーク	
15	住生活―5 終講試験・まとめ（宍戸）	講義・筆記試験	

■受講上の注意

（衣生活）

テキスト代わりのプリント（ワークシートも兼ねる）を毎週配布するので、前回分も毎時間忘れないよう持参すること、また、ワークシートの記入や実験、グループワークには積極的に取り組むこと

■成績評価の方法

衣生活・食生活・住生活それぞれ講義終了後に、筆記試験を行い総合的に評価を行うので時期については講義開始時に提示する

（衣生活）試験（90%）授業への参加態度（10%）により総合的に評価する

（食生活）試験と課題提出により総合的に評価する

（住生活）試験70%,授業中の課題提出20%,授業参加度10%などにより総合的に実施

■テキスト参考書など

参考図書：増田奏「住まいの解剖図鑑」エクスナレッジ

■備考

資料プリントは適宜配布する

法学

講師:池田 哲之

単位数:1単位　時間数:30時間　授業学年:3学年

必修選択:必修

■科目目標

人々の生活を守る法、とりわけ憲法についての理解を深め、法的なものの見方と
論理的思考の基礎的能力を養う
1. 立憲主義への理解をふまえ、日本国憲法に関する基本知識を身につけている。
2. 現代憲法の意義・役割を、日々の生活との関連において説明できる。
3. 社会における諸課題解決の方策を、憲法および実定法を軸に構想・提示することができる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	現代立憲主義と憲法の関係性を理解する	講義	「受講上の注意」参照
2	法の一般原則を学ぶ	講義	「受講上の注意」参照
3	わが国の刑罰種を知る	講義	「受講上の注意」参照
4	人権の諸相を把握する	講義	「受講上の注意」参照
5	日本国憲法の構造を理解する	講義	「受講上の注意」参照
6	立法府の権能を学ぶ	講義	「受講上の注意」参照
7	行政府の権能を学ぶ	講義	「受講上の注意」参照
8	裁判制度について知る	講義	「受講上の注意」参照
9	中間まとめ(発表)	グループワーク	課題によるレポート作成または発表
10	人権の享有主体について学びとる	講義	「受講上の注意」参照
11	私人間における憲法効問題について理解する	講義	「受講上の注意」参照
12	精神的自由権の意義を理解する	講義	「受講上の注意」参照
13	経済的自由権とその規制法理について学ぶ	講義	「受講上の注意」参照
14	社会権の意義および現代的課題を知る	講義	「受講上の注意」参照
15	終講試験およびまとめ	筆記試験	

■受講上の注意
テキストにおける講義該当箇所を事前に読んでおくこと。新聞・インターネットな
ど利活用し、時事問題を法的観点から考察する習慣をつけること。

■成績評価の方法
科目目標への到達度合いを、筆記試験(80%)、レポート・発表(10%)、授業への参加態度(10%)の配分で評価する

■テキスト参考書など
・主教材　図録　日本国憲法　講義レジュメを適宜配布する。・副教材　駒村圭吾編『プレステップ憲法』(弘文堂)ISBN－9784335000

■備考
上記内容は、受講生の理解度その他の事情によって、変更となる場合があります。

社会学

講師：山田 晋

単位数：1単位　時間数：30時間　授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

社会の仕組みや人間と社会の相互作用について学ぶとともに、現代社会の現状・問題を理解する。合わせて、人間生活と文化について理解を深め、文化的側面から人間をとらえる基礎的能力を養う
社会学を学ぶと世界と日本の見る目が変わる。いま世の中、悲しいこと、残酷な出来事が起こっている。解決すべき差し迫った問題が山積している。前半は「世界のいま」と向き合い、「いのち・戦争と平和」「貧困と飢餓」について、後半は「日本の現状」を見つめ、みんなで一緒に考え交流する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	＜開講にあたって＞ ①スタートラインに立った今の心境、初心、決意を確認 ②講義概要、受講上の確認	講義・グループワーク・VTR	①黙想、振り返り、目標設定 ②「こよみ社会学」−世界日本の社会文化を学ぶ ③新聞記事を通して「社会のいま」を学ぶ ④毎週参加型授業、事前学習
2	社会学とは何か、どんな学問？ ①広い社会＝世界と日本のいまをどう読む？ ②狭い社会＝家族・地域・学校・病院で何が？	講義・グループワーク・VTR	社会学の第一歩は「個＝私」を知ること。まず自己分析、自己開示のワークを実施
3	いま世界はどのような状況？ どんな問題が起こっている？ ワークを通して国際理解を深め。課題を考える	講義・グループワーク・VTR	①いま世界で気になっていること、心配なこと、解決してほしい問題は何か？ ②20～21世紀−いま時代の「光と影」を探すワーク
4	「いのちは地球より重い」をテーマに世界の戦争体験を通して＜いのちの平和の尊さ＞について学ぶ	講義・グループワーク・VTR	映像資料を通して戦争の悲劇、残酷性
5	5秒に一人の子どもが貧困と飢えで亡くなっている世界の現実。現実は？問題解決の道を探る	講義・グループワーク・VTR	発展途上国の子どもたち−栄養失調、児童労働、児童買春の現状を映像を通して考える
6	途上国の医療保健福祉の現状を学び、日本がどう協力しているか、日本人の活躍は？	講義・グループワーク・VTR	妊産婦と子どもたちの命の危機、国境なき医師団をはじめ日本人医療、看護スタッフから学ぶ
7	地球温暖化、原発をめぐる環境問題と差別・人権問題の2つについて学ぶ	講義・グループワーク・VTR	①環境問題の現状、原因、対策についてワークで学ぶ ②差別とは？どんな差別があるか？差別をなくすには？
8	講義後半、日本社会の「光と影」（プラス・マイナス）をチェック、「平和・豊かさ、幸福度」について学ぶ	講義・グループワーク・VTR	事前学習の課題＝「日本、鹿児島の良いところ、好きなところ、気になること」チェック、ワークをする
9	日本の現状、深刻な問題は何かを問いワークを通して社会病理について理解、課題を明らかにする	講義・グループワーク・VTR	事前学習＝日本の外交、政治、経済、教育、医療、福祉、文化等、「解決してほしい問題ベスト3」を調べ、交流する
10	超高齢社会の現状と問題点は何か、介護医療をめぐる課題を探る	講義・グループワーク・VTR	事前学習＝「高齢者は生活の中でどんな不安、悩みを抱いているか」を調べる
11	障がい者、子ども、若者をめぐる現状と課題を明らかにする	講義・グループワーク・VTR	事前学習＝①障害とは何か、どう理解するか？ ②子ども、若者たちをめぐってどんな問題があるか？
12	日本の男女平等度世界で114位、なぜこんなに低いの？女性人権小国の現状にメスを入れる	講義・グループワーク・VTR	①ジェンダーとは何か？ ②ネットで「ジェンダー・チェック」をしてみよう
13	「女らしさ・男らしさ」って何？なぜ性別役割分担意識が根強いの？女性差別とは？	講義・グループワーク・VTR	①女・男らしさについてどう思う？ ②「男は仕事、女は家事育児」という考え方、どう思う？
14	日本の自殺率世界6位、男女比は7：3．世界で男12位、女3位。びっくりの現実と背景を探る	講義・グループワーク・VTR	誰もが自殺に追い込まれたことのない「生き心地のよい社会」をどうつくるか？男性問題も問う
15	講義のまとめと世界と日本の展望と課題を探り、自分に何ができるか、どう生きるかを問う	講義・グループワーク・VTR	①全講義の中で最も関心をもった授業ベスト3 ②映像資料で心動かされたベスト3

■受講上の注意

①毎週、受講感と新聞記事（2つ選ぶ）のコメントを提出すること
②事前学習をし、グループワークで積極的に交流する
③居眠りをしないこと

■成績評価の方法

①最終レポート（60%）　②毎週の課題（30%）
③授業への参加度（10%）

■テキスト参考書など

＜参考書＞
①「健康と社会・生活（第4版）」メディカ出版,2016年　②「系統看護学講座・社会学」医学書院,2012年

■備考

毎週、授業のレジュメ、新聞記事（A3裏表2枚−世界、日本、医療、看護、福祉、健康情報）を配布する

家族論

講師：山田 晋

単位数：1単位　時間数：15時間　授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

現代社会の家族の現状と家族関係の基礎理論を学び、家族の在り方と役割について理解を深め、家族理解の基礎的能力を養う
看護師にとって人間生活の基盤・拠点としての家族及び家族関係に関する理解、認識は重要である。本講は家族社会学、社会福祉の視点から家族問題、夫婦関係論、親子関係論、家族支援、ワーク・ライフ・バランスについて学ぶ。加えて、家族を支える福祉・心理・看護のアプローチについても取り上げる

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	開講にあたって、授業ガイダンス ①「家族」といえばどんな事を連想する？イメージは？ ②家族理解、なぜ大事？	黙想・生活振り返りと目標・講義・グループワーク	①毎週、受講感と授業関連、新聞記事の感想文を提出 ②毎週、グループワーク、発表
2	①家族の構造、機能は何か？ ②家族はどのように変わってきたか？多様化する家族	講義・グループワーク・VTR	「家族とは何か」について予習を行うこと
3	家族リスク・家族問題とは何か？−夫婦、親子、介護をめぐって考える	講義・グループワーク・VTR	「家族をめぐってどんな問題が起こっているか」事前学習すること
4	家族形成論として恋愛、配偶者選択と結婚について交流、理解を深める	講義・グループワーク・VTR	私の恋愛観、結婚観についてまとめ、グループワークを行う
5	ジェンダーの視点から夫と妻（父と母）の役割と常識、葛藤と離婚について学ぶ	講義・グループワーク・VTR	「性別枠割分担」「産後うつ」について事前学習をする
6	支援を必要とする家族−子ども障がい者、高齢者−についての理解と支援の方法を学ぶ	講義・グループワーク・VTR	「支援を必要としている家族」について調べておくこと
7	患者家族はどんな問題に直面するか？家族のストレスマネジメントと家族との関係づくりについて学ぶ	講義・グループワーク・VTR	「患者家族ケアのガイドライン」と「日本看護協会と家族支援」について事前学習すること
8	まとめとして家族の現状とあり方、未来について考え、看護師として「仕事と生活の調和」をめぐって考える	講義・グループワーク・VTR	「看護労働の実態について」調べ、「看護協会のワーク・ライフ・バランス」について事前学習をする

■受講上の注意
①毎週、受講感と新聞記事のコメントを提出すること⑵事前学習をし、グループワークで積極的に交流する⒀居眠りをしないこと

■成績評価の方法
①最終レポート（60%）⑵毎週の課題レポート（30%）⒀授業への参加度（10%）

■テキスト参考書など
＜参考書＞⑴「系統看護学講座・家族看護学」医学書院,2013年⑵「系統看護学講座・家族論・家族関係論」医学書院,2018年

■備考
毎週、授業のレジュメ、資料、新聞記事（家族関連等）を配布する

心理学

講師:蓑毛 良助

単位数:1単位　時間数:30時間　授業学年:1学年

必修選択:必修

■科目目標

心理学の基礎的理論を学び、人のこころと行動を深く理解する基礎的能力を養う

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	発達援助の手順と心理学分野について理解できる	講義	テキストの該当箇所を予習すること
2	発達の原則と段階、胎児の発達が理解できる	講義	テキストの該当箇所を予習すること
3	乳児の発達が理解できる	講義	テキストの該当箇所を予習すること
4	幼児の発達と心理が理解できる	講義	テキストの該当箇所を予習すること
5	児童の発達と心理が理解できる	講義	テキストの該当箇所を予習すること
6	青年の心理が理解できる	講義	テキストの該当箇所を予習すること
7	成人の心理が理解できる	講義	テキストの該当箇所を予習すること
8	知能の心理と知能検査が理解できる	講義	テキストの該当箇所を予習すること
9	高齢者の心理が理解できる	講義	テキストの該当箇所を予習すること
10	性格の心理と性格検査が理解できる	講義	テキストの該当箇所を予習すること
11	カウンセリングについて理解できる	講義	テキストの該当箇所を予習すること
12	医療と心理学の関連が理解できる	講義	テキストの該当箇所を予習すること
13	視覚障害児の心理と在宅医療について理解できる	講義	テキストの該当箇所を予習すること
14	聴覚障害児の心理が理解できる	講義	テキストの該当箇所を予習すること
15	まとめ	筆記試験	

■受講上の注意
適宜グループワークを行うので、主体的に参加する

■成績評価の方法
出席状況と受講態度と課題評価、終講試験を総合的に評価する

■テキスト参考書など
『心理学』 医学書院適宜、資料を配布する参考文献は講義中に提示する

■備考

人間関係論

講師：田沼 利枝

単位数：1単位　時間数：30時間　授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

人間を見つめ、人と人とのつながりを大切にして、基本的なコミュニケーションから人間関係を発展させるための基礎的能力を養う

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	人間関係の基本である自己理解、自己受容について理解できる。	講義・個人ワーク	テキストの「はしがき」と「目次」を読んでおくこと。 講義終了後ミニレポート提出
2	人間関係の基本である自己理解、自己受容について理解できる。	講義・個人ワーク	テキストの「はしがき」と「目次」を読んでおくこと。 講義終了後ミニレポート提出
3	人間関係の諸問題を学習するための基礎的知識について理解できる。 社会的役割に基づく様々な相互作用が展開されることで援助的人間関係が理解できる	講義・個人ワーク	テキストの第1章、第2章を読んでおくこと。 講義終了後ミニレポート提出
4	人間関係の諸問題を学習するための基礎的知識について理解できる。 社会的役割に基づく様々な相互作用が展開されることで援助的人間関係が理解できる	講義・個人ワーク	テキストの第1章、第2章を読んでおくこと。 講義終了後ミニレポート提出
5	コミュニケーションについての基礎的な知識について理解できる。	講義・個人・グループワーク	テキストの第3章を読んでおくこと。 講義終了後ミニレポート提出
6	コミュニケーションについての基礎的な知識について理解できる。	講義・個人・グループワーク	テキストの第3章を読んでおくこと。 講義終了後ミニレポート提出
7	カウンセリングの理論と技法について理解できる。ロールプレイを通して受容的共感的態度を理解できる。	講義・グループワーク	テキストの第4章を読んでおくこと。 講義終了後ミニレポート提出
8	カウンセリングの理論と技法について理解できる。ロールプレイを通して受容的共感的態度を理解できる。	講義・グループワーク	テキストの第4章を読んでおくこと。 講義終了後ミニレポート提出
9	グループによる体験学習を通して、コミュニケーションや人間関係に関するスキルを実践的に身につけることができる。	講義・個人ワーク	テキストの第5章を読んでおくこと。 講義終了後ミニレポート提出
10	グループによる体験学習を通して、コミュニケーションや人間関係に関するスキルを実践的に身につけることができる。	講義・個人ワーク	テキストの第5章を読んでおくこと。 講義終了後ミニレポート提出
11	看護における人間関係について医療チームにおける看護師の役割を理解できる。 終末期の患者と家族を支えるための看護師の役割を理解できる	講義・個人ワーク・DVD	テキストの第6章、第7章、第8章を読んでおくこと。 講義終了後ミニレポート提出
12	看護における人間関係について医療チームにおける看護師の役割を理解できる。 終末期の患者と家族を支えるための看護師の役割を理解できる	講義・個人ワーク・DVD	テキストの第6章、第7章、第8章を読んでおくこと。 講義終了後ミニレポート提出
13	家族を援助する看護師の役割について理解できる。	講義・個人ワーク・DVD	テキストの第9章を読んでおくこと。 講義終了後ミニレポート提出
14	家族を援助する看護師の役割について理解できる。	講義・個人ワーク・DVD	テキストの第9章を読んでおくこと。 講義終了後ミニレポート提出
15	終講試験とまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

学習の振り返りのために毎回ミニレポートを提出のこと。由体的に講義に臨み、気づきを深めてほしい。

■成績評価の方法

授業への参加態度（10%）、授業後のミニレポート（40%）、試験（50%）により総合的に評価

■テキスト参考書など

「人間関係論」医学書院□参考書は適宜授業の中で紹介

■備考

資料プリントは適宜配布する

外国語

講師：飯田 敏博、永田 かなえ

単位数：1単位　時間数：30時間　授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

医療で使われる英語に親しむとともに、英語の4技能（聞き、話し、読み、書く）の基礎的な力を身に付けることができる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	病院の受付時の会話を理解できる	講義・グループワーク	医療英語を予習・復習すること
2	初診時の医師、患者の会話、処方箋の英語を理解できる	講義・グループワーク	医療英語を予習・復習すること
3	患者と医師の会話（片頭痛）を理解できる	講義・グループワーク	医療英語を予習・復習すること
4	患者と医師の会話（胃痛）を理解できる	講義・グループワーク	医療英語を予習・復習すること
5	薬の使用法に関する英語を理解する	講義・グループワーク	医療英語を予習・復習すること
6	患者と医師の会話（不眠症）を理解できる	講義・グループワーク	医療英語を予習・復習すること
7	患者と医師の会話（気管支炎）を理解できる	講義・グループワーク	医療英語を予習・復習すること
8	患者と医師の会話（糖尿病）を理解できる	講義・グループワーク	医療英語を予習・復習すること
9	ビタミンの重要性に関する英語を理解する	講義・グループワーク	医療英語を予習・復習すること
10	患者と医師の会話（食生活改善）を理解できる	講義・グループワーク	医療英語を予習・復習すること
11	患者と医師の会話（感冒）を理解できる	講義・グループワーク	医療英語を予習・復習すること
12	患者と医師の会話（花粉症）を理解できる	講義・グループワーク	医療英語を予習・復習すること
13	患者と医師の会話（毛根管症候群）を理解できる	講義・グループワーク	医療英語を予習・復習すること
14	患者と医師の会話（毛根管症候群の対処法）を理解できる	講義・グループワーク	医療英語を予習・復習すること
15	終講試験とまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

授業の予習を必ず行うこと。テキストと、英和・和英辞典、あるいは電子辞書（英和・和英機能のあるもの。英英辞典の機能が付くとさらに良い）を必ず持参すること。予習・復習の際に英語の音読を行うこと。

■成績評価の方法

試験（80%）、授業への参加態度（20%）

■テキスト参考書など

テキスト：English for Medicine（医療・看護のためのやさしい総合英語） 金星堂

■備考

資料プリントは適宜配布する。

教育原理

講師：杉原 薫

単位数：1単位　時間数：30時間　授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

・「教育とはなにか」について考え、自分なりの答えを他者に伝えることができる
・看護師や養護教諭として果たすべき教育的役割についての基礎知識を実践に応用するための視点を持つことができる
・専門職業人として生涯学習に積極的に取り組もうとする意欲を持つことができる

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	これまでの自分を振り返り、「教育」とは何かについて考える	グループワーク	ワークシートの提出
2	なぜ、「教育」が必要なのかについて考える	講義・グループワーク	ワークシートの提出
3	「教育」の目的について理解する	講義・グループワーク	ワークシートの提出
4	学校外で行われている「教育」の意義について考える	講義・DVD	ワークシートの提出
5	学校で行われている「教育」の意義について考える	講義・グループワーク	ワークシートの提出
6	諸外国における「教育」の状況について理解する	講義・DVD	ワークシートの提出
7	「教師」の役割について理解する	講義・DVD	ワークシートの提出
8	「子ども」とはどのような存在であるか考える	DVD・グループワーク	ワークシートの提出
9	「子ども」への望ましい支援のあり方を考える	講義・グループワーク	ワークシートの提出
10	現代社会における「子ども」を取り巻く問題について理解する―いじめと貧困―	講義・グループワーク	ワークシートの提出
11	現代社会における「子ども」を取り巻く問題について理解する―不登校―	講義・グループワーク	ワークシートの提出
12	「家庭教育」のあり方について考える	講義・グループワーク	ワークシートの提出
13	「生涯学習」の意義について理解する	講義・グループワーク	ワークシートの提出
14	これまでの学びを振り返り、「教育」とは何かについて考える	グループワーク	13回分のワークシートを持参すること ワークシートの提出
15	終講試験とまとめ	筆記試験	14回分のワークシートを持参すること

■受講上の注意
・グループワークに積極的に取り組むこと・他者の言葉に耳を傾けること・自分の考えを他者に伝える努力をすること

■成績評価の方法
・毎回の授業への参加度・ワークシートへの記入状況（50%）・終講試験（50%）

■テキスト参考書など
テキストは使用しない

■備考
・受講者の興味関心により授業内容を変更する場合がある
・毎回の授業においてワークシートを配布するので紛失しないよう保管すること

教育方法と評価

講師:假屋園 明彦

単位数:2単位　時間数:45時間　授業学年:3学年

必修選択:必修

■科目目標

教育方法・評価の基礎的な理論を学び、看護場面に求められる教育力を養う

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	教育方法と評価の関係性が理解できる	講義・グループワーク	主体的に参加し、復習を行うこと
2	授業形態の種類が理解できる	講義・グループワーク	主体的に参加し、復習を行うこと
3	一斉指導の授業展開、指導と評価の一体化と評価規準が理解できる	講義・グループワーク	主体的に参加し、復習を行うこと
4	授業の組み立てが理解できる(導入・展開・終末)発問計画や板書計画が理解できる	講義・グループワーク	主体的に参加し、復習を行うこと
5	授業の組み立てが理解できる(具体例から学ぶ)	講義・グループワーク	主体的に参加し、復習を行うこと
6	学習形態が理解できる(習熟度別授業とチームティーテイング)	講義・グループワーク	主体的に参加し、復習を行うこと
7	学習者中心型授業が理解できる(バス学習・ジグゾー学習互恵的学習)	講義・グループワーク	主体的に参加し、復習を行うこと
8	発見学習・仮説実験授業が理解できる(適正処遇交互作用・交流および共同学習)	講義・グループワーク	主体的に参加し、復習を行うこと
9	知識と記憶について理解できる(短期記憶と長期記憶)	講義・グループワーク	主体的に参加し、復習を行うこと
10	知識と表象について理解できる(スクリプト・スキーマ・ネットワーク表象)	講義・グループワーク	主体的に参加し、復習を行うこと
11	知識と理解について理解できる(知識の獲得、精緻化、体制化、ワーキングメモリ)	講義・グループワーク	主体的に参加し、復習を行うこと
12	文章の理解過程が理解できる(ミクロテキストベース、マクロテキストベース、状況モデル)	講義・グループワーク	主体的に参加し、復習を行うこと
13	メタ認知と評価の役割について理解できる	講義・グループワーク	主体的に参加し、復習を行うこと
14	評価の種類について理解できる(診断的評価・形成的評価)	講義・グループワーク	主体的に参加し、復習を行うこと
15	評価の種類について理解できる(総括的評価・相対的評価・絶対評価・個人内評価)	講義・グループワーク	主体的に参加し、復習を行うこと
16	新しい評価方法について理解できる(ポートフォリオ評価・パフォーマンス評価・ルーブリック評価)評価基準と評価規準	講義・グループワーク	主体的に参加し、復習を行うこと
17	動機づけについて理解できる(動因・誘因・行動・認知的葛藤)	講義・グループワーク	主体的に参加し、復習を行うこと
18	動機づけについて理解できる(欲求の階層・外発的動機づけ・内発的動機づけ)	講義・グループワーク	主体的に参加し、復習を行うこと
19	動機づけについて理解できる(意欲を高めるための環境つくり)	講義・グループワーク	主体的に参加し、復習を行うこと
20	動機づけについて理解できる(達成動機に影響を与える諸要因)	講義・グループワーク	主体的に参加し、復習を行うこと
21	学習の自律性と学習の自己原因性・学習の帰属理論について理解できる	講義・グループワーク	主体的に参加し、復習を行うこと
22	総まとめ　教育方法と知識の構造、教育評価が理解できる	講義・グループワーク	主体的に参加し、復習を行うこと

23	総まとめ 教師主導型授業と学習者中心型授業が理解できる	筆記試験

■受講上の注意

主体的に参加すること

■成績評価の方法

出席状況・受講態度・課題評価と発表・終講試験から総合的に評価する

■テキスト参考書など

毎回資料を配布する

■備考

教育心理

講師:假屋園 明彦

単位数:1単位　時間数:30時間　授業学年:2学年

必修選択:必修

■科目目標

教育場面での学習・発達・適応といった諸現象を心理学の立場から理解し、効果的な学習活動に結び付ける基礎的知識を習得する

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	乳幼児期の人格・情緒発達課題について理解できる	講義・グループワーク	主体的に臨むこと
2	言葉の発達について理解できる	講義・グループワーク	主体的に臨むこと
3	科学的概念と数理解の発達について理解できる	講義・グループワーク	主体的に臨むこと
4	社会的認識の発達	講義・グループワーク	主体的に臨むこと
5	思春期と青年期の人格、情緒発達、発達課題が理解できる	講義・グループワーク	主体的に臨むこと
6	学級運営が理解できる	講義・グループワーク	主体的に臨むこと
7	特別支援教育が理解できる	講義・グループワーク	主体的に臨むこと
8	総まとめと試験	筆記試験	

■受講上の注意
グループワークや課題学習に対して主体的に臨む

■成績評価の方法
出席状況・受講態度・課題評価と発表・終講試験を総合的に評価する

■テキスト参考書など
毎回資料プリントを配布する

■備考

討議法

講師：假屋園 明彦

単位数：1単位　時間数：30時間　授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

討議法による協同学習の体験を通して、問題解決能力、課題達成能力を養う

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	協同学習の目的と意義・自己開示について理解できる	講義・演習	主体的に参加すること
2	協同学習の理論背景：ヴィゴツキー、バフチン、メルロ、ポンティの理論が理解できる 協同問題解決の演習	講義・演習	主体的に参加すること
3	協同学習でみられる諸現象・協同学習演習（法則発見型）が理解できる	講義・演習	主体的に参加すること
4	協同学習を捉える際の基本的指標が理解できる 協同学習演習（情報統合型）	講義・演習	主体的に参加すること
5	人間の精神の社会・文化的構成が理解できる 協同学習演習（情報統合型）	講義・演習	主体的に参加すること
6	心の社会的構成が理解できる 協同学習演習（倫理問題）	講義・演習	主体的に参加すること
7	対話学習と社会的構成主義が理解できる 協同学習演習（倫理問題）	講義・演習	主体的に参加すること
8	コミュニケーションにおける自己と他者について理解できる 協同学習演習（人間関係つくり）	講義・演習	主体的に参加すること
9	コミュニケーション過程でみられる諸現象が理解できる 協同学習演習（人間関係つくり）	講義・演習	主体的に参加すること
10	対人関係技能促進訓練（Social Skill Training）の理論が理解できる（その1）	講義・演習	主体的に参加すること
11	対人関係技能促進訓練（Social Skill Training）の理論が理解できる（その2）	講義・演習	主体的に参加すること
12	構成的グループエンカウンターの理論が理解できる（その1）	講義・演習	主体的に参加すること
13	構成的グループエンカウンターの理論が理解できる（その2）	講義・演習	主体的に参加すること
14	LTD話し合い学習法の理論が理解できる（その1）	講義・演習	主体的に参加すること
15	LTD話し合い学習法の理論が理解できる（その2） まとめ	講義・演習・筆記試験	主体的に参加すること

■受講上の注意
演習では、他者の意見をよく聞き、主体的に自分の考えを述べるよう努力する

■成績評価の方法
出席状況・受講態度・課題評価と発表・終講試験を総合して評価する

■テキスト参考書など
適宜資料を配布する参考文献は、講義の中で紹介する

■備考

キャリア開発

講師：中村 直也

単位数：1単位　時間数：15時間　授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

初年次教育として、学問的・社会的な体験からキャリア意識の醸成を図り、専門職業人としての基礎的能力を養う

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	自らのｱｲﾃﾞﾝﾃｨﾃｨｰを整理、分析し、自分を知り、他人と異なる考え・思い・存在であることに気づく	演習(ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ)	自分を素直に見ること、他人を否定しないことを意識してｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸを行う
2	集団の中の自分の役割に気づき、自分の存在必要性があることを知る	演習(ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ)	適宜変化する環境の中での自分の思いの変化に気づき、協力していることを感じる
3	専門職業人となるにあたって、業界の基礎的知識を学ぶ	講義	制度を含めた働く業界を知ることにより、これから進むべき道を細路化し、全ての学習必要性を知る
4	学ぶことの意味を知り、自分にとっての学習を考える	講義	考えを変えることの必要性と、しっかりと維持することの大切さの両方の視点をもち参加する
5	ある材料から必要な情報を引き出し活用する能力を学ぶ	講義	整理したｱｲﾃﾞﾝﾃｨﾃｨｰが自分の選択肢にどう影響するかを意識しながら学ぶ
6	学習のために、必要なものには何があるかをみんなで考えることにより、学習意識を向上させ、さらに集団力を持つようにする	演習（グループワーク）	楽しく、いろいろな視点で考え、発表すること
7	自らの思いと、他人からの見られ方の違いを実感する	演習（グループワーク）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝの絶対的必要性である相互の理解ができるよう、質問、返答を丁寧に素直にする
8	自己分析理解度及びキャリア思考会得テストを実施する	評価	自らを素直に振り返り表現し、また人を理解することの難しさと、しようとすることの嬉しさを感じる

■受講上の注意

ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸでは個人的な事象が発せられることがあるため、知り得たことは、授業内のみのものとすること。また、他人を否定、強制しないよう受講すること。

■成績評価の方法

キャリア的思考、行動に気づくことが出来るようになったかを課題で評価する

■テキスト参考書など

資料配布予定。参考文献は講義の中で紹介する。

■備考

解剖生理学Ⅰ

講師:村田 長芳

単位数:1単位　時間数:30時間　授業学年:1学年

必修選択:必修

■科目目標

人体の発生および構造と機能を系統だてて学び、疾病により生じる構造と機能の変化や看護実践のエビデンスに活用する基礎的能力を養う。
解剖学は大別して肉眼解剖学、顕微解剖学、発生学に分類されますが、神経解剖学もあります。この授業では、解剖学の中のある限られた範囲の講義を行います。限られた時間内に学ぶべき事柄は大変多いです。授業にあたっては予習、復習をきちんと行い、膨大な知識を要領よく系統的に自分のものにする努力が必要です。身体の構造の正確な理解なしに、このあと、看護学科で学ぶたくさんの科目の理解はありえません。自ら学ぶ積極的な姿勢が強く望まれます。受け身の学習は駄目です。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	解剖学の位置づけを知る 医学の歴史の概略を知る 核酸、五大栄養素について理解できる	講義・DVD・配布資料	2コマ、180分の授業を1日に行う。 その日学んだことを身に付けるため、 次回の授業開始時に20問のクイズを行います
2	細胞、組織、器官、器官系、細胞小器官の全体像が理解できる 研究機器の種類、使用法が理解できる	講義・DVD・配布資料	2コマ、180分の授業を1日に行う。 その日学んだことを身に付けるため、 次回の授業開始時に20問のクイズを行います
3	上皮組織について学習し、その構造と機能が理解できる	講義・DVD・配布資料	2コマ、180分の授業を1日に行う。 その日学んだことを身に付けるため、 次回の授業開始時に20問のクイズを行います
4	結合支持組織について学習し、その構造と機能が理解できる	講義・DVD・配布資料	2コマ、180分の授業を1日に行う。 その日学んだことを身に付けるため、 次回の授業開始時に20問のクイズを行います
5	結合支持組織について学習し、その構造と機能が理解できる	講義・DVD・配布資料	2コマ、180分の授業を1日に行う。 その日学んだことを身に付けるため、 次回の授業開始時に20問のクイズを行います
6	筋組織について学習し、その構造と機能が理解できる	講義・DVD・配布資料	2コマ、180分の授業を1日に行う。 その日学んだことを身に付けるため、 次回の授業開始時に20問のクイズを行います
7	神経組織について学習し、その構造と機能が理解できる	講義・DVD・配布資料	2コマ、180分の授業を1日に行う。 その日学んだことを身に付けるため、 次回の授業開始時に20問のクイズを行います
8	中枢神経系について学習し、その構造と機能が理解できる	講義・DVD・配布資料	2コマ、180分の授業を1日に行う。 その日学んだことを身に付けるため、 次回の授業開始時に20問のクイズを行います
9	中枢神経系について学習し、その構造と機能が理解できる	講義・DVD・配布資料	2コマ、180分の授業を1日に行う。 その日学んだことを身に付けるため、 次回の授業開始時に20問のクイズを行います
10	中枢神経系について学習し、その構造と機能が理解できる	講義・DVD・配布資料	2コマ、180分の授業を1日に行う。 その日学んだことを身に付けるため、 次回の授業開始時に20問のクイズを行います
11	脳神経、脊髄神経、自律神経について学習し、その構造と機能が理解できる	講義・DVD・配布資料	2コマ、180分の授業を1日に行う。 その日学んだことを身に付けるため、 次回の授業開始時に20問のクイズを行います
12	感覚器について学習し、その構造と機能が理解できる	講義・DVD・配布資料	2コマ、180分の授業を1日に行う。 その日学んだことを身に付けるため、 次回の授業開始時に20問のクイズを行います
13	感覚器について学習し、その構造と機能が理解できる	講義・DVD・配布資料	2コマ、180分の授業を1日に行う。 その日学んだことを身に付けるため、 次回の授業開始時に20問のクイズを行います
14	内分泌系について学習し、その構造と機能が理解できる	講義・DVD・配布資料	2コマ、180分の授業を1日に行う。 その日学んだことを身に付けるため、 次回の授業開始時に20問のクイズを行います
15	まとめと試験	筆記試験	

■受講上の注意
理解し記憶すべき情報量がたいへん多いので、これら情報を自分のものにする努力が要ります。理解のためには長い復習の時間が望まれます。
■成績評価の方法
最終試験の成績によりますが、クイズの成績を評価に加味することがあります。

■テキスト参考書など
テキスト:①医学書院　系統看護学講座　解剖生理学
②医学教育出版社　竹内修二　解剖学トレーニングノート
参考図書:①上下講談社
■備考
講義の資料、DVDのスニッピングの資料は適宜配布する。

解剖生理学Ⅱ

講師：比嘉 憂理奈

単位数：1単位　時間数：30時間　授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

人体の発生および構造と機能を系統立てて学び、疾病により生じる構造と機能の変化や看護実習のエビデンスに活用する基礎的能力を養う

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	呼吸器系の構造、呼吸のメカニズムについて理解できる	講義	各自予習を行うこと 小テスト実施
2	呼吸器系の構造、呼吸のメカニズムについて理解できる	講義	各自予習を行うこと 小テスト実施
3	呼吸運動の調節について理解できる	講義	各自予習を行うこと 小テスト実施
4	呼吸運動の調節について理解できる	講義	各自予習を行うこと 小テスト実施
5	血液の組成と機能について理解できる	講義	各自予習を行うこと 小テスト実施
6	血液の組成と機能について理解できる	講義	各自予習を行うこと 小テスト実施
7	赤血球、白血球、血小板の機能、血液の凝固と線維素溶解につて理解できる	講義	各自予習を行うこと 小テスト実施
8	赤血球、白血球、血小板の機能、血液の凝固と線維素溶解につて理解できる	講義	各自予習を行うこと 小テスト実施
9	循環器系の構成、心臓の構造について理解できる	講義	各自予習を行うこと 小テスト実施
10	循環器系の構成、心臓の構造について理解できる	講義	各自予習を行うこと 小テスト実施
11	心臓の拍出機能について理解できる	講義	各自予習を行うこと 小テスト実施
12	心臓の拍出機能について理解できる	講義	各自予習を行うこと 小テスト実施
13	抹消循環系の構造について理解できる	講義	各自予習を行うこと 小テスト実施
14	抹消循環系の構造について理解できる	講義	各自予習を行うこと 小テスト実施
15	終講試験およびまとめ	筆記試験	

■受講上の注意
理解を深めるために、予習・復習を確実に行うこと

■成績評価の方法
出席状況（10%）、受講態度（10%）、終講試験（80%）

■テキスト参考書など
「解剖生理学」医学書院『解剖トレーニングノート」医学教育出版社

■備考
資料プリントは適宜配布する

解剖生理学Ⅲ

講師：杉原 一正

単位数：1単位　時間数：30時間　授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

消化器系、泌尿器系、生殖器系の構造と機能について説明することができるとともに、臨床の現場で目にする消化器系疾患、泌尿器系疾患、生殖器系疾患の病態や症状を、その構造と機能の視点から説明でき、看護実践のエビデンスに活用する基礎的能力を養う。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	口腔と歯の構造と機能、咀嚼について説明できる	講義・グループワーク	小テストの実施 課題レポートの提出
2	摂食と嚥下、唾液腺の構造と機能について説明できる	講義・グループワーク	小テストの実施 課題レポートの提出
3	咽頭、食道、胃の構造と機能について説明できる	講義・グループワーク	小テストの実施 課題レポートの提出
4	小腸の構造と機能、栄養素の消化と吸収について説明できる	講義・グループワーク	小テストの実施 課題レポートの提出
5	大腸、膵臓の構造と機能について説明できる	講義・グループワーク	小テストの実施 課題レポートの提出
6	肝臓、胆嚢、腹膜の構造と機能について説明できる	講義・グループワーク	小テストの実施 課題レポートの提出
7	腎臓の構造と機能について説明できる	講義・グループワーク	小テストの実施 課題レポートの提出
8	傍糸球体装置、レニン-アンギオテンシン-アルドステロン系について説明できる	講義・グループワーク	小テストの実施 課題レポートの提出
9	排尿路、体液の調節、酸塩基平衡について説明できる	講義・グループワーク	小テストの実施 課題レポートの提出
10	男性生殖器の構造と機能について説明できる	講義・グループワーク	小テストの実施 課題レポートの提出
11	女性生殖器の構造と機能について説明できる	講義・グループワーク	小テストの実施 課題レポートの提出
12	女性の生殖機能、受精と胎児の発生について説明できる	講義・グループワーク	小テストの実施 課題レポートの提出
13	初期発生と着床について説明できる	講義・グループワーク	小テストの実施 課題レポートの提出
14	成長と老化について説明できる	講義・グループワーク	小テストの実施 課題レポートの提出
15	終講試験とまとめ	筆記試験	小テストの復習をすること

■受講上の注意

講義の予習（前もって教科書を読んでおく）をして、主体的に授業に望むこと

■成績評価の方法

終講試験（60%）、小テスト（20%）、課題レポート（10%）、授業への参加態度（10%）

■テキスト参考書など

『系統看護学講座　解剖生理学』 医学書院

■備考

資料プリントは毎回配布する

解剖生理学Ⅳ

講師：上川 善昭

単位数：1単位　時間数：30時間　授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

人体の発生および構造と機能を系統だてて学び、疾病により生じる構造と機能の変化を理解するとともに、問題解決に立脚した学習法(Problem Based learning)を実践し、看護実践のエビデンスに活用する基礎能力を養う。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	解剖生理学Ⅳの学び方について理解する。特に問題解決に立脚した学習法(Problem Based learning)を理解する。 感覚器総論(特殊感覚、体性感覚、皮膚感覚、内臓感覚、感覚伝導路)について理解できる。	講義・DVD・PBL	解剖生理学Ⅳの学び方について理解する。 PBLについて実践できるように学習する。 PBLの準備(班分け、課題の提示)を行う。
2	感覚器各論(眼の構造・解剖、近視、遠視、白内障、緑内障など)について理解できる。	講義・DVD・PBL	感覚器各論(眼の構造・解剖、近視、遠視、白内障、緑内障など)について予習する。 PBLの準備(グループワーク)を行う。 小テスト（前回講義の振り返り）
3	感覚器各論(耳の構造と聴覚、平衡感覚、鼻の構造と嗅覚、口腔の構造と味覚、皮膚の構造と皮膚感覚、疼痛の発生機序と伝達)について理解できる。	講義・DVD・PBL	感覚器各論(耳の構造と聴覚、平衡感覚、鼻の構造と嗅覚、口腔の構造と味覚、皮膚の構造と皮膚感覚、疼痛の発生機序と伝達)について予習する。
4	感覚器各論(耳の構造と聴覚、平衡感覚、鼻の構造と嗅覚、口腔の構造と味覚、皮膚の構造と皮膚感覚、疼痛の発生機序と伝達)について理解できる。	講義・DVD・PBL	感覚器各論(耳の構造と聴覚、平衡感覚、鼻の構造と嗅覚、口腔の構造と味覚、皮膚の構造と皮膚感覚、疼痛の発生機序と伝達)について予習する。
5	生体の防御機能について理解できる	講義・DVD・PBL	生体の防御機能について予習する。 PBLの発表準備(GW)を行う。 小テスト（前回講義の振り返り）
6	非特異免疫(炎症作用)、特異免疫(細胞免疫、体性免疫)について理解できる	講義・DVD・PBL	非特異免疫(炎症作用)、特異免疫(細胞免疫、体性免疫)について予習する。 PBLの発表準備(GW)を行う。 小テスト（前回講義の振り返り）
7	体温調節機構について理解できる	講義・DVD・PBL	体温調節機構について予習する。 PBLの発表準備(GW)を行う。 小テスト（前回講義の振り返り）
8	骨、関節の構造について理解できる	講義・DVD・PBL	骨、関節の構造について予習する。 PBLの発表準備(GW)を行う。 小テスト（前回講義の振り返り）
9	筋肉の構造、筋の収縮について理解できる	講義・DVD・PBL	筋肉の構造、筋の収縮について予習する PBLの発表準備(GW)を行う。 小テスト（前回講義の振り返り）
10	体幹の骨格、関節、筋について理解できる	講義・DVD・PBL	体幹の骨格、関節、筋について予習する。 PBLの発表準備(GW)を行う。 小テスト（前回講義の振り返り）
11	頭頚部の骨格、関節、筋について理解できる	講義・DVD・PBL	頭頚部の骨格、関節、筋について予習する。 PBLの発表準備(GW)を行う。 小テスト（前回講義の振り返り）
12	上肢の骨格、関節、筋について理解できる	講義・DVD・PBL	上肢の骨格、関節、筋について予習する。 PBLの発表準備(GW)を行う。 小テスト（前回講義の振り返り）
13	下肢の骨格、関節、筋について理解できる	講義・DVD・PBL	下肢の骨格、関節、筋について予習する。 PBLの発表準備(GW)を行う。 小テスト（前回講義の振り返り）
14	特に問題解決に立脚した学習法(Problem Based learning)を実践する。	講義・DVD・PBL	特に問題解決に立脚した学習法(Problem Based learning)を準備し実践する(発表)。
15	終講試験とまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

事前準備、講義内容の予習をしてくる。
主体的、積極的に講義やPBLに参加する。　私語は慎む。

■成績評価の方法

終講試験(50%)、小テストとレポート(30%)、授業への参加態度とPBL(20%)
により総合的に評価する。

■テキスト参考書など

系統看護学講座・解剖生理学（医学書院）　解剖トレーニングノート（医学教育出版社）

■備考

資料プリントは適宜配布する。
（生物・化学）やりなおし　生物　化学　照林社（物理）「やりなおし　数学　物理」照林社

■備考

中学、高校の教科書に目を通しておくこと
割合・比例配分の計算練習や物理の練習問題として以下を自習するとよい。
（物理）毎回プリントを配付する

生化学

講師：塔筋 弘章

単位数：1単位　時間数：30時間　授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

生物は分子や原子からなる。この分子や原子が互いに作用することにより、生命活動を営むことが可能となり、複雑で高度に組織化された性質をもつ。生化学では、無生物である分子がどのように生命を構成し、保ち、次世代へ伝えていくのかを学ぶ。そして健康とは、病気とは、という医学の根本的問題をその基礎において理解する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	生命の基礎である細胞について理解する	講義	テキストに目をとおしておくこと
2	生命を作る物質（糖質・脂質）について理解する	講義	テキストに目をとおしておくこと
3	生命を作る物質（アミノ酸・タンパク質）について理解する	講義	テキストに目をとおしておくこと
4	生命を作る物質（核酸）について理解する	講義	テキストに目をとおしておくこと
5	生命を作る物質（ビタミン・酵素）について理解する	講義	テキストに目をとおしておくこと
6	糖質代謝について理解する	講義	テキストに目をとおしておくこと
7	糖質代謝・脂質代謝について理解する	講義	テキストに目をとおしておくこと
8	脂質代謝について理解する	講義	テキストに目をとおしておくこと
9	アミノ酸・タンパク質代謝について理解する	講義	テキストに目をとおしておくこと
10	核酸代謝・エネルギー代謝の統合について理解する	講義	テキストに目をとおしておくこと
11	遺伝情報（複製、発現）について理解する	講義	テキストに目をとおしておくこと
12	遺伝情報について理解する（突然変異・遺伝病）	講義	テキストに目をとおしておくこと
13	遺伝子診断・遺伝子治療について理解する	講義	テキストに目をとおしておくこと
14	バイオテクノロジー・幹細胞・iPS細胞について理解する	講義	テキストに目をとおしておくこと
15	終講試験とまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

テキストの内容について予習してから講義に臨む。判らないことは質問し、授業時間内に理解した上で、復習をする。

■成績評価の方法

平常点25%、試験75%

■テキスト参考書など

メディカ出版　ナーシング・グラフィカ　人体の構造と機能②　臨床生化学

■備考

必要に応じてプリントを配布する

臨床微生物学

講師：東 四郎

単位数：1単位　時間数：30時間　授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

微生物の特徴と生体の及ぼす影響を理解するとともに、免疫及び感染症について理解を深め、感染症対策の基礎的知識を習得する

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	生物体の基本単位：細胞について理解できる	講義	解剖生理学で学んだ「細胞」について復習してくること
2	原核細胞・真核細胞について理解できる	講義	感染の機構について予習してくること
3	病原体の感染機構について理解できる	講義	感染の機構について予習してくること
4	感染発生の三大要因について理解できる	講義	感染経路について予習してくること
5	細菌の染色性について理解できる	講義	細菌の形態について予習してくること
6	細菌の細胞壁（ペクチドグリカン）について理解できる	講義	再婚の構造について予習してくること
7	自然免疫の仕組みについて理解できる	講義	自然免疫と生体防御について予習してくること
8	獲得免疫の機構について理解できる	講義	獲得免疫と生体防御について予習してくること
9	獲得免疫と生体防御について理解できる	講義	獲得免疫と生体防御について予習してくること
10	エピトープと抗原の関係について理解できる	講義	抗原とはについて予習してくること
11	抗体の基本構造と各部位の機能について理解できる	講義	液性免疫について予習してくること
12	細菌の生活現象について理解できる	講義	
13	生体防御について理解できる	講義	感染防御について予習してくること
14	免疫応答について理解できる	講義	免疫応答について予習してくること
15	終講試験・まとめ	筆記試験	

■受講上の注意

病原体・感染・免疫について理解する科目である。主体的に予習を行い講義に参加すること。

■成績評価の方法

筆記試験　100点

■テキスト参考書など

テキスト：わかる。身につく病原体・感染・免疫　南山堂
参考書　：微生物学　医学書院

■備考

病理学総論

講師:吉田 浩己

単位数:1単位　時間数:15時間　授業学年:1学年

必修選択:必修

■科目目標

疾病の成り立ちと病変の特徴の基礎的知識を習得する

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	病理学とはについて理解できる	講義	病理学で学ぶことについて予習してくること
2	病因、退行性・進行性病変について理解できる	講義	細胞・組織の障害と修復について予習してくること
3	循環障害について理解できる	講義	循環障害について予習してくること
4	炎症について理解できる	講義	炎症と免疫、移植と再生医療について予習してくること
5	腫瘍について理解できる	講義	腫瘍について予習してくること
6	感染症について理解できる	講義	感染症について予習してくること
7	先天性異常について理解できる	講義	先天異常と遺伝子異常について予習してくること
8	終講試験・まとめ	筆記試験	

■受講上の注意

解剖生理と疾病論をつなぐ科目です。解剖生理学での学びを復習し、必ず予習をして講義に臨むこと。
講義に集中し、主体的に学び理解を深めること

■成績評価の方法

筆記試験　100点

■テキスト参考書など

テキスト:系統看護学講座　専門基礎分野病理学　医学書院
参考書　:解剖生理学　医学書院

■備考

病態生理学

講師：四俣 芳子、山門 真樹、池西 静江

単位数：1単位　時間数：30時間　授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

解剖生理学、病理学総論の知識をもとに、病理学的変化（病変）によりもたらされる症候についての理解を深め、看護実践のエビデンスに活用する基礎的能力を培う

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	悪心・嘔吐の原因・メカニズム・種類・症状および観察のポイントを理解し、看護を考えることができる	講義・グループワーク	積極的にグループワークに参加すること。終了前に小テストを実施する
2	吐血・喀血・下血の原因・メカニズム・種類・症状および観察のポイントを理解し、看護を考えることができる	講義・グループワーク	積極的にグループワークに参加すること。終了前に小テストを実施する
3	便秘・下痢の原因・メカニズム・種類・症状および観察のポイントを理解し、看護を考えることができる	講義・グループワーク	積極的にグループワークに参加すること。終了前に小テストを実施する
4	黄疸の原因・メカニズム・種類・症状および観察のポイントを理解し、看護を考えることができる	講義・グループワーク	積極的にグループワークに参加すること。終了前に小テストを実施する
5	チアノーゼの原因・メカニズム・種類・症状および観察のポイントを理解し、看護を考えることができる	講義・グループワーク	積極的にグループワークに参加すること。終了前に小テストを実施する
6	ショックの原因・メカニズム・種類・症状および観察のポイントを理解し、看護を考えることができる	講義・グループワーク	積極的にグループワークに参加すること。終了前に小テストを実施する
7	グループダイナミクスを活用して各症候の原因とメカニズムを関連付けて理解できる	TBL・試験	1回から6回までの症候について復習しておくこと。個人テスト・チームテストを実施する。積極的にグループワークに参加すること。
8	浮腫の原因・メカニズム・種類・症状および観察のポイントを理解し、患者への看護を考えることができる	講義・グループワーク	積極的にグループワークに参加すること。終了前に小テストを実施する
9	脱水の原因・メカニズム・種類・症状および観察のポイントを理解し、患者への看護を考えることができる	講義・グループワーク	積極的にグループワークに参加すること。終了前に小テストを実施する
10	乏尿・無尿の原因・メカニズム・種類・症状および観察のポイントを理解し、患者への看護を考えることができる	講義・グループワーク	積極的にグループワークに参加すること。終了前に小テストを実施する
11	不整脈の原因・メカニズム・種類・症状および観察のポイントを理解し、患者への看護を考えることができる	講義・グループワーク	積極的にグループワークに参加すること。終了前に小テストを実施する
12	胸痛・腹痛の原因・メカニズム・種類・症状及び観察のポイントを理解し、患者への看護を考えることができる	講義・グループワーク	積極的にグループワークに参加すること。終了前に小テストを実施する
13	グループダイナミクスを活用して各症候の原因とメカニズムを関連付けて理解できる	TBL・試験	8回から12回までの症候について復習しておくこと。個人テスト・チームテストを実施する。積極的にグループワークに参加すること。
14	事例をもとに病態関連図を作成できる	講義	予習を行い、授業に使用する書籍や印刷物を用意しておくこと。
15	事例をもとに病態関連図を作成できる	講義	予習を行い、授業に使用する書籍や印刷物を用意しておくこと。

■受講上の注意

事前学習：事前に配布するワークシートをもとに予習して授業に参加すること
小テスト：講義終了時に5点の試験を実施
TBL：個人テスト＋チームテストを7回目、13回目に実施する

■成績評価の方法

小テスト（5点×11回）　TBL（15点×2回）
病態関連図の課題（10点）　レポート課題（5点）

■テキスト参考書など

『解剖生理学』 医学書院　『病理学』 医学書院
『看護学生スタディガイド』 照林社

■備考

解剖生理学、病理学総論の復習をしておくこと
事前学習をして授業に参加すること

疾病論Ⅰ

講師:齋藤 俊、寺口 博幸、皆越 眞一

単位数:1単位　時間数:30時間　授業学年:1学年

必修選択:必修

■科目目標

系統別、代表的疾患について、その病態生理、診断、検査、治療の基礎的知識を習得する(呼吸器系・循環器系)

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	呼吸器の構造と機能が理解できる	講義	解剖生理学の復習をして臨むこと
2	呼吸器系の疾患と症状が理解できる一鼻腔・咽頭・喉頭の疾患	講義	予習・復習を行うこと
3	呼吸器系の疾患と症状が理解できる一気管・気管支・肺の疾患(COPD・気管支喘息・肺がん・肺循環障害・呼吸不全・気胸など)(その1)	講義	予習・復習を行うこと
4	呼吸器系の疾患と症状が理解できる一気管・気管支・肺の疾患(COPD・気管支喘息・肺がん・肺循環障害・呼吸不全・気胸など)(その2)	講義	予習・復習を行うこと
5	呼吸器系の疾患と症状が理解できる一胸膜の疾患	講義	予習・復習を行うこと
6	呼吸器系の検査・治療・処置が理解できる	講義	予習・復習を行うこと
7	呼吸器系の検査・治療・処置が理解できる	講義	予習・復習を行うこと
8	循環器系の構造と機能が理解できる	講義	解剖生理学の復習をして臨むこと
9	循環器系の疾患と症状が理解できる一心臓の疾患(虚血性心疾患・心筋症・心不全など)	講義	予習・復習を行うこと
10	循環器系の疾患と症状が理解できる一心臓の疾患(虚血性心疾患・心筋症・心不全など)	講義	予習・復習を行うこと
11	循環器系の疾患と症状が理解できる一血管の疾患(高血圧・閉塞性動脈硬化症・大動脈瘤・解離・静脈血栓症など)	講義	予習・復習を行うこと
12	循環器系の疾患と症状が理解できる一血管の疾患(高血圧・閉塞性動脈硬化症・大動脈瘤・解離・静脈血栓症など)	講義	予習・復習を行うこと
13	循環器系疾患の検査・治療・処置が理解できる	講義	予習・復習を行うこと
14	循環器系疾患の検査・治療・処置が理解できる	講義	予習・復習を行うこと
15	まとめと終講試験	筆記試験	

■受講上の注意

解剖生理学・病態生理学の既習知識が必要となるので、復習して臨むこと
各回数予習・復習をして臨むこと

■成績評価の方法

筆記試験　100%

■テキスト参考書など

『呼吸器』『循環器』 医学書院
適時資料を配布する
参考図書:『病理学』『解剖生理学』 医学書院

■備考

疾病論Ⅱ

講師:北薗 巌、中川 昌之

単位数:1単位　時間数:30時間　授業学年:1学年

必修選択:必修

■科目目標

系統別、代表的疾患について、その病態生理、診断、検査、治療の基礎的知識を習得する(消化器系・腎泌尿器系)

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	消化器の構造と機能が理解できる	講義	解剖生理学の復習をして臨むこと
2	消化器疾患の症状と病態生理、栄養と代謝について理解できる	講義	予習・復習を行うこと
3	消化器疾患の検査が理解できる	講義	予習・復習を行うこと
4	消化器疾患の治療が理解できる(がんについて)	講義	予習・復習を行うこと
5	消化器疾患について理解できる(タバコとアルコール)	講義	予習・復習を行うこと
6	消化器疾患について理解できる(感染症について)	講義	予習・復習を行うこと
7	消化器疾患について理解できる(脈絡疾患について)	講義	予習・復習を行うこと
8	腎泌尿器の構造と機能が理解できる	講義	解剖生理学の復習をして臨むこと
9	腎泌尿器疾患の症状が理解できる	講義	予習・復習を行うこと
10	腎泌尿器疾患の検査が理解できる	講義	予習・復習を行うこと
11	腎不全について理解できる	講義	予習・復習を行うこと
12	腎炎・感染症について理解できる	講義	予習・復習を行うこと
13	腎泌尿器系のがんについて理解できる	講義	予習・復習を行うこと
14	小児の腎疾患について理解できる	講義	予習・復習を行うこと
15	まとめと終講試験	筆記試験	

■受講上の注意

解剖生理学・病態生理学の既習知識が必要となるので、復習して臨むこと
各回数予習・復習をして臨むこと

■成績評価の方法

筆記試験　100%

■テキスト参考書など

『消化器』『腎泌尿器』 医学書院
適時資料を配布する
参考図書:『病理学』『解剖生理学』 医学書院

■備考

疾病論Ⅲ

講師：後藤 孝史、水島 正樹

単位数：1単位　時間数：30時間　授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

系統別、代表疾患についてその病態生理、診断、検査、治療の基礎的知識を習得する

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	脳神経－1 神経の構造と機能が理解できる	講義	予習・復習を行うこと
2	脳神経—2 神経の構造と機能が理解できる大脳・小脳・脊髄など	講義	予習・復習を行うこと
3	脳神経—3 運動機能と感覚機能、意識障害が理解できる	講義	予習・復習を行うこと
4	脳神経—4 運動症状、高次脳機能障害、感覚障害、不随意運動が理解できる	講義	予習・復習を行うこと
5	脳神経—5 排尿障害、頭蓋内圧亢進と脳ヘルニア、神経学的診察について理解できる	講義	予習・復習を行うこと
6	脳神経—6 放射線検査、脳脊髄液検査、脳血管障害について理解できる	講義	予習・復習を行うこと
7	脳神経—7 外傷、小頭症、脊髄疾患、筋ジストロフィー、パーキンソン病、HAM、認知症について理解できる	講義	予習・復習を行うこと
8	運動器—1 診断のための検査、先天性疾患について理解できる	講義	予習・復習を行うこと
9	運動器—2 骨折・脱臼について理解できる	講義	予習・復習を行うこと
10	運動器—3 脊椎疾患について理解できる	講義	予習・復習を行うこと
11	運動器—4 筋・腱の疾患、麻痺性疾患について理解できる	講義	予習・復習を行うこと
12	運動器—5 捻挫と打撲、骨・関節の炎症性疾患について理解できる	講義	予習・復習を行うこと
13	運動器—6 骨腫瘍・骨系統疾患について理解できる	講義	予習・復習を行うこと
14	運動器—7 代謝性疾患、下肢・上肢の疾患について理解できる	講義	予習・復習を行うこと
15	まとめ	筆記試験	

■受講上の注意

主体的に講義に臨み、臨床現場で必要な知識を講師から積極的に学ぶこと
既習の知識を含め事前学習を行い、講義内容の理解に努めること

■成績評価の方法

終講試験　80点　授業への参加態度　20点により総合的に評価を行う

■テキスト参考書など

テキスト：系統看護学講座　脳神経　医学書院　系統看護学講座　運動器　医学書院
参考書　：標準整形外科学　医学書院

■備考

資料プリントは適宜配布する

疾病論Ⅳ

講師：吉田 浩己

単位数：1単位　時間数：30時間　授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

系統別、代表的疾患について、その病態生理、診断、検査、治療の基礎的知識を習得する

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	内分泌、下垂体と甲状腺の疾患について理解できる	講義	内分泌・代謝器官の構造と機能について予習してくること
2	副甲状腺、副腎、膵島の疾患について理解できる	講義	内分泌・代謝器官の構造と機能について予習してくること
3	血液、貧血、白血病の疾患について理解できる	講義	血液の生理と造血の仕組みについて予習してくること
4	悪性リンパ腫、アレルギーの疾患について理解できる	講義	血液の生理と造血の仕組みについて予習してくること
5	アレルギー、自己免疫疾患について理解できる	講義	免疫の仕組みとアレルギーについて予習してくること
6	感染症の疾患について理解できる	講義	感染症とはについて予習してくること
7	下垂体の疾患について理解できる	講義	視床下部・下垂体疾患について予習してくること
8	下垂体・甲状腺機能亢進症について理解できる	講義	甲状腺疾患居ついて予習してくること
9	甲状腺機能低下症・副腎機能亢進症について理解できる	講義	甲状腺疾患居ついて予習してくること
10	副腎機能低下症・糖尿病について理解できる	講義	糖尿病について予習してくること
11	造血器疾患について理解できる	講義	造血器腫瘍について予習してくること
12	出血性疾患について理解できる	講義	出血性疾患について予習してくること
13	甲状腺異常、貧血について理解できる	講義	赤血球・白血球系の異常について予習してくること
14	骨髄移植、SLEについて理解できる	講義	造血器腫瘍の治療について予習してくること
15	終講試験・まとめ	筆記試験	

■受講上の注意

この科目は、内分泌・代謝、血液・造血器、アレルギー・膠原病・感染症と広く学ぶものです。そのため、予習、復習は必ず行うこと。
主体的に講義に参加し、理解を深めること

■成績評価の方法

筆記試験　100点

■テキスト参考書など

テキスト：系統看護学講座　専門分野Ⅱ　医学書院「内分泌・代謝」、「血液・造血器」、「アレルギー・膠原病・感染症」
参考書　：「解剖生理学」「病理学」 医学書院

■備考

疾病論Ⅴ

講師：鹿島 直子、大山 光子、堀川 憲子、沼田 恵理、牧瀬 裕恵

単位数：1単位　時間数：30時間　授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

系統別、代表的疾患について、その病態生理、診断、検査、治療の基礎的知識を習得する

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	耳鼻咽喉―1 鼻・口腔・咽喉頭疾患について理解できる	講義・DVD	基本的な解剖と生理機能も含んだ内容の理解も含む
2	耳鼻咽喉―2 耳鼻科領域の腫瘍論と嚥下障害について理解できる	講義・DVD	嚥下・咀嚼・音声等についての理解も含む
3	耳鼻咽喉―3 耳科疾患：機能と難聴を中心に理解できる	講義・DVD	特に小児の言語障害については、小児難聴や発達障害の理解も含む
4	眼―1 眼の解剖・検査を学ぶ	講義	テキスト・パワーポイント・配布資料使用
5	眼－2 眼の疾患・治療①を学ぶ	講義	テキスト・パワーポイント・配布資料使用
6	眼―3 眼の疾患・治療②を学ぶ	講義	テキスト・パワーポイント・配布資料使用
7	歯科口腔―1 歯・口腔・顎・顔面の構造機能を理解する	講義	歯・口腔・顎・顔面の構造機能を予習する
8	歯科口腔―2 歯・口腔・顎・顔面の疾病を理解する	講義	歯・口腔・顎・顔面の疾病を予習する
9	歯科口腔―3 口腔ケアの意義、清掃方法を理解する	講義	口腔ケアの意義、清掃方法を予習する
10	皮膚―1 皮膚科総論（症状、所見、検査、治療、創傷、褥瘡）を理解する	講義	予習・復習を行うこと
11	皮膚―2 皮膚各論（湿疹、痒疹など）を理解する	講義	予習・復習を行うこと
12	皮膚―3 皮膚科各論（感染、膠原病など）を理解する	講義	予習・復習を行うこと
13	生殖器系―1 生殖器系の解剖と生理を理解する	講義	予習・復習を行うこと
14	生殖器系―2 生理の異常と感染症について理解する	講義	予習・復習を行うこと
15	生殖器系―3 良性腫瘍と悪性腫瘍について理解する	講義	予習・復習を行うこと

■受講上の注意

（耳鼻咽喉）　興味をもってきいていただきたい
　　理解していただけるように講義をする予定
（眼科）　　疾患の写真をできるだけ出しますので、見るようにしてください
　　一日目に配布した資料は毎回持参すること
（歯科・口腔）参考テキストの項目を予習し授業中に理解する
　　傾聴する態度を身につける

■成績評価の方法

15回講義終了後に終講試験を実施し、総合的に評価する
（耳鼻咽喉）終講試験
（眼科）出席状況、終講試験
（歯科・口腔）「平常点10%、筆記試験90%」で評価し、他学科の結果と合算し、合格評価は担任に依頼する
（皮膚）終講試験　（生殖器）終講試験

■テキスト参考書など

系統看護学講座「耳鼻咽喉」「眼」「歯科口腔」「皮膚」「女性生殖器」医学書院

■備考

適宜資料を配布する
（眼科）一日目に全回分の資料を配布
（歯科・口腔）資料プリントは適宜配布する

臨床栄養学

講師：寺師 睦美

単位数：1単位　時間数：30時間　授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

人間にとっての栄養と代謝の意義を理解し、臨床栄養や食事療法の基礎的知識を修得することで、看護ケアと関連付けて人の生活や健康状態に適切な食生活の援助方法や実践できる能力を身に付ける

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	臨床栄養学の概要と各ライフステージの栄養管理の意義を理解する	講義	「1－1臨床栄養学の基礎知識」を読んで、まとめてくること
2	臨床栄養学の基礎知識（たんぱく質・脂質・炭水化物の代謝及び機能）を理解する	講義	「1－2臨床栄養学の基礎知識」を読んで、まとめてくること
3	臨床栄養学の基礎知識（食物繊維・ビタミン・ミネラル・水の代謝や機能）を理解する	講義	「1－3臨床栄養学の基礎知識」を読んで、まとめてくること
4	栄養アセスメント、食品成分と食事摂取基準を理解する	講義	「2食品成分と食事摂取基準」を読んで、まとめてくること
5	日常生活と栄養（食文化の多様性、日本の食生活の形成と変遷など）を理解する	講義	「3－1日常生活と栄養」を読んで、まとめてくること
6	運動と栄養（運動時の栄養と役割、関係する栄養素、水分補給など）を理解する	講義	「3－2日常生活と栄養」を読んで、まとめてくること
7	食事アンケートの分析	講義・グループワーク	各自の食生活を客観的に記録し分析する
8	現代日本の健康・栄養問題、人生各期における健康生活と栄養（乳幼児期）を理解する	講義・グループワーク	「3－3日常生活と栄養」を読んで、まとめてくること
9	人生各期における健康生活と栄養（学童期～青年期）を理解する	講義・グループワーク	「3－3日常生活と栄養」を読んで、まとめてくること
10	人生各期における健康生活と栄養（成人期、授乳期、高齢期）を理解する	講義・グループワーク	「3－3日常生活と栄養」を読んで、まとめてくること
11	療養生活と栄養（検査食、治療による回復を促すための食事）を理解する	講義	「4－1・2療養生活と栄養」を読んで、まとめてくること
12	療養生活と栄養（栄養成分別コントロール食、糖尿病食品交換表など）を理解する	講義・演習	「4－3・4療養生活と栄養」を読んで、まとめてくること
13	経口摂取できない患者のための栄養管理（疾患別の食事療法）を理解する	講義	「4－5療養生活と栄養「5疾患別の食事療法」を読んで、まとめてくること
14	疾患別の食事療法、食事指導の実際	講義	「5疾患別の食事療法」「6食事指導の実際」を読んで、まとめてくること
15	終講試験、総括	筆記試験	

■受講上の注意

栄養と代謝の基礎、人の各ライフステージの特徴や食習慣

■成績評価の方法

平常点10%（提出物・発表態度など）、課題レポート20%、筆記試験70%

■テキスト参考書など

「臨床栄養学」メディカ出版
「糖尿病食事療法のための食品交換表」文光堂」

■備考

講義での必要な資料などについては、適宜紹介、配布する

臨床薬理学

講師:杉原 一正

単位数:1単位　時間数:30時間　授業学年:1学年

必修選択:必修

■科目目標

薬物療法の目的、薬物の特徴と作用機序、主な副作用や有害事象、薬物治療における安全確保のための薬物管理に冠する基礎的事項について説明することができるとともに臨床の現場での与薬時の注意点について配慮することができる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	薬物治療における看護師の役割、適切な与薬、薬剤管理、患者への説明と指導について具体的に述べることができる	講義・グループワーク	小テストの実施 課題レポートの提出
2	薬物治療の目的、医薬品の取り扱い、薬物の特徴と作用機序について説明できる	講義・グループワーク	小テストの実施 課題レポートの提出
3	薬物の体内動態(吸収、分布、代謝、排泄)と薬物相互作用について説明できる	講義・グループワーク	小テストの実施 課題レポートの提出
4	薬物の安全管理、薬物の副作用や有害事象の早期発見と適切な対応について説明できる	講義・グループワーク	小テストの実施 課題レポートの提出
5	抗感染症薬の種類、特徴と作用機序、与薬時の注意点について説明できる	講義・グループワーク	小テストの実施 課題レポートの提出
6	抗悪性腫瘍薬の種類、特徴と作用機序、与薬時の注意点について説明できる	講義・グループワーク	小テストの実施 課題レポートの提出
7	解熱鎮痛薬、制吐薬、便秘治療薬の種類、特徴と作用機序、与薬時の注意点について説明できる	講義・グループワーク	小テストの実施 課題レポートの提出
8	下痢治療薬、鎮咳・去痰薬、鎮静薬、睡眠薬の種類、特徴と作用機序、与薬時の注意点について説明できる	講義・グループワーク	小テストの実施 課題レポートの提出
9	高血圧症、急性冠症候群、心不全の治療薬の種類、特徴と作用機序、与薬時の注意点について説明できる	講義・グループワーク	小テストの実施 課題レポートの提出
10	不整脈、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患の治療薬、抗血栓薬の種類、特徴と作用機序、与薬時の注意点について説明できる	講義・グループワーク	小テストの実施 課題レポートの提出
11	消化性潰瘍、胃食道逆流症、慢性肝炎、慢性腎臓病の治療薬の種類、特徴と作用機序、与薬時の注意点について説明できる	講義・グループワーク	小テストの実施 課題レポートの提出
12	糖尿病、脂質異常症、骨粗鬆症、関節リウマチの治療薬の種類、特徴と作用機序、与薬時の注意点について説明できる	講義・グループワーク	小テストの実施 課題レポートの提出
13	パーキンソン病、認知症、うつ病、てんかんの治療薬の種類、特徴と作用機序、与薬時の注意点について説明できる	講義・グループワーク	小テストの実施 課題レポートの提出
14	薬物治療における看護師の役割拡大、特に特定行為に選定されている薬剤関連項目について述べることができる	講義・グループワーク	小テストの実施 課題レポートの提出
15	終講試験とまとめ	筆記試験	小テストを復習しておくこと

■受講上の注意

講義の予習(前もって教科書を読んでおく)をして、主体的に授業に望むこと

■成績評価の方法

終講試験(60%)、小テスト(20%)、課題レポート(10%)、授業への参加態度(10%)

■テキスト参考書など

『系統看護学講座　別冊　臨床薬理学』医学書院

■備考

資料プリントを毎回配布する

リハビリテーション論

講師：植村 健一、川元 大輔、戌井 啓一

単位数：1単位　時間数：15時間　授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

自立した生活を目的としたリハビリテーションの意義と方法について、その実際を学び、看護活動に応用する基礎的能力を養うとともに、協働について考える機会とする

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	作業療法とは何かについて理解できる。また、作業療法の観察評価体験において観察法が理解できる	講義・演習	作業療法について調べてくること
2	レクリエーションについての計画立案が理解できる	講義・演習	レクリエーションについて調べてくること
3	車椅子の種類と操作について理解できる	講義・演習	基礎看護学の移動・移送について復習してくること ＊ジャージで参加すること
4	理学療法とは何かについて理解できる	講義	理学療法について調べてくること
5	理学療法の実際について理解できる（ROM、ADL指導など）	講義・演習	ジャージで参加すること
6	言語聴覚療法について理解できる	講義	言語聴覚療法について調べてくること
7	言語聴覚療法の対象となる障害の検査、訓練について理解できる	講義・演習	ジャージで参加すること
8	終講試験・まとめ	筆記試験	

■受講上の注意

リハビリの専門職種について学ぶ科目です。講義だけでなく実技を含めた演習もあるので、積極的に参加すること
臨床で関わる機会の多い職種です。協働という視点でも学びを深めること

■成績評価の方法

課題評価　10点
平常点　10点
筆記試験　80点

■テキスト参考書など

テキスト：リハビリテーション看護論　ヌーヴェルヒロカワ
参考書　：基礎看護学Ⅱ　医学書院
必要な資料については講義時に配布する

■備考

演習では、臨床で実際に行われているリハビリテーションについて体験を行う。
臨床のでの応用を考え、神経・筋肉等の解剖も復習しておく

チーム医療論

講師：重光 まり代

単位数：1単位　時間数：30時間　授業学年：4学年

必修選択：必修

■科目目標

看護職をはじめ、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・介護福祉士・診療放射線技師など保健・医療・福祉チームを構成する職種の学習者同士で、それぞれの理解を深め、協働する基礎的能力を養う。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	科目の意義、具体的な進め方、評価方法を理解できる 看護職における責任と役割を理解できる。看護職者間の連携が理解できる。多職種連携の歴史とその背景が理解できる。多職種連携・協働が理解出来る	講義	課題「既習した講義・実習を通して学んだ職種理解」を指定期日に提出する。テキストのP45～50、P217～220に目を通して来る。これまでの実習を通しての多職種の連携・協働を想起しながら受講する
2	チーム医療とは何か。チーム医療を支える専門職の構成者を列記し、それぞれの職種の役割・機能を調べ、それらの職種と看護職とどう関わるのかを考察することができる	講義・GW	チーム医療を支える専門職の構成、チームの中の看護師の役割と機能について考える
3	チーム医療とは何か。チーム医療を支える専門職の構成者を列記し、それぞれの職種の役割・機能を調べ、それらの職種と看護職とどう関わるかを考察することができる	講義・GW	チーム医療を支える専門職の構成、チームの中の看護師の役割と機能について考える
4	それぞれの専門職者から活動の実際について講義を受け、看護職者としてどう協働するのかについて考察することができる	講義	患者を中心とした良質で安全な医療を提供するために能動的な専門職者（管理栄養士、薬剤師、保健師、介護福祉士、診療放射線技師）の実践を主体的に学ぶ
5	それぞれの専門職者から活動の実際について講義を受け、看護職者としてどう協働するのかについて考察することができる	講義	患者を中心とした良質で安全な医療を提供するために能動的な専門職者（管理栄養士、薬剤師、保健師、介護福祉士、診療放射線技師）の実践を主体的に学ぶ
6	それぞれの専門職者から活動の実際について講義を受け、看護職者としてどう協働するのかについて考察することができる	講義	患者を中心とした良質で安全な医療を提供するために能動的な専門職者（管理栄養士、薬剤師、保健師、介護福祉士、診療放射線技師）の実践を主体的に学ぶ
7	それぞれの専門職者から活動の実際について講義を受け、看護職者としてどう協働するのかについて考察することができる	講義	患者を中心とした良質で安全な医療を提供するために能動的な専門職者（管理栄養士、薬剤師、保健師、介護福祉士、診療放射線技師）の実践を主体的に学ぶ
8	それぞれの専門職者から活動の実際について講義を受け、看護職者としてどう協働するのかについて考察することができる	講義	患者を中心とした良質で安全な医療を提供するために能動的な専門職者（管理栄養士、薬剤師、保健師、介護福祉士、診療放射線技師）の実践を主体的に学ぶ
9	医療の専門職の役割・機能を理解し、看護師の役割を考えることができる	講義・GW	これまでの学習成果をもとに、「脳梗塞の事例の急性期における看護師の役割と多職種協働」について、グループで考える
10	医療の専門職の役割・機能を理解し、看護師の役割を考えることができる	講義・GW	これまでの学習成果をもとに、「脳梗塞の事例の急性期における看護師の役割と多職種協働」について、グループで考える
11	事例の急性期の医療専門職の役割・機能の追加・修正を行うことができる。また、急性期の看護をまとめ、看護師から多職種への働きかけについても考えることができる。 多職種連携GWに向けて、他者へのプレゼンテーションの準備ができる	GW	前回のGWを振り返り、追加・修正を行い、看護師から多職種への働きかけについて考える。また、多職種連携GWを成功させるために必要な要素について話し合うことができる。良い関係づくりを進めるための心構えとマナーを考えることができる
12	事例を通して、看護師の専門性、役割と機能について具体的に考えるとともに、多職種協働のあり方を考えることができる	多職種連携GW	学習の進め方の説明を受けた後、GWを進める。既習の学びをもとに、GWに参加する。PT・ST・Nsの学習者同士でGWを進め、看護学生がコーディネート的役割を果せるように働きかける。媒体作成・プレゼンテーション準備を行う。
13	事例を通して、看護師の専門性、役割と機能について具体的に考えるとともに、多職種協働のあり方を考えることができる	多職種連携GW	発表を通して学びの共有を行う。「脳梗塞患者の回復期～在宅期にむけて」
14	事例を通して、各専門職の関りを理解し、多職種連携のあり方を考えることができる	GW	多職種連携の学びを想起しながらGWに臨む。効果的な媒体の選択・プレゼンテーションを行う。「小児の虐待」「認知症」
15	事例を通して、各専門職の関りを理解し、多職種連携のあり方を考えることができる	GW	多職種連携の学びを想起しながらGWに臨む。効果的な媒体の選択・プレゼンテーションを行う。「小児の虐待」「認知症」

■受講上の注意

主体的に講義・グループワークに臨むこと。
患者を中心とした良質で安全な医療を提供するために多職種による連携の実際を学び、今後の看護活動に生かすこと。課題の提出期限は厳守すること。

■成績評価の方法

①事前課題「統合実習中に体験した多職種連携」10点　②医療・福祉の専門職の講義終了後の課題レポート「多職種連携の学び、今後の私の課題」25点（5点×5）
③PT・ST・Nsの学習者間との評価40点　④14・15回目の評価25点

■テキスト参考書など

『看護管理』医学書院　学研メディカル秀潤社　月刊誌　ナーシングキャンバス　多職種連携の特集

■備考

保健医療福祉関係職種一覧も参考にすること。
これまでの講義や各領域の実習で学習した多職種連携に関する学びも参考にすること

治療論

講師：太田原 美郎、垂水 千春、山下 佐英

単位数：1単位　時間数：30時間　授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

様々な疾病の回復をはかる代表的な治療について理解を深め、看護実践のエビデンスに活用する基礎的能力を養う

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	手術療法・麻酔法が理解できる	講義	テキスト「治療法概説」の手術療法・麻酔の知識を読んでくる
2	手術療法・頭頸部外科学が理解できる	講義	頭頸部外科学領域における外科的治療法について調べてくる
3	手術療法・呼吸器外科学が理解できる	講義	呼吸器外科学領域における外科的治療法について調べてくる
4	手術療法・循環器外科学が理解できる	講義	循環器外科学領域における外科的治療法について調べてくる
5	手術療法・消化器外科学が理解できる	講義	消化器外科学領域における外科的治療法について調べてくる
6	放射線療法・放射線障害と放射線防護が理解できる	講義	テキスト「治療法概説」の放射線療法を読んでくる
7	放射線治療が理解できる	講義	テキスト「治療法概説」の放射線療法を読んでくる
8	画像診断と看護が理解できる	講義	画像診断について調べてくる
9	放射線治療と看護が理解できる	講義	放射線治療について復習しておく
10	透析療法・腎不全の治療、透析導入が理解できる	講義	テキスト　成人看護学⑧「腎・泌尿器」 医学書院の透析療法、透析療法を受ける患者の看護を読んでくる
11	透析療法の原理が理解できる	講義	テキスト　成人看護学⑧「腎・泌尿器」 医学書院の透析療法、透析療法を受ける患者の看護を読んでくる
12	ME機器の原理と実際（ME機器の電気的安全）が理解できる	講義	テキスト 基礎看護学④「臨床看護総論」の医療機器の原理と実際を読んでくる
13	ME機器使用時の看護・測定用ME機器が理解できる	講義・演習	テキスト 基礎看護学④「臨床看護総論」の医療機器の原理と実際と看護技術プラクティスの心電計、心電図モニターを読んでくる
14	ME機器使用時の看護・治療用ME機器が理解できる	講義・演習	テキスト 基礎看護学④「臨床看護総論」の医療機器の原理と実際と看護技術プラクティスの人工呼吸器、吸引装置、輸液ポンプ、シリンジポンプ、除細動器を読んでく
15	終講試験、まとめ	筆記試験	

■受講上の注意

私語はしないこと、講義の予習をしてくること、忘れ物の無いようにし、主体的に講義に臨むこと

■成績評価の方法

出席状況・受講態度・終講試験などにより総合的に評価する

■テキスト参考書など

テキスト：新体系 看護学全書　別巻「治療法概説」メヂカルフレンド社
基礎看護学④「臨床看護総論」医学書院、
基礎看護技術プラクティス

■備考

環境保健学

講師:青山 公治

単位数:1単位　時間数:15時間　授業学年:1学年

必修選択:必修

■科目目標

環境と相互作用する人間存在について理解を深め、人々の健康の保持・増進を目指して環境要因と生体影響並びにその予防対策の基礎的知識を習得する
1. 健康は我々を取り巻く環境要因と相互作用の中で維持されていることを説明できる
2. 医療従事者としてヒトの健康事象を環境との関りとして捉える。視点を身につける
3. 環境要因の変化による健康影響とそれらの予防対策について述べることができる

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	「環境と人間」 健康はヒトと環境との相互作用の中で成立していることを理解できる	講義	パワーポイント及び配布資料により講義をすすめる。教科書も参考書として併用する。予習は教科書を復習は教科書と配布資料を見直すこと
2	「公害と環境汚染問題」 ヒトと環境との相互作用の限局的な破綻である公害と広域的な地球環境汚染の状況を述べることができる	講義	同上 テキストP193～209を予習してくること
3	「空気の衛星と大気汚染」 正常な空気組成と大気汚染の発生状況を述べることができる	講義	同上 テキストP172～173を予習してくること
4	「水の衛生と水質汚染」 安全な上水供給と下水処理の仕組みを理解し細菌の水質問題について述べることができる	講義	同上 テキストP176～180を予習してくること
5	「物理的環境要因と健康」 温熱条件、電離放射線及び非電離放射線の健康影響と管理について述べることができる	講義	同上 テキストP149～157を予習してくること
6	「化学物質管理と健康」「廃棄処理物」 生活および地球環境における化学物質の汚染問題を列挙しそれらの管理(対策)について述べることができる	講義	同上 テキストP157～160、181～183を予習してくること
7	「職場環境・住居環境と健康」 職場と住居における種々の環境要因と健康影響について述べることができる	講義	同上 テキストP5～7、267～295を予習してくること
8	終講試験とまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

講義内容だけでなく、環境保健に関連する社会情報にも関心を持ちながら理解を深めること

■成績評価の方法

筆記試験　100点

■テキスト参考書など

テキスト:シンプル衛生公衆衛生学2018　南江堂
参考書　:国民衛生の動向　(財)厚生統計協会

■備考

公衆衛生学

講師：安藤 哲夫

単位数：1単位　時間数：15時間　授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

看護師として医療に係る上で大切な意識として、基本的人権としての「健康」を知ることである。WHO（世界保健機構）が提唱する健康である単に病弱でない・病気でないという小さな健康を見守るのではなく、患者とその家族へのQOL（生活の質）の確保・提供に対する心構えを考え・知ろうとするものである。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	公衆衛生の概念 地域・災害時の保健活動を知る	講義	国家試験の過去問を参考に、知るべき事、看護に応用できる事柄を考える
2	ライフステージにおける健康への公衆衛生学的課題を知る	講義	国家試験の過去問を参考に、知るべき事、看護に応用できる事柄を考える
3	医の倫理・終末医療における公衆衛生学的課題を知る	講義	国家試験の過去問を参考に、知るべき事、看護に応用できる事柄を考える
4	国際保健の問題点及び保健統計・人口統計の経年変動を知る	講義	国家試験の過去問を参考に、知るべき事、看護に応用できる事柄を考える
5	国民生活基礎調査における諸問題点を知る	講義	国家試験の過去問を参考に、知るべき事、看護に応用できる事柄を考える
6	母子保健・成人/老人保健及び生活習慣病・精神保健における諸問題点を知る	講義	国家試験の過去問を参考に、知るべき事、看護に応用できる事柄を考える
7	疫学・産業保健・環境保健・感染症についての問題点を知る	講義	国家試験の過去問を参考に、知るべき事、看護に応用できる事柄を考える
8	終講試験とまとめ	筆記試験	過去問の選択式問題である

■受講上の注意

科目目標としての公衆衛生学は、教科書をよく読むことから習得すること。
公衆衛生学の時間数が15時間と限られていることから、看護師国家試験に対応できる能力の習得に大部分の時間を割り当てるので、講義内容を授業時間内に習得してしまうくらいの意思を持って講義に臨むことが大切である。

■成績評価の方法

試験（80%）、授業中の態度（15%）および出席皆勤（5%）

■テキスト参考書など

シンプル衛生公衆衛生学（南江堂）・国家試験過去問精選プリント

■備考

終講試験は配布する国家試験過去問精選プリントからの出題である

健康教育論

講師:山角 和美

単位数:1単位　時間数:15時間　授業学年:2学年

必修選択:必修

■科目目標

人間にとって健康の意味を理解し、人々の健康を維持・増進する健康教育の基礎的知識を習得する

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	現代社会の現状を把握し、これからの社会に求められる健康教育を理解できる	講義・グループワーク	事前課題を持って臨む
2	現代社会の現状を把握し、これからの社会に求められる健康教育を理解できる	講義・グループワーク	事前課題を持って臨む
3	看護におけるヘルスプロモーションについて理解できる	講義	NANDA-Ⅰ:領域1ヘルスプロモーションについて復習して臨む
4	事例から健康教育の必要性を理解できる	講義・個人ワーク	看護過程展開論Ⅰの老年の事例で展開している看護過程記録を持って臨む
5	健康教育で活用する理論が理解できる―自己効力理論―	講義・グループワーク	「健康行動理論の基礎」の第2章自己効力感を読み、予習して臨む
6	健康教育で活用する理論が理解できる―健康信念モデル―	講義・グループワーク	「健康行動理論の基礎」の第1章健康信念モデルを読み、予習して臨む
7	健康教育で活用する理論が理解できる―行動変容のステージモデル―	講義・グループワーク	「健康行動理論の基礎」の第3章変化のステージモデルを読み、予習して臨む
8	終講試験およびまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

個人ワーク・グループワークが多いので、主体的かつ積極的に取り組むこと
学習した知識と技術は自分自身のものになるよう、講義後に復習すること

■成績評価の方法

課題(40点)、試験(60点)により総合的に評価する

■テキスト参考書など

『基礎看護技術Ⅰ』 医学書院
『医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎』 医歯薬出版

■備考

資料プリントは適宜配布する

社会保障論

講師:勝 智樹

単位数:1単位　時間数:15時間　授業学年:3学年

必修選択:必修

■科目目標

社会保障と社会福祉の理念を理解し、社会の中で生活する人々の生活問題に対する法律や施策の基礎的知識を習得する

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	社会保障の定義・理念・予算について理解できる	講義	現代社会と社会福祉・社会保障について予習してくること
2	年金制度について理解できる	講義	年金制度の意義と仕組みについて予習してくること
3	医療保険制度について理解できる	講義	医療保険制度と医療提供体制について予習してくること
4	生活保護について理解できる	講義	公的扶助制度について予習してくること
5	障害児・者と福祉について理解できる①	講義	障害者総合支援法について予習してくること
6	障害児・者と福祉について理解できる②	講義	自立支援及び障碍者雇用、支援について予習してくること
7	虐待防止、DV防止について理解できる	講義	虐待、DV防止の法律について予習してくること
8	終講試験・まとめ	筆記試験	

■受講上の注意

事前学習をもとに講義を行うので、事前の準備をしっかりと行うこと
社会福祉や制度など、看護にとって重要な部分であるので、主体的に学ぶこと
居眠りや私語等は十分に注意すること

■成績評価の方法

筆記試験　100点

■テキスト参考書など

テキスト:社会福祉と社会保障　メディカ出版
参考文献は講義時に提示する

■備考

心理臨床

講師:田沼 利枝

単位数:1単位　時間数:15時間　授業学年:2学年

必修選択:必修

■科目目標

病み、悩み、支えを必要としている人の理解を深め、良い人間関係を築くための基礎的知識を習得するとともに、自己理解や自己の対人関係における傾向について理解を深める

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	臨床援助と人間観、発達観、治療観について理解できる	講義・個人ワーク・DVD	テキストの第1章1節、2節、4節を読んでおくこと。 講義終了後ミニレポート提出
2	臨床援助と人間観、発達観、治療観について理解できる	講義・個人ワーク・DVD	テキストの第1章1節、2節、4節を読んでおくこと。 講義終了後ミニレポート提出
3	情緒障害と心身症について理解できる	講義・個人ワーク・DVD	テキストの第3章2節、4節を読んでおくこと。 講義終了後ミニレポート提出
4	情緒障害と心身症について理解できる	講義・個人ワーク・DVD	テキストの第3章2節、4節を読んでおくこと。 講義終了後ミニレポート提出
5	PTSDについての知識と援助のあり方について理解できる	講義・DVD	テキストの第4章1節を読んでおくこと。 講義終了後ミニレポート提出
6	PTSDについての知識と援助のあり方について理解できる	講義・DVD	テキストの第4章1節を読んでおくこと。 講義終了後ミニレポート提出
7	生きる意味の確立と自己実現的に生きることについて理解できる	講義・DVD	テキストの第7章1節、2節、3節を読んでおくこと。 講義終了後ミニレポート提出
8	終講試験とまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

学習の振り返りのために毎回ミニレポートを提出のこと。
主体的に講義に臨み、テキスト全体を必読して理解を深めてほしい。

■成績評価の方法

授業への参加態度(10%)、授業後のミニレポート(40%)、試験(50%)により総合的に評価

■テキスト参考書など

臨床心理学　生きる意味の確立と心理支援
参考書は適宜授業の中で紹介

■備考

資料プリントは適宜配布する

関係法規

講師：冨安 恵子

単位数：1単位　時間数：30時間　授業学年：4学年

必修選択：必修

■科目目標

看護の職務上、多くの法規に関係しており、看護サービスの提供においては、基盤となる法規および関係法規を理解することが不可欠である。そこで、看護の活動の基盤となる法規を理解するとともに、法規に規定される看護職の身分・業務・責任について理解を深める

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	看護師と関係法規のかかわりを理解できる	講義	テキスト第１部を読んでくる
2	保健師助産師看護師法について理解を深める	講義	テキスト第2部を読んでくる
3	保健、福祉に関する法規について理解を深める	講義	テキスト第2部5章を読んでくる
4	医療保険などに関する法規について理解を深める	講義	テキスト第2部5章を読んでくる
5	感染症予防に関する法規について理解を深める	講義・グループワーク	テキスト第2部4章を読んでくる
6	母子保健、福祉に関する法規について理解を深める	講義・グループワーク	テキスト第2部5章を読んでくる
7	小児保健、福祉に関する法規について理解を深める	講義・グループワーク	テキスト第2部5章を読んでくる
8	高齢者保健、福祉に関する法規について理解を深める	講義・グループワーク	テキスト第2部5章を読んでくる
9	障碍者保健、福祉に関する法規について理解を深める	講義	テキスト第2部5章を読んでくる
10	薬物に関する法規について理解を深める	講義	テキスト第2部4章を読んでくる
11	労働衛生に関する法規について理解できる	講義	テキスト第2部6章を読んでくる
12	環境・食品・公害に関する法律について理解できる	講義・グループワーク	テキスト第2部6章を読んでくる
13	臓器移植法、がん対策等に関する法規について理解を深める	講義・グループワーク	テキスト第2部6章を読んでくる
14	看護における法律問題の事例より看護職の身分・業務・責任の重さを理解する	講義・グループワーク	看護職の身分・業務・責任の重さについて主体的に考える テキスト第3部を読んでくる
15	終講試験およびまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

テキストで予習し臨むこと

■成績評価の方法

終講試験（50%）、小テスト（30%）、受講態度（20%）

■テキスト参考書など

『健康支援と社会保障④看護をめぐる法と制度』 メディカ出版
『看護学生スタディガイド』 照林社　『国民衛生の動向』厚生労働統計協会

■備考

参考文献、資料は適宜、紹介または配布する

統計学

講師：福崎 賢治

単位数：1単位　時間数：30時間　授業学年：3学年

必修選択：必修

■科目目標

統計の基本的な考え方や方法を理解し、統計学的手法を看護活動に活用する基礎的能力を養う

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	データを表や図にできる	講義・演習	配布課題の実施
2	データの特性を示す数値を理解できる	講義・演習	予習を行うこと
3	分散・標準偏差を理解できる	講義・演習	予習を行うこと
4	確率分布・期待値を理解できる	講義・演習	予習を行うこと、小テストの実施
5	二項分布を理解できる	講義・演習	予習を行うこと
6	正規分布を理解できる	講義・演習	予習を行うこと、小テストの実施
7	正規分布表を使える	講義・演習	予習を行うこと
8	標本調査を理解できる	講義・演習	予習を行うこと、小テストの実施
9	標本平均の分布を理解できる	講義・演習	予習を行うこと
10	母平均の推定ができる	講義・演習	予習を行うこと、小テストの実施
11	母比率の推定ができる	講義・演習	予習を行うこと
12	母平均の検定ができる	講義・演習	予習を行うこと、小テストの実施
13	母分散の検定ができる	講義・演習	予習を行うこと
14	母比率の検定ができる	講義・演習	予習を行うこと、小テストの実施
15	終講試験およびまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

予習を必ず実施すること、宿題を課すので必ず実施すること。

■成績評価の方法

平常点10%、小テスト・課題20%、試験70%により総合的に評価する

■テキスト参考書など

『ゼロから学ぶ統計解析』小寺平治著、講談社

■備考

資料プリントは適宜配布する

看護学概論

講師：濱川 孝二

単位数：1単位　時間数：30時間　授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

看護の原点や理念、歴史的背景などについて学び、看護とは何かを考える。また、看護の対象、目的及び看護活動における基本的概念を理解する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	看護の概念、本質を多種の定義を通して学び看護学の学問的体系について理解できる	講義・グループワーク	自己の考える看護についてまとめてくること　第1章「看護の本質」について読んでおくこと
2	看護の歴史について学び、看護の誕生と発展、その後の歩みについて理解できる	講義・DVD	第2章「歴史にみる看護の誕生と発展」について読み、事前課題を済ませること
3	対象である人間について、生物的、心理的、社会的統一体として考えることができる	講義・グループワーク	第3章「看護の対象」について読み、人間とは何か、自己の考えをまとめておくこと
4	健康の概念を理解し、看護の目的である健康の意義のついて考えることができる	講義・グループワーク・DVD	第1章「人間にとって健康とは」について読み、健康とは何か、自己の考えをまとめておくこと
5	生活の要素と健康とのかかわりについて考えることができる	講義・グループワーク	第1章「生活と健康」について読み、生活を整えることの重要性についてまとめておくこと
6	人間にとっての環境について理解し、環境との相互作用について考えることができる	講義・グループワーク	「環境が健康に及ぼす影響」について調べてくること
7	主な看護理論家による「看護の定義」を読み、自己の考える看護について考えを深めることができる	講義・グループワーク	第2章「看護理論の発達」について読み、理論家の述べる看護についてまとめてくること 「看護覚書」「看護の基本となるもの」を持参
8	主な看護理論家による「看護の定義」を読み、自己の考える看護について考えを深めることができる	講義・グループワーク	第2章「看護理論の発達」について読み、理論家の述べる看護についてまとめてくること 「看護覚書」「看護の基本となるもの」を持参
9	主な看護理論家による「看護の定義」を読み、自己の考える看護について考えを深めることができる	講義・グループワーク	第2章「看護理論の発達」について読み、理論家の述べる看護についてまとめてくること 「看護覚書」「看護の基本となるもの」を持参
10	看護の機能と役割、看護活動の概要について理解する。また、看護における継続看護の意義や活動の場について理解できる	講義・グループワーク・DVD	第4章「看護の目標と看護活動がもつ機能」、第5章「看護実践の方法」について読んでおくこと
11	看護の機能と役割、看護活動の概要について理解する。また、看護における継続看護の意義や活動の場について理解できる	講義・グループワーク・DVD	第4章「看護の目標と看護活動がもつ機能」、第5章「看護実践の方法」について読んでおくこと
12	人間の尊厳と倫理的な自覚の必要性について理解し、看護活動における倫理とは何かについて考えることができる	講義・グループワーク	第6章「看護と倫理」について読んでおくこと
13	人間の尊厳と倫理的な自覚の必要性について理解し、看護活動における倫理とは何かについて考えることができる	講義・グループワーク	第6章「看護と倫理」について読んでおくこと
14	保健医療福祉における看護職の役割と抱える課題について理解できる	講義	第7章「現代の保健医療福祉活動における看護の特徴と課題」について読んでおくこと
15	終講試験・まとめ	筆記試験	

■受講上の注意

看護とは何かについて考えていく講義です。遅刻、欠席のない様にすること。
講義前には課題を課す事もあるので、きちんと事前学習を行い提出期限を遵守する。
講義中の私語、携帯等の音については十分に注意すること

■成績評価の方法

平常点 10点（出席状況・受講態度など）、事前課題 10点、筆記試験 80点

■テキスト参考書など

「看護学概論」メヂカルフレンド社
「看護覚え書」現代社 「看護の基本となるもの」日本看護協会出版

■備考

講義での必要な資料等については、適宜紹介、配布する

看護倫理

講師:江口 恵子

単位数:1単位　時間数:15時間　授業学年:3学年

必修選択:必修

■科目目標

医療専門職者としての倫理の基本知識及び看護職者としての責務について学び、看護を実践する上での基本的概念を理解する

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	看護倫理を学ぶ意義について理解できる	講義	看護倫理とは何かについて予習してくること
2	対象の尊厳を守ることの意味について理解できる	講義	尊厳を守ることの意味について調べてくること
3	対象の意思決定をどのように支えるかについて理解できる	講義・DVD	倫理問題へのアプローチについて予習してくること
4	事例における生きることを支える必要性について考える	講義・演習	倫理問題へのアプローチについて予習してくること
5	倫理原則とインフォームドコンセントについて理解できる	講義	生命倫理について予習してくること
6	看護者の倫理綱領について理解できる	講義	看護師の倫理綱領について読んでくること
7	看護師の責務と役割について理解できる	講義	テキストの「看護者の基本的責務」について読んでくること
8	まとめ・終講試験	筆記試験	

■受講上の注意

倫理とは何かについて考える講義です。主体的に学ぶ姿勢で臨んでください。
事例を中心として学びを深めていきます。居眠りや私語など十分に注意してください

■成績評価の方法

筆記試験　80点
課題評価　20点

■テキスト参考書など

テキスト:看護倫理　医学書院
　　看護者の基本的責務　日本看護協会出版会

■備考

必要な資料については、講義時に配布する

共通基本技術Ⅰ

講師：杉戸 結香、池西 静江

単位数：1単位　時間数：30時間　授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

看護技術の意義を理解し、対象の安全・安楽を守るために必要な基礎的知識、技術を習得する

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	1)看護技術の特徴を理解できる 2)看護技術を適切に実践するための要素を理解できる	講義	テキストⅠ序章の予習をしてくること
2	看護における安全・安楽について理解できる	講義	テキストⅠ序章、テキストⅡ序章の予習をしてくること
3	医療安全の重要性と対策について理解できる	講義・グループワーク	テキストⅡ序章の予習をしてくること
4	1)安全確保の技術について理解できる 2)組織における事故防止対策について理解できる	講義	テキストⅡ第14章の予習をしてくること
5	療養環境における危険防止について理解できる	演習・グループワーク	実際の療養環境のリスク予測と対策をグループで考えます
6	苦痛の緩和・安楽確保の技術について理解できる	講義・グループワーク	事例患者への苦痛緩和・安楽確保についてグループで考えます
7	計画した罨法の技術（安楽促進の技術）を実施し、振り返ることができる	演習	安全・安楽な技術を提供するための一連の実践プロセスを踏みます。演習計画書と演習終了後のリフレクションシートは評価対象となります。
8	1)感染の成立条件と感染経路を理解できる 2)感染性廃棄物の取り扱いが理解できる	講義	テキストⅡ第13章、A感染防止の基礎知識とC感染経路別予防策、F感染性廃棄物の取り扱いを予習してくること
9	1)標準予防策の基礎知識が理解できる 2)根拠に基づいた衛生学的手洗いとスタンダードプリコーションが実施できる	講義・演習	テキストⅡ第13章、B標準予防策を予習してくること。演習はチェックリストを使用し衛生学的手洗いとスタンダードプリコーションを確実に実施できるようにしていきます
10	1)標準予防策の基礎知識が理解できる 2)根拠に基づいた衛生学的手洗いとスタンダードプリコーションが実施できる	講義・演習	テキストⅡ第13章、B標準予防策を予習してくること。演習はチェックリストを使用し衛生学的手洗いとスタンダードプリコーションを確実に実施できるようにしていきます
11	医療器材の洗浄・消毒・滅菌方法の基礎知識が理解できる	講義	テキストⅡ第13章D洗浄・消毒・滅菌の予習をしてくること
12	無菌操作の基礎知識と対策の実際が理解できる	講義	テキストⅡ第13章E無菌操作の予習をしてくること
13	ガウンテクニックと無菌操作が正しく実施できる	演習	ガウンテクニックと無菌操作をチェックリストを使用し確実に実施できるようにしていきます。演習計画書と演習終了後のリフレクションシートは評価対象となります
14	ガウンテクニックと無菌操作が正しく実施できる	演習	ガウンテクニックと無菌操作をチェックリストを使用し確実に実施できるようにしていきます。演習計画書と演習終了後のリフレクションシートは評価対象となります
15	まとめ・終講試験	筆記試験	

■受講上の注意

看護技術を提供する際の要素について理解し、看護技術の基盤である安全（感染防止の技術を含む）・安楽の技術について習得する科目です。演習は実習室でおこないますので、身だしなみが整っていない学生は入室できません。

■成績評価の方法

演習計画書10%、リフレクションシート10%、終講試験80%

■テキスト参考書など

『看護学概論』　メヂカルフレンド社　『基礎看護技術Ⅰ』　医学書院
『 基礎看護技術Ⅱ』　医学書院　　『基礎・臨床看護技術』 医学書院

■備考

資料プリントは適宜配布する

共通基本技術Ⅱ

講師：濱川 孝二

単位数：1単位　時間数：15時間　授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

看護における対人関係成立に必要な意思疎通の手段を理解し、演習を通してコミュニケーション技術を習得する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	コミュニケーションをとるということは何かを理解できる	講義・演習	日常生活におけるコミュニケーションについて考えるので、演習には積極的に参加すること
2	五感を活かしたコミュニケーションについて理解できる	講義・演習	テキストの「関係構築のためのコミュニケーションの基本」を予習してくること
3	五感を活かしたコミュニケーションについて理解できる	講義・演習	テキストの「関係構築のためのコミュニケーションの基本」を予習してくること
4	看護技術としてのコミュニケーションを理解できる	講義・グループワーク	テキストの「効果的なコミュニケーションの実際」を予習してくること
5	看護場面におけるコミュニケーションについて理解できる	講義・演習	講義の2～4回をもとに看護におけるコミュニケ―所について考え、事例をもとにロールプレイを行う
6	コミュニケーション障害への対応について理解できる	講義・演習	コミュニケーション障害について予習してくること
7	プロセスレコードの記述方法、意義について理解できる	講義・演習	演習後に各自でのプロセスレコードを記載し提出する（課題提出）
8	終講試験・まとめ	筆記試験	

■受講上の注意

コミュニケーション技術は看護の土台となるものです。
自己のコミュニケーションのあり方を振り返り、対象との人間関係を発展させていくものです。演習が中心になりますので、主体的に取り組んでください。

■成績評価の方法

筆記試験　80点
平常点　　10点（出席状況、受講態度など）
課題提出　10点

■テキスト参考書など

テキスト：基礎看護技術Ⅰ　医学書院
参考書　：看護・臨床看護技術　医学書院

■備考

講義資料については、その都度配布を行う。

共通基本技術Ⅲ

講師：外薗 智子

単位数：2単位　時間数：60時間　授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

ヘルスアセスメントの目的について理解し、対象の健康状態を客観的・系統的に把握するための身体計測、バイタルサインとフィジカルアセスメントに必要な技術を習得する

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	ヘルスアセスメントの目的が理解できる	講義	テキストP60～63　予習
2	ヘルスアセスメントの目的が理解できる	講義	テキストP60～63　予習
3	身体計測をするために必要な知識・技術が理解できる	講義・演習	テキストP107～122　予習
4	バイタルサインの意義、意識レベル・体温に関する基礎的知識・方法・アセスメントが理解できる	講義	解剖生理学テキスト第4章「血液の循環とその調節」復習
5	バイタルサインの意義、意識レベル・体温に関する基礎的知識・方法・アセスメントが理解できる	講義	解剖生理学テキスト第4章「血液の循環とその調節」復習
6	体温異常時の看護が理解できる	講義	終了時、小テスト実施
7	脈拍・呼吸・血圧に関する基礎的知識・方法・アセスメントが理解できる	講義	解剖生理学テキスト第3章・第4章を復習
8	脈拍・呼吸・血圧に関する基礎的知識・方法・アセスメントが理解できる	講義	解剖生理学テキスト第3章・第4章を復習
9	バイタルサイン測定が正確に実施できる	演習	演習計画を立案し、主体的に臨むこと
10	バイタルサイン測定が正確に実施できる	演習	演習計画を立案し、主体的に臨むこと
11	バイタルサイン測定が正確に実施できる	技術試験	バイタルサインの技術評価を行う
12	バイタルサイン測定が正確に実施できる	技術試験	バイタルサインの技術評価を行う
13	呼吸器・循環器のフィジカルアセスメントの目的・方法・アセスメントが理解できる	講義	事前学習（呼吸器・循環器の解剖生理）を十分に行い、臨むこと
14	呼吸器・循環器のフィジカルアセスメントの目的・方法・アセスメントが理解できる	講義	事前学習（呼吸器・循環器の解剖生理）を十分に行い、臨むこと
15	呼吸器・循環器のフィジカルアセスメントの目的・方法・アセスメントが理解できる	講義	事前学習（呼吸器・循環器の解剖生理）を十分に行い、臨むこと
16	消化器のフィジカルアセスメントの目的・方法・アセスメントが理解できる	講義	事前学習（消化器の解剖生理）を十分に行い、臨むこと
17	事例（呼吸器・循環器・消化器）をもとにヘルスアセスメントが実施できる	演習	アセスメントシートを記載し、主体的に臨むこと
18	事例（呼吸器・循環器・消化器）をもとにヘルスアセスメントが実施できる	演習	アセスメントシートを記載し、主体的に臨むこと
19	事例（呼吸器・循環器・消化器）をもとにヘルスアセスメントが実施できる	演習	アセスメントシートを記載し、主体的に臨むこと
20	筋骨格系・脳神経系のフィジカルアセスメントの目的・方法・アセスメントが理解できる	講義	事前学習（筋骨格系・脳神経系の解剖生理）を十分に行い、臨むこと
21	筋骨格系・脳神経系のフィジカルアセスメントの目的・方法・アセスメントが理解できる	講義	事前学習（筋骨格系・脳神経系の解剖生理）を十分に行い、臨むこと

22	筋骨格系・脳神経系のフィジカルアセスメントの目的・方法・アセスメントが理解できる	講義	事前学習（筋骨格系・脳神経系の解剖生理）を十分に行い、臨むこと
23	協同学習を通して小脳機能検査や反射の方法・アセスメントが理解できる	演習	協同学習後、小テストを実施
24	事例をもとに、ヘルスアセスメントができる	演習	事前学習を行い、主体的に臨むこと
25	事例をもとに、ヘルスアセスメントができる	演習	事前学習を行い、主体的に臨むこと
26	事例をもとに、ヘルスアセスメントができる	演習	事前学習を行い、主体的に臨むこと
27	事例をもとに、ヘルスアセスメントができる	演習	事前学習を行い、主体的に臨むこと
28	実習で受持った患者のヘルスアセスメントが再考できる	演習・グループワーク	事前学習を行い、主体的に臨むこと
29	実習で受持った患者のヘルスアセスメントが再考できる	演習・グループワーク	事前学習を行い、主体的に臨むこと
30	終講試験およびまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

解剖生理学Ⅰ～Ⅳで学習したことを復習し、講義に臨むこと
自己学習や放課後などの時間を有効に活用し、技術練習に励み、技術向上を目指すこと

■成績評価の方法

レポート課題（10点）、技術試験（20点）、筆記試験（70点）

■テキスト参考書など

『基礎看護技術Ⅰ』医学書院　　『基礎・臨床看護技術』医学書院
『看護学生　スタディガイド』照林社

■備考

共通基本技術Ⅳ

講師：鹿島 三千代、池西 静江

単位数：1単位　時間数：30時間　授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

看護実践の方法として看護過程の意義を理解し、看護を個別的に展開し、看護問題を科学的に解決するための思考づくりと問題解決方法の基盤を習得する

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	看護過程の意義と構成要素について理解できる	講義	テキスト2，4第3章A・Bの予習
2	看護の視点で対象の病態を理解できる 病態関連図を作成できる	講義・演習	テキスト3を使用
3	NANDA-I分類法と看護診断概念を理解できる	演習	テキスト1,2の予習
4	アセスメントの思考過程が理解できる	演習	テキスト2，4第3章Cの予習
5	NANDA-I分類法と看護診断の理解を深めることができる	講義・演習	事例をもとに看護の道筋を理解する
6	NANDA-I分類法と看護診断の理解を深めることができる	講義・演習	事例をもとに看護の道筋を理解する
7	NANDA-I分類法の理解を深めることができる	講義・演習	事例のアセスメントを行いNANDA-I分類法について理解する
8	NANDA-I分類法の理解を深めることができる	講義・演習	事例のアセスメントを行いNANDA-I分類法について理解する
9	事例（肺炎）の病態関連図とアセスメント、推定問題が抽出できる	講義・演習	実習で使用する記録用紙をもとに1事例のアセスメントを行う
10	事例（肺炎）の病態関連図とアセスメント、推定問題が抽出できる	演習	実習で使用する記録用紙をもとに1事例のアセスメントを行う
11	事例の全体像をとらえ、看護診断を確定することができる	演習	事例のアセスメントをもとに看護診断を確定する
12	看護計画の立案の方法が理解できる 事例の看護計画立案が理解できる	講義・演習	事例の看護診断をもとに看護計画を立案する
13	看護計画の実施・評価の考え方が理解できる	講義・演習	テキスト2，4第3章の予習
14	看護記録の意義、種類が理解できる	講義	テキスト4第3章予習
15	終講試験およびまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

実習の主題となる科目です。努力して「わかってできる」よう毎回の授業に真剣にとりくみましょう。テキスト以外にも解剖生理学、病態生理学、疾病論等あらゆる知識を必要としますので、様々な参考書を活用します。

■成績評価の方法

課題（30点）・試験（70点）で評価する
課題提出については、提出期限を守り提出したものを評価する

■テキスト参考書など

『NANDA-I看護診断―定義と分類2018－2020 』医学書院　『看護診断の手引き（小冊子）』
『看護学生スタディガイド』 照林社　『基礎看護技術Ⅰ』 医学書院

■備考

資料プリントは適宜配布する

生活援助技術Ⅰ

講師：鹿島 三千代

単位数：1単位　時間数：30時間　授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

人間の生活における環境と活動・休息の意義を理解し、対象の状態に適した援助を行うために必要な基礎的知識・技術・態度を習得する

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	病室の環境の諸要素と環境調整について理解できる	講義・グループワーク	ナイチンゲール著「看護覚え書」の環境に関する項目を読んでくる
2	病室・病床の環境整備の目的・方法・留意点について理解できる	講義・グループワーク	環境整備・ベッドメーキングについて演習計画書を作成し持参する
3	基本的なベッドメーキングを実施できる	演習	演習計画書に基づき実施し基本的なベッドメーキングを学ぶ
4	臥床患者のリネン交換を実施できる	演習	臥床患者のリネン交換について演習計画書を作成し持参する
5	姿勢の基礎知識、活動の意義を理解し、活動のアセスメントと援助方法を理解できる	講義・グループワーク	テキスト第4章A①～③を読んでくる 自分の1日の過ごし方を記録してくる 授業の最後に確認テストの実施
6	体位変換の基礎的知識を理解し、安全・安楽を考え実施できる	講義・演習	「水平移動」「仰臥位から側臥位」「仰臥位から端坐位」「上方移動」について演習計画書を作成し持参する
7	体位変換の基礎的知識を理解し、安全・安楽を考え実施できる	講義・演習	「水平移動」「仰臥位から側臥位」「仰臥位から端坐位」「上方移動」について演習計画書を作成し持参する
8	体位変換の基礎的知識を理解し、安全・安楽を考え実施できる	講義・演習	「水平移動」「仰臥位から側臥位」「仰臥位から端坐位」「上方移動」について演習計画書を作成し持参する
9	移動・移乗・移送の目的・方法・留意点が理解できる	講義・グループワーク	テキスト第4章A④⑤を読んでくる
10	演習計画書をもとに移動・移乗・移送の援助が安全・安楽に実施できる	演習	「車椅子の移乗・移送」「ストレッチャーの移動・移送」「歩行介助」について演習計画書を作成し持参する
11	演習計画書をもとに移動・移乗・移送の援助が安全・安楽に実施できる	演習	「車椅子の移乗・移送」「ストレッチャーの移動・移送」「歩行介助」について演習計画書を作成し持参する
12	演習計画書をもとに移動・移乗・移送の援助が安全・安楽に実施できる	演習	「車椅子の移乗・移送」「ストレッチャーの移動・移送」「歩行介助」について演習計画書を作成し持参する
13	睡眠・休息の基本的知識および援助の方法・留意点が理解できる	講義・グループワーク	テキスト第4章Bを読んでくる
14	事例に応じたリネン交換が安全・安楽に実施できる	技術試験	技術試験後、リフレクションを行う
15	終講試験・まとめ	筆記試験	

■受講上の注意

自己学習や放課後などの時間を活用し、技術演習に励み技術向上を目指すこと

■成績評価の方法

授業への参加態度、授業中の課題（10点）、技術試験（20点）、筆記試験（70点）により総合的に評価する

■テキスト参考書など

「基礎看護技術Ⅱ」医学書院
「基礎・臨床看護技術」医学書院

■備考

生活援助技術Ⅱ

講師：出口 美代子

単位数：1単位　　時間数：30時間　　授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

人間の生活における食と排泄を理解し対象の状態に適した援助を行うために必要な基礎的知識、技術、態度を習得する

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	人間にとって食事と排泄の意義が理解できる	講義	消化器系、泌尿器系の解剖生理を復習して臨む テキスト1第2・3章の予習
2	食事と排泄に関する基礎知識 食事のアセスメントを理解できる 食事の援助方法について理解できる	講義	テキスト1第2章の予習 知識確認テストを最後に行うので、消化器系、泌尿器系の解剖生理を復習し臨む
3	経口摂取に問題のある対象を理解できる	講義	援助の方法を選択するための知識と根拠に基づく援助計画
4	経口摂取に問題のある対象への援助方法を理解できる	演習	演習計画に基づいた援助の実施/実施後の振り返り　患者体験を通し援助を受ける対象の心理の理解
5	嚥下障害のある対象への援助方法が理解できる	講義	援助の方法を選択するための知識と根拠に基づく援助方法を身につけましょう。
6	経口摂取が困難な対象への援助方法が理解できる	講義	援助の方法を選択するための知識と根拠に基づく援助方法を身につけましょう。
7	モデル人形に経管栄養法が実施できる	演習	援助の方法を選択するための知識と根拠に基づく援助方法を身につけましょう。
8	排泄のアセスメントを理解できる 排泄の援助方法を理解できる	講義	テキスト1第3章の予習 援助の方法を選択するための知識と根拠に基づく援助計画
9	自然排尿・自然排泄が困難な対象の援助方法を理解する	演習	演習計画に基づいた援助の実施/実施後の振り返り　患者体験を通し援助を受ける対象の心理の理解
10	温罨法・腹部マッサージ・摘便・浣腸の方法が理解できる	講義	援助の方法を選択するための知識と根拠に基づく援助計画（感染予防の技術の復習）
11	温罨法・腹部マッサージの方法を理解できる モデル人形を用いて浣腸の方法を理解できる	演習	援助計画に基づき実施、評価
12	導尿の目的と方法が理解できる	講義	根拠に基づく援助計画
13	モデル人形を用いて導尿の方法を理解できる	演習	援助計画に基づき実施、実施後の振り返り
14	モデル人形を用いて導尿の方法を理解できる	演習	援助計画に基づき実施、実施後の振り返り
15	終講試験　まとめ	筆記試験	

■受講上の注意

消化器系、泌尿器系の知識をもとに技術を習得します。しっかり復習して臨んでください。
看護技術は繰り返し練習し身につくものです。主体的に学習してください。
実習室での授業は身だしなみ・準備が整っていない場合入室できません。

■成績評価の方法

課題評価(30点)・試験（70点）

■テキスト参考書など

『基礎看護技術Ⅱ』　医学書院
『看護・臨床看護技術』　医学書院

■備考

資料プリントは適宜配布する

生活援助技術Ⅲ

講師：杉戸 結香

単位数：1単位　時間数：30時間　授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

人間の生活における身体の清潔と衣生活の意義を理解し、対象の状態に適した援助を行うために必要な基礎的知識・技術・態度を習得する

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	清潔援助の意義を理解し、清潔援助の効果と全身への影響を理解できる	講義・グループワーク	「皮膚・粘膜の構造と機能」の復習と第6章A①を予習してくる
2	清潔援助（入浴・シャワー浴・清拭）の基礎的知識（目的・方法・留意点）が理解できる	講義・グループワーク・演習	テキストや参考書の動画やDVDをみて「臥床患者の全身清拭」について演習計画書を作成してくる
3	衣生活・寝衣交換の基礎的知識（目的・方法・留意点）が理解できる	講義・グループワーク	第6章Bの予習をして臨む
4	演習計画書をもとに全身清拭・寝衣交換が安全・安楽に実施できる	演習	「臥床患者の全身清拭」の演習計画書に「寝衣交換」を追加し、一連の計画書に仕上げて持参する
5	演習計画書をもとに全身清拭・寝衣交換が安全・安楽に実施できる	演習	「臥床患者の全身清拭」の演習計画書に「寝衣交換」を追加し、一連の計画書に仕上げて持参する
6	事例に応じた全身清拭・寝衣交換が安全・安楽に実施できる	演習	提示された事例をもとに演習計画書を根拠・方法を追加してくる
7	事例に応じた全身清拭・寝衣交換が安全・安楽に実施できる	演習	提示された事例をもとに演習計画書を根拠・方法を追加してくる
8	手浴・足浴・陰部洗浄の基礎的知識（目的・方法・留意点）が理解できる	講義・グループワーク	テキストや参考書をもとに、手浴・足浴・陰部洗浄の演習計画書を作成してくる
9	洗髪の基礎的知識（目的・方法・留意点）が理解できる	講義・グループワーク	テキストや参考書をもとに、洗髪の演習計画書を作成してくる
10	演習計画書をもとに洗髪・手浴・足浴・陰部洗浄が安全・安楽に実施できる	演習	演習計画書をもとに各グループ1回ずつは経験できるようにする
11	演習計画書をもとに洗髪・手浴・足浴・陰部洗浄が安全・安楽に実施できる	演習	演習計画書をもとに各グループ1回ずつは経験できるようにする
12	事例に応じた全身清拭・寝衣交換が安全・安楽に実施できる	技術試験	全身清拭・寝衣交換の技術評価
13	事例に応じた全身清拭・寝衣交換が安全・安楽に実施できる	技術試験	全身清拭・寝衣交換の技術評価
14	口腔ケアの基礎的知識（目的・方法・留意点）が理解できる	講義・グループワーク	第6章A⑩の予習をして臨む 歯ブラシ・タオル持参
15	終講試験・まとめ	筆記試験	

■受講上の注意

自己学習や放課後等の時間を活用し、技術試験に励み技術向上を目指すこと

■成績評価の方法

授業への参加態度、授業中の課題（10点）、技術試験（20点）、筆記試験（70点）により総合的に評価する

■テキスト参考書など

「基礎看護技術Ⅱ」医学書院
「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」医学書院

■備考

診療の補助技術 Ⅰ

講師：重光 まり代

単位数：1単位　時間数：30時間　授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

診療に伴う援助の意義を理解し、健康段階に応じて検査･治療･処置を受ける対象に対して看護実践するための基礎的知識、技術、態度を習得できる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	薬の基礎知識をもとに看護師の役割や与薬援助の基礎的知識と援助の実際が理解できる	講義	事前学習を行い講義に臨むこと。 テキスト第9章のA･B･C･D･E･F･Gを読んでくる
2	薬の基礎知識をもとに看護師の役割や与薬援助の基礎知識と援助の実際が理解できる	講義	事前学習を行い講義に臨むこと。 テキスト第9章のA･B･C･D･E･F･Gを読んでくる
3	注射の基本知識と援助の実際が理解できる。安全確保の基礎知識、誤薬防止の基礎的知識が理解できる	講義	テキストの第9章H･I･11章(血液検査)を読んでくる。第14章の安全確保の技術も同時に進めていくため、読んでくること。静脈内採血の演習計画を立案し、授業に臨むこと
4	注射の基本知識と援助の実際が理解できる。安全確保の基礎知識、誤薬防止の基礎的知識が理解できる	講義	テキストの第9章H･I･11章(血液検査)を読んでくる。第14章の安全確保の技術も同時に進めていくため、読んでくること。静脈内採血の演習計画を立案し、演習に臨むこと
5	事例に基づく、静脈内採血の援助の基本知識と援助の実際が理解できる	演習	静脈内採血の演習計画を立案し、演習に臨むこと
6	事例に基づく、静脈内採血の援助の基本知識と援助の実際が理解できる	演習	静脈内採血の演習計画を立案し、演習に臨むこと
7	事例に基づく、筋肉内注射の援助の基本知識と援助の実際が理解できる	演習	筋肉内注射の演習計画を立案し、演習に臨むこと
8	事例に基づく、筋肉内注射の援助の基本知識と援助の実際が理解できる	演習	筋肉内注射の演習計画を立案し、演習に臨むこと
9	点滴静脈内注射（プライミング･三方活栓の使用方法･輸液速度の調整）の基本知識と援助の実際が理解できる 輸血管理の援助の基本知識と援助の実際が理解できる	演習、講義	点滴静脈内注射の演習計画を立案し、演習に臨むこと。第9章の輸血管理を読んでくること
10	点滴静脈内注射（プライミング･三方活栓の使用方法･輸液速度の調整）の基本知識と援助の実際が理解できる 輸血管理の援助の基本知識と援助の実際が理解できる	演習、講義	点滴静脈内注射の演習計画を立案し、演習に臨むこと 第9章の輸血管理を読んでくること
11	検体検査（尿･便･喀痰）の援助の実際、診察･検査･処置の介助（X線撮影、血管造影検査、上部･下部消化管造影、上部･下部内視鏡検査、CT、MRI、超音波検査、肺機能検査、穿刺）の基礎知識と援助の実際が理解できる	講義	テキスト･資料に目を通してくること
12	検体検査（尿･便･喀痰）の援助の実際、診察･検査･処置の介助（X線撮影、血管造影検査、上部･下部消化管造影、上部･下部内視鏡検査、CT、MRI、超音波検査、肺機能検査、穿刺）の基礎知識と援助の実際が理解できる	講義	テキスト･資料に目を通してくること
13	総合演習「上部消化管内視鏡検査後の輸液管理、鎮痛薬のワンショット」	演習	事例をもとに演習計画を立案し、主体的に演習に臨むこと
14	総合演習「上部消化管内視鏡検査後の輸液管理、鎮痛薬のワンショット」	演習	事例をもとに演習計画を立案し、主体的に演習に臨むこと
15	終講試験	筆記試験	筆記試験

■受講上の注意

講義･演習の予習･演習の計画立案を行い、主体的に講義･演習に臨むこと。
忘れ物の無いようにすること。演習回数が多いため、欠席しないように体調管理をすること

■成績評価の方法

①前回の授業確認テスト20点（5点×4回）　②総合演習の課題5点
③リフレクション5点　④筆記試験70点

■テキスト参考書など

『基礎看護技術Ⅱ』　医学書院.　『臨床看護総論』　医学書院
『基礎･臨床看護技術』 医学書院

■備考

診療の補助技術Ⅱ

講師：外薗 智子

単位数：1単位　時間数：15時間　授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

診療に伴う援助の意義を理解し、健康段階に応じて検査・治療・処置を受ける対象に対して看護実践するための基礎的知識・技術・態度を習得する

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	効果的な気道浄化（喀痰の移動・吸引）低酸素血症時の看護が理解できる	講義	呼吸器の解剖生理を復習して臨むこと
2	一時的吸引（口腔・鼻腔）が安全・安楽に実施できる 酸素ボンベの取り扱いが理解できる	演習	配布したチェックリストを熟読し、根拠をもとに実施できるように準備して臨むこと
3	一時的吸引（口腔・鼻腔）が安全・安楽に実施できる 酸素ボンベの取り扱いが理解できる	演習	配布したチェックリストを熟読し、根拠をもとに実施できるように準備して臨むこと
4	血液循環を促進する援助と心臓の負荷を軽減する日常生活援助の方法について理解できる	講義	循環器の解剖生理を復習して臨むこと
5	創傷とその治癒のメカニズムと創治癒のための環境について理解できる 創の洗浄・保護、包帯法を理解できる	講義	皮膚の構造と機能について復習する。小テストを行う 第8章A・Bを読んでくる
6	原理原則に基づいた創傷の処置・包帯法が実施できる	演習	標準予防策・無菌操作に基づいて演習が行えるようにする 第8章Cを読んでくる
7	褥瘡発生の機序とアセスメント方法を理解し、褥瘡予防の援助が理解できる	演習	1年次の「活動・休息」で学んだ体位変換・ポジショニングの復習をしてくる
8	終講試験およびまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

私語はしないこと。講義の予習をしてくること。
忘れ物が無いようにし、主体的に講義に臨むこと。

■成績評価の方法

レポート課題（10点）、技術試験（20点）、筆記試験（70点）

■テキスト参考書など

「基礎看護技術Ⅱ」医学書院　「臨床看護総論」医学書院
「基礎・臨床看護技術」医学書院

■備考

技術演習・評価Ⅰ

講師：外薗 智子

単位数：1単位　時間数：30時間　授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

1年次に習得した様々な看護技術を活用し、事例に応じた看護を実践するための能力を養う

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	科目の意義、具体的な進め方、評価方法の理解ができる。事例の看護を実践するために必要な情報の収集ができる	講義・グループワーク	事前に提示した事例の確認テストを行う。基礎看護技術Ⅰの「看護過程を展開する際に基盤となる考え方」のP211～214を読んでグループワークに臨む
2	3事例の患者理解を深め、必要な援助項目の抽出ができる。患者の状態に応じた安全・安楽・自立を考慮した援助について討議できる	講義・グループワーク	積極的にグループワークに参加すること
3	患者に適した看護計画を立案できる	個人ワーク	基礎看護技術Ⅰの「看護技術を適切に実践するための要素」P8～13を読んでおく具体的な援助の計画立案を行い、提出する
4	指導後の看護計画の追加・修正ができる	個人ワーク	指導後の追加・修正を行う
5	指導後の看護計画の追加・修正ができる	演習	指導後の追加・修正を行う
6	援助計画に沿った援助が安全・安楽・自立に配慮して実施できる	演習	安全・安楽・自立を踏まえた援助技術が実施できるかディスカッションしながら行う
7	援助計画に沿った援助が安全・安楽・自立に配慮して実施できる	演習	安全・安楽・自立を踏まえた援助技術が実施できるかディスカッションしながら行う
8	援助計画に沿った援助が安全・安楽・自立に配慮して実施できる	演習	安全・安楽・自立を踏まえた援助技術が実施できるかディスカッションしながら行う
9	援助計画に沿った援助が安全・安楽・自立に配慮して実施できる	演習	安全・安楽・自立を踏まえた援助技術が実施できるかディスカッションしながら行う
10	看護技術を時間内に、かつ安全・安楽・自立に配慮して実施できる	演習	積極的に演習を行う技術試験に向けて自己の課題を明確にする
11	看護技術を時間内に、かつ安全・安楽・自立に配慮して実施できる	演習	積極的に演習を行う 技術試験に向けて自己の課題を明確にする
12	対象の身体的状態を判断し、状況に応じた看護技術が安全・安楽・自立度を考えて実践できる	技術試験	試験前に技術の練習ができる 試験後に技術のチェックリストを評価して提出する
13	対象の身体的状態を判断し、状況に応じた看護技術が安全・安楽・自立度を考えて実践できる	技術試験	翌日には、演習計画用紙とリフレクションシートを完成して提出する
14	学生モデルの技術を通して、グループで学びの共有ができる。 グループ毎にテーマを決め、ディスカッション後に発表する	演習・グループワーク	積極的にグループワークに参加すること
15	自己の技術の課題が明確にできる	講義	規定の用紙にまとめ、翌日提出する

■受講上の注意

提出物は、期日を厳守すること。主体的に講義や演習に望むこと

■成績評価の方法

事前学習（5点）、確認テスト（10点）、看護援助計画（25点）、技術試験（50点）、リフレクション（10点）の総計100点。出席状況点として、欠席毎に総計点から3点を減点する

■テキスト参考書など

『基礎看護技術Ⅰ』医学書院、『基礎看護技術Ⅱ』医学書院、『臨床看護総論』医学書院、『基礎・臨床看護技術』医学書院

■備考

課題内容と確認テストの内容は事前に知らせる。
個人ワークの内容が評価に繋がるため、個人で取り組むこと。既習した看護技術の復習を行うこと。
これまでの単元で学んだ知識・技術を活用すること。

技術演習・評価Ⅱ

講師：外薗 智子

単位数：1単位　時間数：30時間　授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

1・2年次に習得した様々な看護技術を活用し、事例に応じた看護を実践するための能力を養う

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	科目の意義、具体的な進め方、評価方法の理解ができる。課題の3事例の看護を実践するために必要な情報の収集ができる	講義・グループワーク	事前に提示した事例の確認テストを行う。基礎看護技術Ⅰの「看護過程を展開する際に基盤となる考え方」のP211～214を読んでグループワークに臨む
2	3事例の患者理解を深め、必要な援助項目の抽出ができる。患者の状態に応じた安全・安楽・自立を考慮した援助について討議できる	講義・グループワーク	基礎看護技術Ⅰの「看護技術を適切に実践するための要素」P8～13を読んでおく。積極的にグループワークに参加すること
3	患者に適した看護計画を立案できる	個人ワーク	3回目の講義終了後に提出する
4	指導後の看護計画の追加・修正が実施できる	個人ワーク	指導後の追加・修正を具体的に行う
5	援助計画に沿った技術が安全・安楽・自立に配慮して実施できる	演習	指導後の追加・修正を具体的に行う
6	援助計画に沿った技術が安全・安楽・自立に配慮して実施できる	演習	指導後の追加・修正を具体的に行う
7	援助計画に沿った援助が安全・安楽・自立に配慮して実施できる	演習	2事例の技術試験の提示を受け、積極的にディスカッションしながら演習を行う
8	援助計画に沿った技術が安全・安楽・自立に配慮して実施できる	演習	技術チェックリストに沿って練習する
9	援助計画に沿った技術が安全・安楽・自立に配慮して実施できる	演習	技術チェックリストに沿って練習する
10	看護技術を時間内に、かつ安全・安楽・自立を配慮して実施できる	演習	積極的に演習を行う 技術試験に向けて自己の課題が明確になる
11	看護技術を時間内に、かつ安全・安楽・自立に配慮して実施できる	演習	積極的に演習を行う 技術試験に向けて自己の課題が明確になる
12	対象の身体的状態を判断し、状況に応じた看護技術が安全・安楽・自立度を考えて実践できる	試験	試験前にも技術の練習を行うことができる 技術チェックリストの評価を行い、提出する
13	対象の身体的状態を判断し、状況に応じた看護技術が安全・安楽・自立度を考えて実践できる	試験	リフレクション用紙と行動計画用紙の実施・結果、評価・考察を完成し、翌日提出する。
14	学生モデルの技術を見学し、自己の課題を見出すことができる	演習・グループワーク	学生モデルの技術を通して、自己の技術の課題を明確にする
15	リフレクションを通して、自己の行動や思考を振り返り、自己理解を深め課題を見出すことができる	講義	リフレクションシートを完成し、グループ間で発表する。

■受講上の注意

提出物は、期日を厳守すること。主体的に講義や演習に望むこと

■成績評価の方法

事前学習（10点）、確認テスト（10点）、看護援助計画（20点）、リフレクション（10点）、技術試験（50点）の総計100点。
出席状況点として、欠席毎に総計点から3点を減点する

■テキスト参考書など

『基礎看護技術1』医学書院　『基礎看護技術2』医学書院
『臨床看護総論』医学書院　『根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術』 医学書院

■備考

課題内容と確認テストの内容は事前に知らせる。
個人ワークの内容が評価に繋がるため、個人で取り組むこと。
これまでの講義で学んだ知識・技術を活用すること。

基礎看護学実習

講師:外薗 智子

単位数:1単位　時間数:45時間　授業学年:1学年

必修選択:必修

■科目目標

実習目的
基礎看護実習①
　病院の概要と看護活動の見学を通して、療養環境の場と看護師の役割を理解することができる
基礎看護実習②
　受け持ち患者を理解し、看護活動に必要な知識と技術の理解を深め、看護師としての態度を養う

■科目内容

■学習のねらい

【基礎看護学実習①　15時間】
〈実習目標〉
病院・病棟の構造と役割について述べることができる
安全・安楽な療養環境について述べることができる
看護活動の見学実習に主体的に参加できる
見学実習を通して看護師の役割を理解することができる
〈実習期間および方法〉
　２日間のうち半日は病院見学実習を行い、1日半は病棟で療養環境の場及び看護活動の見学を行う

【基礎看護学実習②　30時間】
〈実習目標〉
　受け持ち患者を理解することができる
　療養環境を整えることができる
　患者にあった援助の必要性と方法を理解できる
　看護職を目指す学生としてふさわしい態度を身に付け行動できる
〈実習期間および方法〉
　1名の患者を受け持ち4日間病棟で実習を行う

■方法

病院等の実習施設での臨地実習

■学習上の留意点
臨地実習指導者、担当教員の指導のもと実習を行う
詳細は実習要綱参照
■受講上の注意
受け持たせていただく患者様とそのご家族に感謝の気持ちを忘れずに実習を行う
指導者とコミュニケーションを図り、実習グループメンバーと協働しながら実習を行う姿勢が必要である
看護学概論、共通基本技術Ⅰ～Ⅲ、生活援助技術Ⅰ～Ⅲで学習した内容を復習して臨むこと。事前学習を行い、主体的に実習にのぞむこと
■成績評価の方法
実習に臨む姿勢、実習内容、実習記録の提出等によって、基礎看護学実習①②各々の実習評価表に基づいて評価を行い、統合して評価を行う
■テキスト参考書など
事前学習内容は、実習前に指示する
■備考
詳細は実習要綱参照

対象別保健論

講師：東 直子

単位数：1単位　時間数：30時間　授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

ライフステージにおける発達段階と健康課題を理解するとともに、健康課題達成にむけた施策について理解を深め、生命の誕生から死にいたるまで、健康的に過ごすための看護について考察する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	対象別保健論の意義を理解できる	講義・個人ワーク	「看護学概論」を持参するとともに、第1章Ⅱを復習してくること（東）
2	母子保健の動向を理解できる	講義・グループワーク	「母性看護学概論」を持参する(冨安)
3	母子に関連した衛生の指標を理解できる	講義・グループワーク	「母性看護学概論」を持参する(冨安)
4	母子保健の施策と保健活動を理解し、看護について考えることができる	講義・グループワーク	「母性看護学概論」を持参する(冨安)
5	小児保健の動向、施策および保健活動を理解し、看護について考えることができる	講義・グループワーク	「小児看護学概論」を持参する(東)
6	学校保健の動向、施策および保健活動を理解し、看護について考えることができる	講義・グループワーク	「小児看護学概論」を持参する(東)
7	成人、高齢者保健の動向を理解できる	講義・グループワーク	「成人・老年看護学概論」を持参する(冨安)
8	成人、高齢者に関連した衛生の指標を理解できる	講義・グループワーク	「成人・老年看護学概論」を持参する(冨安)
9	成人、高齢者保健の施策を理解できる	講義・グループワーク	「成人・老年看護学概論」を持参する(冨安)
10	成人、高齢者保健の保健活動を理解し、看護について考えることができる	行為g・グループワーク	「成人・老年看護学概論」を持参する(冨安)
11	産業保健の動向、施策を理解できる	講義・グループワーク	「成人看護学概論」を持参する(東)
12	産業保健活動を理解し、看護について考えることができる	講義・グループワーク	「成人看護学概論」を持参する(東)
13	障害を持つ人の保健の動向、施策および保健活動を理解し、看護について考えることができる	講義・グループワーク	「社会福祉と社会保障」4-2障害児・者と福祉を読んでくること(冨安)
14	難病保健の動向、施策および保健活動を理解し、看護について考えることができる	講義・グループワーク	「社会福祉と社会保障」4-3難病対策を読んでくること(冨安)
15	終講試験およびまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

各看護学概論を復習して臨む
各看護学概論の講義資料を持参する

■成績評価の方法

個人ワークの課題5%、筆記試験95%

■テキスト参考書など

『社会福祉と社会保障』 メディカ出版　　『シンプル衛生公衆衛生』 南江堂
『看護学生スタディガイド』 照林社　他、随時、必要テキストを追加

■備考

【単位内訳：成人0.4単位、老年・母性・小児　各0.2単位】

保健指導論

講師：冨安 恵子

単位数：1単位　　時間数：30時間　　授業学年：3学年

必修選択：必修

■科目目標

自己効力理論や健康行動理論を理解し、個人、集団における保健指導ができる基礎的能力を養う。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	科目の位置づけ、看護における学習支援、健康行動理論の確認	講義・グループワーク	基礎看護技術Ⅰ（P278～P287）を読んでくる。「健康教育論」の講義内容を振り返る（冨安）
2	健康状態の変化に伴う学習支援 個人・家族を対象とした学習支援	講義・グループワーク	基礎看護技術Ⅰ（P288～P311）を読んでくる。実習での指導場面を振り返っておく（冨安）
3	行動変容に必要な働きかけについて考える（理論を活用したアセスメントができる）	講義・DVD・個人ワーク	既習した保健行動理論を想起し、理解を深めるよう努める。（冨安）
4	行動変容に必要な働きかけについて考える（理論を活用したアセスメントができる）	講義・DVD・個人ワーク	既習した保健行動理論を想起し、理解を深めるよう努める。（冨安）
5	集団指導、個別指導のメリット、デメリットについて学びの確認 集団指導の実際（集団指導の対象、テーマ決定、企画書・指導案作成）	講義・グループワーク	指導の場面を想起しながら、違いについて理解を深め、その活用を考える。自分の取り組みたいテーマを明確にする（冨安）
6	集団指導の実際（企画書・指導案指導内容の検討）	演習	グループメンバーと協力し、適宜助言を求めながら進める。（東）
7	集団指導の実際（媒体の準備）	演習	指導内容について必要な書籍．媒体作成に必要な物品などを用意して臨む（東）
8	集団指導の実際（デモンストレーション、助言後修正）	演習	適宜、助言をもらいながら、集団指導を完成させる（東）
9	集団指導の実際	発表	集団指導の意義、目的、効果（評価）を意識して参加する（東）
10	集団指導の実際	発表	集団指導の意義、目的、効果（評価）を意識して参加する（東）
11	集団指導について振り返る	講義・グループワーク	活発に意見を交わす（東）
12	個別指導の実際（指導計画作成）	講義・個人ワーク	理論を活用しアセスメントする（冨安）
13	個別指導の実際（指導計画作成）	個人ワーク	必要な書籍などを用意して臨む（冨安）
14	個別指導の実際と振り返り	演習・グループワーク	自分が行った指導の方法について振り返り、評価する（冨安）
15	個別指導の実際と振り返り	演習・グループワーク	自分が行った指導の方法について振り返り、評価する（冨安）

■受講上の注意

健康教育論を復習しておくこと。主体的かつ積極的に取り組むこと

■成績評価の方法

課題評価30%、演習態度30%、発表（態度、内容と作成媒体等）40%

■テキスト参考書など

基礎看護技術Ⅰ　　医学書院
医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎　医歯薬出版

■備考

資料、プリントは適宜配布する

看護過程展開論Ⅰ

講師：鹿島 三千代、山角 和美

単位数：1単位　時間数：30時間　授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

看護過程の基本理論を活用し、対象特性を考慮しながら、健康状態に応じた個別性のある看護を提供する過程について事例展開を通して基本的な問題解決能力を養う

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	看護過程の展開方法について理解できる 病態について理解できる	講義	共通基本技術Ⅳの復習をして臨む 共通基本技術Ⅳの資料を持参して臨む
2	成人期にあるCOPD患者の看護過程展開方法が理解できる （NANDA-Iの看護過程展開） 入院1日目の情報収集とアセスメントができる	個人ワーク	事例提示後、事前学習をする 知識確認テストを行う 看護過程用紙とメモ帳を準備して臨む
3	入院3日目の情報を収集しアセスメントし、全体像を把握する	個人ワーク	テキスト・参考書・資料を持参して臨む
4	看護診断が確定できる	個人ワーク	テキスト・参考書・資料を持参して臨む
5	カンファレンスで看護診断の検討を行う	グループワーク	カンファレンスできるよう資料を準備し臨む テキスト・参考書・資料を持参して臨む
6	計画が立案できる	個人ワーク	テキスト・参考書・資料を持参して臨む
7	計画のもと、実施できる	演習	実習室で行う
8	実践をSOAPで記載し、評価・修正できる 看護過程の自己の課題をまとめる	グループワーク	看護過程用紙－4を記載して臨む
9	老年期にある脳梗塞患者の看護過程展開方法が理解できる （NANDA-Iの看護過程展開） 入院１日目の情報収集とアセスメントができる	個人ワーク	知識確認テストを行う 共通基本技術Ⅳの資料を持参して臨む 看護過程用紙とメモ帳を準備して臨む
10	入院2～3日目、5日目の情報を収集しアセスメントできる	個人ワーク	テキスト・参考書・資料を持参して臨む
11	対象の全体像を把握できる	個人ワーク	テキスト・参考書・資料を持参して臨む
12	看護診断が確定できる	個人ワーク	テキスト・参考書・資料を持参して臨む
13	計画が立案できる	個人ワーク	テキスト・参考書・資料を持参して臨む
14	計画のもと、実施できる	演習	実習室で行う
15	実践をSOAPで記載し、評価できる	グループワーク	看護過程用紙－4を記載して臨む

■受講上の注意

実習に直結した科目です。疑問を持ちながら主体的に取り組んでください
遅刻・早退・欠席は減点の対象となります

■成績評価の方法

知識テスト（20点）、事前学習・看護過程（80点）

■テキスト参考書など

『老年看護学』 医学書院　『慢性期看護』 南江堂
『NANDA－I 看護診断ハンドブック』 医学書院

■備考

資料プリントは適宜配布する
【単位内訳：成人0.5単位、老年0.5単位】

看護過程展開論Ⅱ

講師：橋本 ちよみ、四俣 芳子、上敷領 正子

単位数：1単位　時間数：30時間　授業学年：3学年

必修選択：必修

■科目目標

看護過程の基本理論を活用し、対象特性を考慮しながら、健康状態に応じた個別性のある看護を提供する過程について事例展開を通して基本的な問題解決能力を養う

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	脳梗塞後遺症のある在宅療養者への看護過程展開方法が理解できる 事例紹介と情報収集	講義・グループワーク	知識確認テストを行う 在宅看護概論、在宅看護方法論Ⅰ・Ⅱについて復習して臨む
2	支援方法が理解できる	グループワーク	テキスト・参考書を持参して臨む
3	計画が立案できる	グループワーク	テキスト・参考書を持参して臨む
4	計画に基づいて実践できる	演習	実習室で行う
5	看護過程の振り返りができる	グループワーク	記録用紙に全て記載して臨む
6	川崎病を発症した小児と家族の看護過程展開方法が理解できる 事例紹介と情報収集	講義・グループワーク	知識確認テストを行う 小児看護学概論・方法論Ⅰ Ⅱについて復習して臨む
7	支援の方法が理解できる	グループワーク	テキスト・参考書を持参して臨む
8	計画が立案できる	グループワーク	テキスト・参考書を持参して臨む
9	計画に基づいて実践できる	演習	実習室で行う
10	看護過程の振り返りができる	グループワーク	記録用紙に全て記載して臨む
11	正常な産褥期の母児の看護過程展開方法が理解できる 事例紹介と情報収集	講義・グループワーク	知識確認テストを行う 母性看護学方法論、母性看護技術の復習をして臨む
12	支援の方法が理解できる	グループワーク	テキスト・参考書を持参して臨む
13	計画が立案できる	グループワーク	テキスト・参考書を持参して臨む
14	計画に基づいて実践できる	演習	実習室で行う
15	看護過程の振り返りができる	グループワーク	記録用紙に全て記載して臨む

■受講上の注意

実習に直結した科目です。疑問を持ちながら主体的に取り組んでください
遅刻・早退・欠席は減点の対象となります

■成績評価の方法

知識テスト（30点）、看護過程（60点）出席状況・受講態度（10点）

■テキスト参考書など

『地域療養を支えるケア』 メディカ出版　　『小児臨床看護学各論』 医学書院
『母性看護学各論』 医学書院

■備考

資料プリントは適宜配布する
【単位内訳：小児0.3単位、母性0.3単位、在宅0.4単位】

健康回復援助論

講師:上敷領 正子

単位数:1単位　時間数:30時間　授業学年:2学年

必修選択:必修

■科目目標

健康障害を持つ対象を理解し、健康回復に向けて、必要な看護を提供するための基礎的能力を養う

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	健康回復援助論の概要が理解できる 病期のとらえ方と基礎的知識が理解できる	講義	臨床外科総論・慢性期看護を読んでくること
2	病期のとらえ方と基礎的知識が理解できる 患者心理の特徴と影響因子につて理解できる	講義・グループワーク	
3	疾患理解と看護の視点　循環器　心筋梗塞 疾患の成り立ちが理解できる 疾患によって生じる生体変化を理解できる	TBL	
4	疾患理解と看護の視点　消化器　アルコール性肝炎 疾患の成り立ちが理解できる 疾患によって生じる生体変化を理解できる	TBL	
5	疾患理解と看護の視点　腎泌尿　ネフローゼ 疾患の成り立ちが理解できる 疾患によって生じる生体変化を理解できる	TBL	解剖整理・循環器・消化器・婦人科・腎泌尿器・脳神経のテキストや講義資料を読み込んで参加すること。必要と思われる参考図書を各自準備して臨むこと
6	疾患理解と看護の視点　婦人科　子宮筋腫 疾患の成り立ちが理解できる 疾患によって生じる生体変化を理解できる	TBL	
7	疾患理解と看護の視点　脳神経　パーキンソン病 疾患の成り立ちが理解できる 疾患によって生じる生体変化を理解できる	TBL	
8	Scenarioの看護を考える （Scenarioの理解）問題との出会いから解決課題の発見。学習による知識の習得、議論を通じた思考の深化・問題解決過程を身につける	PBL	TBLで学習した内容をさらに深めるために関連するテキストの読み込みと活用 （毎回課題提出作成）
9	Scenarioの看護を考える （Scenarioの理解）問題との出会いから解決課題の発見。学習による知識の習得、議論を通じた思考の深化・問題解決過程を身につける	PBL	TBLで学習した内容をさらに深めるために関連するテキストの読み込みと活用 （毎回課題提出作成）
10	Scenarioの看護を考える （Scenarioの理解）問題との出会いから解決課題の発見。学習による知識の習得、議論を通じた思考の深化・問題解決過程を身につける	PBL	TBLで学習した内容をさらに深めるために関連するテキストの読み込みと活用 （毎回課題提出作成）
11	同上（2クラス疾患ごとのチーム交流）他のクラスと意見交換会により学習内容への新たな気づきと課題の発見	2クラス　合同	発表資料持参
12	同上（クラス発表）学習内容の成果発表を通じて学びの共有（他グループ学習内容の理解）	クラス発表	修正追加した発表資料持参
13	模擬患者を演じるための疾患・治療・患者心理の理解が行え、患者想定ができる	講義・グループワーク	事前に配布された事例学習
14	模擬患者体験及びまとめ　リフレクションを行いグループ間で意見交換を行う	演習	リフレクションを行い患者心理を深める
15	終講試験及びまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

個人学習の成果がグループ学習に影響することを理解したうえで主体的に取り組む

■成績評価の方法

Team-based　learning（TBL）1回4点（計20点）・Problem-based　learning（PBL）におけるチーム課題への取り組み及び発表（60点）模擬患者体験リフレクション（10点）終講試験（10点）

■テキスト参考書など

『解剖生理学』『循環器』『消化器』『腎泌尿器』『女性生殖器』『脳神経』医学書院
『看護学生スタディーガイド』照林社　解剖生理学・疾病論・病理学総論・病態生理学等関連科目で配布された資料

■備考

TBLの学習順序は疾病論Ⅰ～Ⅳの進度に応じて変動する可能性がある。
【単位内訳:成人・老年・小児・母性　各0.1単位、精神0.4単位・在宅0.2単位】

薬物療法と看護

講師：山門 真樹

単位数：1単位　時間数：30時間　授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

薬物療法における看護師の役割を理解するとともに、処方された薬剤の管理および対象に現れる作用・副作用を理解し、適正な薬物療法を行うための基礎的能力を養う

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	薬物療法の基礎的知識について理解を深め、看護の視点で考えることができる	講義	臨床薬理学の第１章「薬物治療の基礎」を読んでくる
2	主要疾患のある対象の薬物療法の特徴が理解できる	講義	臨床薬理学 第3章「主要疾患の臨床薬理学」を読んでくる
3	主要疾患のある対象の薬物療法の特徴が理解できる	講義・グループワーク	臨床薬理学 第3章「主要疾患の臨床薬理学」を読んでくる
4	主要疾患のある対象の薬物療法の特徴が理解できる	講義	臨床薬理学 第3章「主要疾患の臨床薬理学」を読んでくる
5	主要疾患のある対象の薬物療法の特徴が理解できる	講義	臨床薬理学 第3章「主要疾患の臨床薬理学」を読んでくる。小テスト（1回～5回分）10点。
6	精神症状に用いる薬物について理解できる。また、精神障害が薬の管理能力に及ぼす影響について理解できる	講義	臨床薬理学 第3章「主要疾患の臨床薬理学」第4章「精神および神経症状にかかわる薬物」を読んでくる
7	精神障害をもつ対象の服薬管理能力の問題と問題解決に向けた援助について理解できる	講義	臨床薬理学 第3章「主要疾患の臨床薬理学」第4章 精神および神経症状にかかわる薬物の部分を読んでくる。小テスト（6･7回分）5点
8	妊産褥婦と胎児および新生児の薬と「催奇形性」の関係について理解できる。また妊娠中の切迫流早産に使用される薬剤について理解できる	講義	母性看護学概論 第2章 を読んでくる。小テスト5点
9	子どもと母親への対応と小児領域で使用する薬について理解できる	講義	小児看護学概論 第6章 与薬の部分を読んでくる。小テスト5点
10	高齢者の薬物療法と看護について理解できる	講義	老年看護学第6章「薬物療法と看護」を読んでくる
11	在宅における薬物療法とがん外来化学療法について理解できる	講義	在宅療養を支える技術第4章「薬物療法」「がん外来化学療法」を読んでくる 小テスト（10回・11回分）5点
12	事例に応じた薬物療法の基礎的知識に基づいた薬物療法看護のロールプレイができる	グループワーク	5グループに分かれ、①小児：急性気管支肺炎、②老年：心不全、③母性：切迫早産、④精神：統合失調症、⑤在宅：認知症の事例のうち1事例を担当する。必要な看護・看護場面の設定・ロールプレイの場面の原稿を作成する。本時では、グループ分けを行い、各グループで学習計画を立案する。
13	事例に応じた薬物療法の基礎的知識に基づいた薬物療法看護のロールプレイができる	グループワーク	学習計画に応じてグループワークを行う。学習に必要な書籍や資料を集めておくこと
14	事例に応じた薬物療法の基礎的知識に基づいた薬物療法看護のロールプレイができる	グループワーク	発表に必要な資料をまとめる。ロールプレイの配役と発表の準備を行う
15	ロールプレイ発表会およびまとめ	グループワーク	学習成果を各グループA4用紙2枚にまとめ、発表前日に配布する。ロールプレイによる発表と振り返りを行う

■受講上の注意

母性・小児・老年・精神・在宅の領域を超えて薬物療法を受ける対象の理解と薬物療法における看護の役割と援助方法について理解する講義である。

■成績評価の方法

平常点：1点×14回まで。15回は6点。　小テスト：薬物療法の基礎・主要疾患の薬物療法10点　精神、母性、小児、在宅・老年各5点
ロールプレイ発表評価：50点

■テキスト参考書など

「臨床薬理学」 医学書院

■備考

講義での必要な資料等については、適宜紹介、配布する
【単位内訳：老年・小児各0.1単位、母性・在宅各0.2単位、精神0.4単位】

手術療法と看護

講師：冷水 陽子

単位数：2単位　時間数：45時間　授業学年：3学年

必修選択：必修

■科目目標

手術療法についての知識を習得し、周手術期にある患者と家族の看護を行うための基礎的能力を養う

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	1. 手術療法と看護の特徴 手術療法に必要な基礎的知識が理解できる	小テスト・グループワーク	講義開始・終了時に手術療法や麻酔法について小テストを実施する
2	1. 手術療法と看護の特徴 手術療法の特徴と看護の課題が理解できる	講義・グループワーク	手術療法の課題についてテキストを参考に自分の考えをまとめておく
3	2. 周手術期の安全管理 手術室の環境、医療安全が理解できる	講義・グループワーク	医療事故の事例もしくは、KYTについて調べて、意見をまとめておく
4	3. 手術を受ける患者の特徴 麻酔法の特徴と看護が理解できる	講義・グループワーク	麻酔法について復習して臨む
5	3. 手術を受ける患者の特徴 侵襲に対する生体反応が理解できる	講義・グループワーク	事前学習課題：侵襲に対する生体反応について
6	4. 手術前の看護 手術を受ける患者の心理面が理解できる	講義・グループワーク	事前に文献を提示するので内容を要約しておく
7	4. 手術前の看護（胃がんの事例） 手術に必要なアセスメントの視点が理解できる	講義・グループワーク	事前学習課題：胃がんの病態、症状、治療について
8	4. 手術前の看護（胃がんの事例） 手術前の患者教育及び準備が理解できる	講義・グループワーク	手術前に必要な患者教育の内容についてグループワークを行う
9	5. 手術中の看護（胃がんの事例） 手術における麻酔、手術体位の特徴及び手術中の看護が理解できる	講義・グループワーク	手術中の看護師の役割についてグループワークを行う
10	5. 手術中の看護（胃がんの事例） 開腹手術中の生体機能を整える看護が理解できる	講義・グループワーク	第5回の講義内容を踏まえてグループワークを行う
11	6. 術後合併症予防のための看護（胃がんの事例） 開腹術後の合併症と看護が理解できる	講義・グループワーク	術後合併症予防についてグループワークを行う
12	6. 手術後の看護（胃がんの事例） 開腹術を受けた患者の回復を促進する看護が実施できる	演習	事前学習課題：事前に計画を立案し教員の助言をうけて演習を行う
13	6. 手術後の看護（胃がんの事例） 開腹術を受けた患者の合併症を予防する看護が実施できる	演習	事前学習課題：事前に計画を立案し教員の助言をうけて演習を行う
14	7. 術式の特徴に応じた看護 開心術を受ける患者の看護が理解できる	講義・グループワーク	事前学習課題：体外循環について
15	7. 術式の特徴に応じた看護 頭頸部手術を受ける患者の看護が理解できる	講義・グループワーク	喉頭摘出により発声機能を失う患者についてグループワークを行う
16	7. 術式の特徴に応じた看護 腹腔鏡手術を受ける患者の看護が理解できる	講義・グループワーク	事前学習課題：鏡視下手術の特徴
17	8. 高齢者の手術の特徴と看護 高齢者の発達段階を踏まえた手術と看護が理解できる	講義・グループワーク	高齢者の発達段階、発達課題を復習して臨む

18	8. 小児の手術の特徴と看護 小児の発達段階を踏まえた手術と看護が理解できる	講義・グループワーク	小児の発達段階、発達課題を復習して臨む
19	8. 母性の手術の特徴と看護 帝王切開術を受ける妊婦の看護が理解できる	講義・グループワーク	妊婦と新生児の特徴について復習して臨む
20	9. 手術後から社会復帰に向けた看護 手術を受けたことにより社会復帰に必要な患者教育が実施できる	グループワーク	事前に事例を提示する（5事例）保健指導論で学習した理論等を活用しながら取り組む グループで協力しながら課題に取り組む
21	9. 手術後から社会復帰に向けた看護 【指導の媒体の作成】	グループワーク	保健指導論で学習した理論等を活用しながら取り組む グループで協力しながら課題に取り組む
22	9. 手術後から社会復帰に向けた看護 【指導の実際】	プレゼンテーション	プレゼンテーションを通して意見交換しながら学習の共有を図る
23	手術療法と看護のまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

解剖学、病態生理学、麻酔、手術療法の復習をして臨むこと
学習を深めるために、事前に課題を提示するので取り組み授業に臨むこと　　事前課題の提出日は、講義開始時に提示します
演習においては基礎看護技術を復習して事前に計画を立案して臨むこと（演習への参加は必修）
グループワーク・プレゼンテーションでは、グループ全員で協力して臨むこと

■成績評価の方法

事前学習課題および演習後（手術後の看護）のレポート（１０点）、
患者教育指導案作成と発表（２０点）、筆記試験（７０点）により総合的に評価する

■テキスト参考書など

『系統看護学講座　別巻　臨床外科総論　』 医学書院　　『系統看護学講座　別巻　臨床外科看護各論』 医学書院
『成人看護学』『老年看護学』『小児看護学』『母性看護学』 医学書院　　『基礎・臨床看護技術』 医学書院

■備考

資料は適宜配布する 【単位内訳：成人0.6単位、老年・小児・母性　各0.4単位、精神0.2単位】

終末期と看護

講師：垂水 千春

単位数：1単位　時間数：30時間　授業学年：3学年

必修選択：必修

■科目目標

その人らしい生を全うする援助について考えるとともに、人生のどの時期にも起こりうる死の意味を理解し、終末期にある対象及び家族に看護を実践する基礎的能力を養う

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	広義「エンドオブライフケア」、狭義「終末期」の定義・概要・終末期における類依概念（終末期の特徴、患者のニーズ、終末期の課題）が理解できる	講義	テキスト　基礎看護学④「臨床看護総論」の終末期における看護を読んでおく
2	終末期の倫理的課題（意思決定支援、アドバンス・ケア・プランニング、家族への支援）が理解できる	講義	テキスト　終末期看護；エンドオブライフケアの終末期医療における倫理的課題を読んでおく
3	終末期におけるチームアプローチと看護師の役割が理解できる	講義	テキスト　終末期看護；エンドオブライフケアの終末期医療における多職種連携と看護の役割を読んでおく
4	終末期における緩和ケア（緩和ケアの定義、歴史的な発展）が理解できる	講義DVD	テキスト　終末期看護；エンドオブライフケアの緩ケアとは、緩和ケアにおける看護師の役割を読んでおく 緩和ケア認定看護師：プロフェッショナル
5	緩和ケアの様々な場のケアと実践方法（症状マネジメント）が理解できる	講義DVD	テキスト　終末期看護；エンドオブライフケアの全人的苦痛の緩和のⅢ～Ⅶを読んでおく 「終末期の苦痛と緩和ケア」
6	臨死期のケア（脳死や死が近づいた対象者の身体的・心理的変化と家族へのケア）が理解できる	講義	テキスト　終末期看護；エンドオブライフケアの臨死期の看護を読んでおく
7	臨死期のケア（死を迎えるために必要なケアと対象者の死亡後に行うケアの流れとその方法）が理解できる	講義	テキスト　終末期看護；エンドオブライフケアの臨死期の看護を読んでおく
8	小児期・成人期の終末期にある対象者の理解と死の受容が理解できる	講義	テキスト 「成人看護学概論」メディカ出版の成人と死と「小児臨床看護総論」の終末期の子どもと家族の看護を読む
9	老年期の終末期にある対象者の理解と死の受容が理解できる	講義	テキスト 「年看護学」医学書院の終末期における看護を読んでおく
10	在宅で死を迎える対象者と家族への支援が理解できる	講義	テキスト 「年看護学」医学書院の終末期における看護、「在宅看護論」の在宅における終末期看護を読んでおく
11	在宅で死を迎える対象者と家族への支援が理解できる	講義	テキスト 「年看護学」医学書院の終末期における看護、「在宅看護論」の在宅における終末期看護を読んでおく
12	終末期にある子ども家族への看護が理解できる	講義	テキスト「小児看護学概論」の終末期における小児と家族の看護を読んでおく
13	終末期にある子ども家族への看護が理解できる	講義	テキスト「小児看護学概論」の終末期における小児と家族の看護を読んでおく
14	危篤時・死亡時の看護が理解できる	講義・演習	白衣、ナースシューズの準備
15	終講試験・解説	筆記試験	

■受講上の注意

私語はしないこと、講義の予習をしてくること、忘れ物のないようにし、主体的に講義に臨むこと

■成績評価の方法

筆記試験により評価する

■テキスト参考書など

「終末期看護;エンド・オブ・ライフ・ケア 」メヂカルフレンド社　「臨床看護総論」医学書院、「系統看護学講座 小児看護学[1]」医学書院、
「系統看護学講座 老年看護学」医学書院、　「成人看護学概論」MCメディカ出版

■備考

資料プリントは適宜配布する
【単位内訳:成人・老年・小児 各0.1単位、精神0.3単位、在宅0.4単位】

看護過程実習

講師:鹿島 三千代

単位数:3単位　時間数:135時間　授業学年:2学年

必修選択:必修

■科目目標

実習目的
問題解決思考プロセスを用いて、根拠をもって看護を計画的に実践できる能力を養う

■科目内容

■学習のねらい

実習目標
看護に必要な情報を収集することができる
得られた情報をもとにアセスメントを行い、対象の全体像を把握することができる
対象の看護診断を確定し、優先順位をつけることができる
対象の状態に応じて、必要な計画を立案することができる
安全・安楽を考慮して、援助することができる
対象を尊重した態度・倫理的判断に基づき、援助することができる
看護実践を振り返り、看護について考えることができる

実習期間および方法
1名の患者を受け持ち18日間病棟で実習を行う
火曜・木曜の午後は記録指導を行い翌日の看護に生かす

■方法

病院等の実習施設での臨地実習

■学習上の留意点
臨地実習指導者、担当教員の指導のもと実習を行う
詳細は実習要綱参照
■受講上の注意
受け持たせていただく患者とそのご家族に患者の気持ちを忘れずに実習を行う
事前学習を行い、主体的に実習を行う
■成績評価の方法
看護過程実習評価表に基づいて評価を行う
■テキスト参考書など
実習前に提示する
■備考
詳細は実習要綱を参照

成人看護学概論

講師:花園 千恵子

単位数:1単位　時間数:15時間　授業学年:2学年

必修選択:必修

■科目目標

成人各期にある対象の特徴を理解し、健康問題による生活への影響を理解する。また、成人期におこりやすい多様な健康問題に対応する看護の役割と健康の保持増進のための看護を理解する

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	成人期にある人の理解 （成人の定義、成人であることの自覚、成人の区分）が理解できる	講義	テキスト「成人看護学概論」の成人であることを読んでおく
2	成人の成長発達の特徴（成人の成長発達、成人の役割）が理解できる	講義	テキスト「成人看護学概論」の成長発達の特徴を読んでおく
3	成人期の身体機能の特徴と看護（身体機能の安定性と変化、部位別・臓器別・系統別看護、身体機能の変化を分析する視点）が理解できる	講義	テキスト「成人看護学概論」の身体機能の特徴と看護を読んでおく
4	成人の生活を理解する視点とその方法（成人の生活）が理解できる	講義	テキスト「成人看護学概論」の成人の生活を理解する視点と方法を読んでおく
5	成人期にある人を看護するための基本的な考え方が理解できる （セルフケアとオレムの看護理論について事例を用いて理解する）	講義・グループワーク	セルフケアとオレムの看護理論について調べてくる
6	成人期にある人を看護するための基本的な考え方が理解できる （危機モデル、ストレスコーピングについて事例を用いて理解する）	講義・グループワーク	危機モデル、ストレスコーピングについて調べてくる
7	成人期にある人を看護するための基本的な考え方が理解できる（学習の特徴と看護、自己効力について理解する）	講義・グループワーク	テキスト「成人看護学概論」の学習の特徴と看護、自己効力を読んでおく
8	終講試験・解説	筆記試験	

■受講上の注意

私語はしないこと、講義の予習をしてくること、忘れ物の無いようにし、主体的に講義に臨むこと

■成績評価の方法

課題レポート（20点）、筆記試験（80点）により総合評価する

■テキスト参考書など

「ナーシング・グラフィカ22成人看護学概論」MCメディカ出版

■備考

資料プリントは適宜配布する

成人看護方法論Ⅰ

講師：今村 恵

単位数：1単位　時間数：30時間　授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

生命の危機的状況にある急性期および回復期にある対象の特徴を理解し、その状況に応じた基本的看護援助を習得できる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	急性期にある対象の特徴と看護の概念が理解できる	講義	『急性期とは？』について予習してくること。事前レポートは評価対象となります。
2	回復期・リハビリテーション期にある対象の特徴と看護の概念が理解できる	講義	『回復期とは？』『リハビリテーション期とは？』について予習してくること 講義1・2回目のミニテストを行います
3	急性期および回復期にある対象への倫理的配慮について考えることができる	講義	『倫理原則』『看護者の倫理綱領』を復習し持参すること。 授業終了後のレポートは評価対象となります
4	呼吸機能障害のある患者の看護が理解できる	講義・グループワーク	事例患者：肺炎球菌肺炎の病態関連図を作成し授業に臨むこと。呼吸器『肺炎患者の看護』を予習してくること。
5	呼吸機能障害のある患者のリハビリテーション看護について理解できる	講義	呼吸器『症状に対する看護』を予習してくること。 4・5回目のミニテストがあります。
6	呼吸機能障害のある患者に必要なフィジカルアセスメントと看護援助が実施できる	演習	排痰法、体位ドレナージ、ネブライザー、酸素療法、呼吸法の演習をおこないます。 成果物は評価対象となります
7	呼吸機能障害のある患者に必要な看護援助が実施できる	演習	気管内吸引、低圧持続吸引、呼吸機能検査について予習してくること 成果物は評価対象となります
8	循環機能障害のある患者の看護が理解できる	講義・グループワーク	事例患者：心筋梗塞の病態関連図を作成し、授業に臨むこと。循環器『心筋梗塞患者の看護』を予習してくること
9	循環機能障害のある患者のリハビリテーション看護について理解できる	講義・グループワーク	リハビリテーション看護論『循環機能障害をもつ人のリハビリテーション看護』を事前に読んでくること 8・9回目のミニテストを行います
10	循環機能障害のある患者に必要なフィジカルアセスメントと看護援助が実施できる	演習	12誘導心電図、輸液ポンプ、シリンジポンプの取り扱いについて予習してくること。 成果物は評価対象となります
11	脳神経障害のある患者の看護が理解できる	講義・グループワーク	事例患者：高血圧性脳出血の病態関連図を作成し、授業に臨むこと。 脳・神経『症状・障害を持つ患者の看護』を読んでくること
12	脳神経障害のある患者のリハビリテーション看護について理解できる	講義・グループワーク	リハビリテーション看護論『認知障害・コミュニケーション障害を持つ人のリハビリテーション看護』を読んでくること。 11・12回目のミニテストあります。
13	日常生活行動の再獲得を支援する看護援助を考えることができる	グループワーク	事例患者に対し必要な看護援助をグループで考えます。 成果物は評価対象となります。
14	日常生活行動の再獲得を支援する看護援助を実施できる	演習	演習へは十分練習して臨むこと。
15	急性期・回復期・リハビリテーション看護終講試験およびまとめ	筆記試験	1～14回の講義内容を復習しておくこと。 筆記試験と、科目を通しての学びをレポートにまとめます。レポートは評価対象となります。

■受講上の注意

講義・演習はグループワークが多くあります。
各個人が予習・復習を主体的におこないグループで協力して学習成果につなげましょう。

■成績評価の方法

事前レポート(3点：講義1回目）　倫理振り返りレポート5点(講義3回目）
演習成果物９点（講義6、7、10回目：各3点×3回）　ミニテスト12点(各3点×4回：講義2，5，9，12回目）
グループの成果物5点(講義13、14回目）　筆記試験60点、　　科目を通しての学びレポート10点

■テキスト参考書など

『系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学Ⅰ』 医学書院　　『系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学Ⅱ』 医学書院
『臨床看護総論』 医学書院　　『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 呼吸器、循環器、脳・神経』医学書院
『成人看護学 リハビリテーション看護論』ヌーベルヒロカワ　　『基礎・臨床看護技術』医学書院

■備考

資料プリントは適宜配布します

成人看護方法論Ⅱ

講師：花園 千恵子

単位数：1単位　時間数：30時間　授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

慢性疾患など生涯にわたり疾病のコントロールの必要な対象の特徴を理解し、その状況に応じた基本的看護援助を習得する

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	1. 慢性期にある患者の特徴の理解 慢性期にある患者の特徴を理解できる	講義・グループワーク	テキストの該当するところを読んで講義に臨むこと
2	1. 慢性期にある患者の特徴の理解 病気とともに生きることの意味を理解できる	講義・グループワーク	事前に文献を配布するので、内容を要約して講義に臨むこと
3	2. 栄養代謝機能障害のある患者の看護 糖尿病患者の特徴を理解しフィジカルアセスメント、必要な看護が理解できる	講義・グループワーク	糖尿病の病態と症状の事前学習を行うこと
4	2. 感覚機能障害のある患者の看護 視覚機能障害のある患者の看護が理解できる	講義	糖尿病性網膜症の病態と症状について事前学習を行うこと
5	2. 栄養代謝機能障害のある患者の看護 自己血糖測定が実施できる	演習	事前に演習計画を立案し、教員の助言を受けて演習を行うこと
6	4. 排尿機能障害のある患者の看護 排尿障害のある患者の特徴と看護が理解できる	講義	排尿の機能と排尿障害の発生機序と種類について事前学習を行うこと
7	4. 排尿機能障害のある患者の看護 持続的導尿の目的と留意点を踏まえた看護が実施できる	演習	事前に演習計画を立案し、教員の助言を受けて演習を行うこと
8	4. 排尿機能障害のある患者の看護 持続的導尿の目的と留意点を踏まえた看護が実施できる	演習	事前に演習計画を立案し、教員の助言を受けて演習を行うこと
9	4. 脳神経機能障害のある患者の看護 パーキンソン病の患者の看護が理解できる.	講義・グループワーク	パーキンソン病の病態と症状について事前学習を行う
10	5. 生体防御機能障害のある患者の看護 関節リウマチの患者の看護が理解できる	講義・グループワーク	関節リウマチの病態と症状について事前学習を行うこと
11	5. 生体防御機能障害のある患者の看護 HIV患者の看護が理解できる	講義・グループワーク	免疫反応、HIVの病態と症状について事前学習を行うこと
12	6. 内部環境調節機能障害のある患者の看護 慢性腎不全患者の看護が理解できる	講義・グループワーク	腎不全と血液透析法について事前学習を行うこと
13	7. 循環機能障害のある患者の看護 慢性心不全患者の看護が理解できる	講義・グループワーク	慢性心不全の病態と症状について事前学習を行うこと
14	8. 栄養代謝機能障害のある患者の看護 肝硬変の患者の看護が理解できる.	講義・グループワーク	肝硬変の病態と症状について事前学習を行うこと
15	慢性期看護のまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

解剖学、病態生理学の復習をして臨むこと　学習を深めるために、事前学習に取り組み授業に臨むこと
慢性疾患の病態について小テストを実施する　演習では、事前に計画を立案して臨むこと

■成績評価の方法

小テスト（10点）、演習の参加度および演習後のレポート（20点）
筆記試験（70点）により総合的に評価する

■テキスト参考書など

『成人看護学　慢性期看護』 南江堂　『系統看護学講座　代謝,循環器,眼,腎泌尿器,消化器,脳神経,アレルギー』 医学書院
『基礎・臨床看護技術』 医学書院　『臨床看護総論』 医学書院

■備考

資料プリントは適宜配布する

成人看護方法論Ⅲ

講師：垂水 千春

単位数：1単位　時間数：30時間　授業学年：3学年

必修選択：必修

■科目目標

がん看護の全人的苦悩を理解し、症状緩和の方法や日常生活動作の障害に応じた看護を理解する。また、その人らしく最後まで生きることを支えるための看護を理解する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	1.がん医療の現在とがん対策、がん患者の特徴が理解できる（疫学的動向、がん対策、がん患者の身体的・心理社会的特徴と看護、がんサバイバーと就労支援） 2.緩和ケアの歴史・変遷と意義が理解できる	講義	テキスト「がん看護学」のがん医療の現在と「成人看護技術・がんターミナルケア」のⅥ章緩和ケアを読んでおく
2	1.がん患者の全人的苦痛を理解できる 2.がん疾患をもつ患者の身体症状・精神症状を理解できる 3.がん患者の家族への看護援助を理解できる	講義	テキスト「がん看護学」の3章と「成人看護技術・がんターミナルケア」のⅠ章の4.家族ケアを読んでおく
3	1.がん治療の特性を理解できる 2.造血幹細胞移植に対する看護を理解できる	講義	テキスト「がん看護学」の5章と「成人看護技術・がんターミナルケア」のⅤ章を読んでおく
4	がん治療に対する看護（がん手術療法）が理解できる	講義	テキスト「がん看護学」、子宮がん、乳がんのがん手術療法を読んでおく
5	がん治療に対する看護（放射線療法）が理解できる	講義	テキスト「がん看護学」の5章を読んでおく
6	がん放射線療法の看護（有害事象への対策）を理解できる	講義	テキスト「がん看護学」5章のDを読んでおく
7	1.がん化学療法に対する看護を理解できる 2.抗癌薬の有害事象に対するマネジメントを理解できる（末梢神経障害、皮膚障害、脱毛、悪心・嘔吐）	講義	テキスト「がん看護学」5章のCと「成人看護技術・がんターミナルケア」のⅡ章を読んでおく
8	抗癌薬の有害事象に対するマネジメントを理解できる（骨髄抑制）	講義	「成人看護技術・がんターミナルケア」のⅡ章の3を読んでおく
9	事例展開・子宮がん患者の看護を理解できる	講義・グループワーク	「子宮がん患者の看護」に関する資料を各自、準備しておく
10	事例展開・乳がん患者の看護を理解できる	講義・グループワーク	「乳がん患者の看護」に関する資料を各自、準備しておく
11	1.外来がん治療の看護を理解できる 2.がん患者の療養支援を理解できる	講義	テキスト「がん看護学」6章と「成人看護技術・がんターミナルケア」のⅡ章の5を読んでおく
12	症状マネジメント（疼痛コントロール）が理解できる	講義	成人看護技術・がんターミナルケア」のⅥ章を読んでおく
13	技術演習（ストーマパウチ交換）	演習	白衣、ナースシューズの準備
14	技術演習（リラクゼーション）	演習	白衣、ナースシューズ、タオルの準備
15	終講試験・解説	筆記試験	

■受講上の注意

私語はしないこと、講義の予習をしてくること、忘れ物の無いようにし、主体的講義に臨むこと

■成績評価の方法

筆記試験により評価する

■テキスト参考書など

「系統看護学講座 がん看護学」医学書院　成人看護学④「血液・造血器」医学書院
成人看護学⑨「女性生殖器」医学書院　「成人看護技術・がんターミナルケア」メヂカルフレンド社

■備考

資料プリントは適宜配布する

成人看護方法論Ⅳ

講師：今村 恵

単位数：1単位　時間数：30時間　授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

身体的に生命の危機的状況にある対象の救命および生命維持に必要な看護の視点を理解し、看護実践に必要な基本的看護を習得する

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	1. 救急看護の概念と対象の理解 救急看護の概念が理解できる	講義・グループワーク	意見交換を行うので、救急医療の中での看護の役割について自分の考えをまとめて参加すること
2	1. 救急看護の概念と対象の理解 救急看護の特徴と救急体制が理解できる	講義・グループワーク	日本における救急医療体制について調べて参加すること
3	1. 救急看護の概念と対象の理解 危機理論を活用し、患者と家族の心理面の看護が理解できる	講義・グループワーク	事前に文献を提示するので、内容を要約し講義に臨むこと
4	2. 心肺停止状態に必要な看護技術 一次救命処置が実施できる	演習	事前に演習計画を立案し、教員の助言を受けて演習を行うこと
5	2、心肺停止状態に必要な看護技術 二次救命処置が理解できる	講義・グループワーク	救急領域で使用する医薬品について事前学習を行うこと
6	3. 主要病態のアセスメントと看護① 頭蓋内圧亢進時の看護が理解できる	講義・グループワーク	くも膜下出血の事例でグループワークを行う
7	3. 主要病態のアセスメントと看護② 心原性ショック時の初期対応が実施できる	演習	事前に演習計画を立案し、教員の助言を受けて演習を行うこと
8	3. 主要病態のアセスメントと看護② 心原性ショック時の初期対応が実施できる	演習	事前に演習計画を立案し、教員の助言を受けて演習を行うこと
9	3. 主要病態のアセスメントと看護③ 循環血液量減少性ショック時の初期対応が実施できる	演習	事前に演習計画を立案し、教員の助言を受けて演習を行うこと
10	3. 主要病態のアセスメントと看護③ 循環血液量減少性ショック時の初期対応が実施できる	演習	事前に演習計画を立案し、教員の助言を受けて演習を行うこと
11	3. 主要病態のアセスメントと看護④ 胸部外傷の病態と初期対応が理解できる	講義・グループワーク	外傷治療のガイドラインに沿ってグループワークを行う
12	3. 主要病態のアセスメントと看護⑤ 熱傷・中毒時の初期対応が理解できる	講義・グループワーク	熱傷の事例でグループワークを行う
13	3. 主要病態のアセスメントと看護⑥ アナフィラキシーショック時の初期対応が実施できる	演習	事前に演習計画を立案し、教員の助言を受けて演習を行うこと
14	3. 主要病態のアセスメントと看護⑥ アナフィラキシーショック時の初期対応が実施できる	演習	事前に演習計画を立案し、教員の助言を受けて演習を行うこと
15	救急看護のまとめ	筆記試験	救急看護のまとめを実施後に終講試験を実施

■受講上の注意

解剖学、病態生理学、基礎看護技術（診療の補助）の復習をして臨むこと
学習を深めるために、事前に課題を提示するので取り組み授業に臨むこと（課題と提出日は後日指示）　演習時には事前に計画を立案して臨むこと

■成績評価の方法

演習の参加度および演習後のレポート（40点）、筆記試験（60点）により総合的に評価する

■テキスト参考書など

テキスト：『系統看護学講座　別巻　救急看護』 医学書院
参考図書：AHAガイドライン2015　JRC蘇生ガイドライン2015　　外傷初期診療ガイドライン（JATEC）第5版　外傷初期看護ガイドライン（JNTEC）第3版

■備考

資料プリントは適宜配布する

老年看護学概論

講師:山下 京子

単位数:1単位　時間数:15時間　授業学年:2学年

必修選択:必修

■科目目標

老年期にある対象の発達課題及び特性を理解し、「老い」をマイナスのイメージで捉えるのではなく成熟・発達の過程と捉え、その人がその人らしく生活でき、人生を全うするための看護の役割を学ぶことができる

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	1 老いるとはどういうことは理解する 2 老年期にある対象の発達課題を述べることができる	講義	講義前に高齢者に関するアンケートをします 看護学概論を基に老年期の発達段階について事前学習して臨む
2	1 加齢に伴う身体的・精神的・社会的側面の変化を述べることができる	講義	解剖生理を基に感覚器系、循環器系、呼吸器系、腎・泌尿器系、消化器系、脳・神経系について事前学習して臨む
3	1 加齢に伴う身体的・精神的・社会的側面の変化を述べることができる	講義	解剖生理を基に感覚器系、循環器系、呼吸器系、腎・泌尿器系、消化器系、脳・神経系について事前学習して臨む
4	1 高齢者の疑似体験を通して、加齢に伴う身体機能の低下が、日常生活にどのような影響を及ぼしているか述べることができる 2 高齢者のインタビューを通して、時代背景や生活背景が高齢者の多様性や個人差に関連していることを述べることができる	演習・グループワーク	高齢者の疑似体験スーツを着用するため、ジャージを準備する　体験したことを基に日常生活での身体面・精神面への影響を考える
5	1 高齢者の疑似体験を通して、加齢に伴う身体機能の低下が、日常生活にどのような影響を及ぼしているか述べることができる 2 高齢者のインタビューを通して、時代背景や生活背景が高齢者の多様性や個人差に関連していることを述べることができる	演習・グループワーク	5月の連休中に身近な高齢者にインタビューを行いレポートにまとめる（生活史、生きがい、楽しみ、現在の不安）
6	1 我が国の人口の高齢化および社会背景をふまえ、高齢者が住み慣れた地域でその人らしい生活が送れるようにするための地域包括ケアシステムの必要性を述べることができる	講義	老年看護学のテキストの第2章のA高齢社会の統計的輪郭・B高齢社会における保健医療福祉の動向の事前学習をして臨む。
7	1 現在社会における高齢者の置かれている現状を理解し、虐待及び権利擁護のための制度を説明することができる 2 老年看護の役割を述べることができる	講義	老年看護学のテキスト第2章のC高齢社会における権利擁護を事前学習して臨む
8	終講試験およびまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

高齢者の疑似体験は安全面に留意し実施する
インタビューは対象のプライバシーに配慮し実施する

■成績評価の方法

課題レポート10点（必要な項目をインタビューし、既定の用紙に記入し提出する）　終講試験90点

■テキスト参考書など

「老年看護学」医学書院

■備考

老年看護方法論Ⅰ

講師：山角 和美、木場田 哲也

単位数：1単位　　時間数：30時間　　授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

1 高齢者に多い疾患・症状・治療について学び、様々な健康レベルにある対象に必要な援助を理解する
2 介護を必要とする高齢者が活用できる社会資源の実際について学び、高齢者のQOLを高めるための援助を理解する

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	1 高齢者によくみられる症状を理解する 2 症状と状態のアセスメント方法を理解する 3 症状に応じた看護を理解する 1)発熱 2)痛み 3)掻痒感 4)脱水 5)うつ	講義	テキスト「老年看護学」第4章 高齢者によくみられる身体症状とアセスメントを読み、予習して臨む（山角）
2	1 高齢者によくみられる症状を理解する 2 症状と状態のアセスメント方法を理解する 3 症状に応じた看護を理解する 1)発熱 2)痛み 3)掻痒感 4)脱水 5)うつ	講義	テキスト「老年看護学」第4章 高齢者によくみられる身体症状とアセスメントを読み、予習して臨む（山角）
3	1 高齢者によくみられる症状を理解する 2 症状と状態のアセスメント方法を理解する 3 症状に応じた看護を理解する 1)発熱 2)痛み 3)掻痒感 4)脱水 5)うつ	講義	テキスト「老年看護学」第4章 高齢者によくみられる身体症状とアセスメントを読み、予習して臨む（山角）
4	検査を受ける高齢者の看護を理解する	講義	テキスト「老年看護学」第6章 検査を受ける高齢者の看護を読み、予習して臨む（山角）
5	1 身体疾患を持つ高齢者への看護について理解する 1)脳卒中 2)心不全 3)パーキンソン病・パーキンソン症候群 4)インフルエンザ 5)肺炎 6)感染性胃腸炎（ノロウイルス感染症）7)骨粗鬆症 8)骨折 2 認知機能障害のある高齢者の看護を理解する 1)うつ 2)せん妄	講義・協働学習	テキスト「老年看護学」第6章 B疾患を持つ高齢者への看護およびC認知機能障害のある高齢者の看護を読み、予習をして臨む（山角）
6	1 身体疾患を持つ高齢者への看護について理解する 1)脳卒中 2)心不全 3)パーキンソン病・パーキンソン症候群 4)インフルエンザ 5)肺炎 6)感染性胃腸炎（ノロウイルス感染症）7)骨粗鬆症 8)骨折 2 認知機能障害のある高齢者の看護を理解する 1)うつ 2)せん妄	講義・協働学習	テキスト「老年看護学」第6章 B疾患を持つ高齢者への看護およびC認知機能障害のある高齢者の看護を読み、予習をして臨む（山角）
7	1 身体疾患を持つ高齢者への看護について理解する 1)脳卒中 2)心不全 3)パーキンソン病・パーキンソン症候群 4)インフルエンザ 5)肺炎 6)感染性胃腸炎（ノロウイルス感染症）7)骨粗鬆症 8)骨折 2 認知機能障害のある高齢者の看護を理解する 1)うつ 2)せん妄	講義・協働学習	テキスト「老年看護学」第6章 B疾患を持つ高齢者への看護およびC認知機能障害のある高齢者の看護を読み、予習をして臨む（山角）
8	1 身体疾患を持つ高齢者への看護について理解する 1)脳卒中 2)心不全 3)パーキンソン病・パーキンソン症候群 4)インフルエンザ 5)肺炎 6)感染性胃腸炎（ノロウイルス感染症）7)骨粗鬆症 8)骨折 2 認知機能障害のある高齢者の看護を理解する 1)うつ 2)せん妄	講義・協働学習	テキスト「老年看護学」第6章 B疾患を持つ高齢者への看護およびC認知機能障害のある高齢者の看護を読み、予習をして臨む（山角）
9	認知症の種類と症状を理解する	講義	テキスト「老年看護学」第6章認知機能の障害に対する看護を読み、予習して臨む（木場田）
10	認知症の看護、対応を理解する	講義	テキスト「老年看護学」第6章認知機能の障害に対する看護を読み、予習して臨む（木場田）
11	高齢者施設（入所施設・通所施設）の役割・機能を理解する	講義	介護保険制度のサービスについて事前学習して臨む（木場田）
12	高齢者施設での実際から、高齢者に必要な看護を理解し、考察できる	講義	施設看護の考察につなげられるよう、老年看護学概論を復習して臨む（木場田）
13	高齢者の自立支援や介護負担軽減を図るために活用できる福祉用具・モデルルームハウスの展示室を見学する	校外学習	事前に介護保険で利用できる福祉用具、住宅改修について学習してくる（山角）

14	高齢者の自立支援や介護負担軽減を図るために活用できる福祉用具・モデルルームハウスの展示室を見学する	校外学習	事前に介護保険で利用できる福祉用具、住宅改修について学習してくる（山角）
15	終講試験およびまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

老年看護学概論で学習した加齢に伴う身体的変化を復習して講義に臨む
校外学習では身だしなみを整えて見学に臨む　認知症高齢者の思いに馳せて、講義に臨む

■成績評価の方法

校外学習後の課題レポート提出（10点）終講試験（90点）により総合的に評価する

■テキスト参考書など

『老年看護学』 医学書院

■備考

老年看護方法論Ⅱ

講師：山下 京子

単位数：1単位　時間数：30時間　授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

加齢や健康障害に伴って生じる生活機能障害を理解するとともに、高齢者の健康的側面を生かし、安全・安楽をふまえた日常生活援助を学ぶことができる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	疾病や障害を有している高齢者を生活者として捉え、生活機能の視点からアセスメントする必要性を述べることができる	講義	既習の高齢者の身体面・精神面・社会面の変化を復習して臨む
2	加齢や健康障害が活動に及ぼす影響を理解し、必要な看護を述べることができる	講義	脳梗塞の事前学習をして講義に臨む 脳梗塞の病態生理及び看護の小テストを実施
3	片麻痺患者の安全・安楽・自立を踏まえた移乗の援助を実施することができる	演習・グループワーク	事前に脳梗塞の事例を基に片麻痺をイメージして、移乗の援助計画を立て演習に臨む
4	片麻痺患者の安全・安楽・自立を踏まえた移乗の援助を実施することができる	演習・講義	事前に脳梗塞の事例を基に片麻痺をイメージして、移乗の援助計画を立て演習に臨む
5	加齢や健康障害が食事に及ぼす影響を理解し、安全・安楽・自立を踏まえ食事の援助を実施することができる	講義・グループワーク	事前に片麻痺で嚥下障害のある高齢者の事例をもとに食事の援助計画を立て演習に臨む
6	加齢や健康障害が食事に及ぼす影響を理解し、安全・安楽・自立を踏まえ食事の援助を実施することができる	演習・講義	事前に片麻痺で嚥下障害のある高齢者の事例をもとに食事の援助計画を立て演習に臨む
7	高齢者の加齢による変化と健康障害の影響を踏まえ、清潔および身だしなみに必要な援助を理解できる	講義・グループワーク	事例をもとに清潔および身だしなみに必要な援助を事前学習して臨む
8	高齢者の加齢による変化と健康障害の影響を踏まえ、清潔および身だしなみに必要な援助を理解できる	演習・講義	事前に片麻痺のある高齢者の事例をもとに清潔の援助計画を立て演習に臨む
9	高齢者の加齢による変化と健康障害の影響を踏まえ、清潔および身だしなみに必要な援助を理解できる	演習・講義	事前に片麻痺のある高齢者の事例をもとに清潔の援助計画を立て演習に臨む
10	高齢者の加齢による変化および健康障害を踏まえ、排泄のために必要な援助を理解できる	講義・グループワーク	事例をもとに排泄に必要な援助を事前学習して臨む
11	高齢者の加齢による変化と健康障害の影響を踏まえ、排泄に必要な援助を理解できる	演習・講義	事前に片麻痺の事例の高齢者の特徴を踏まえ排泄の援助計画を立て演習に臨む
12	高齢者の加齢による変化と健康障害の影響を踏まえ、排泄に必要な援助を理解できる	演習・グループワーク	事前に片麻痺の事例の高齢者の特徴を踏まえ排泄の援助計画を立て演習に臨む
13	高齢者の加齢による変化および健康障害を踏まえ、高齢者の生きがいづくり・健康の保持・増進のための援助の必要性が理解できる	講義・グループワーク	高齢者へのインタビューを想起し、事前に楽しみや生きがいづくりについて考えて臨む
14	事例の特性を踏まえ、レクレーションを企画・実施することができる	演習・講義	事前に発達段階に応じたレクリエーションの援助計画を立てて演習に臨む
15	終講試験およびまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

基礎看護学（活動・食・排泄・コミュニケーション・清潔）および老年看護学概論の高齢者の特徴を事前学習して講義に臨む
グループワークが多いので主体的に取り組む。援助計画は指定された日に提出する

■成績評価の方法

演習の援助計画5点×5　小テスト5点×4　終講試験55点

■テキスト参考書など

「老年看護学」医学書院

■備考

小児看護学概論

講師：四俣 芳子

単位数：1単位　時間数：15時間　授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

小児の成長発達や養護について学び、看護の役割を理解する

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	小児看護の対象や目的、役割を理解できる	講義・グループワーク	第1章「小児看護の特徴と理念」を読んでくる。図表の内容を理解してくる
2	子どもの成長や発達、発達課題を理解できる	講義・グループワーク	第2章「子どもの成長・発達」を読んでくる
3	新生児の特徴と家族、看護について理解できる	講義・グループワーク	第4章A「新生児」を読んでくる
4	乳児期の特徴と家族、看護について理解できる	講義・グループワーク	第4章B「乳児」を読んでくる
5	幼児期の特徴と家族、看護について理解できる	講義・グループワーク	第5章A「幼児」を読んでくる
6	学童期の特徴と家族、看護について理解できる	講義・グループワーク	第5章B「学童」を読んでくる
7	思春期の特徴と家族、看護について理解できる	講義・グループワーク	第6章「思春期」を読んでくる
8	終講試験およびまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

遅刻、欠席のない様にすること。グループワークではグループダイナミクスを活用し、積極的に参加すること

■成績評価の方法

出席状況・受講態度（10点）、終講試験（90点）

■テキスト参考書など

『小児看護学概論　小児臨床看護総論』医学書院

■備考

適宜、資料を配布する

小児看護方法論Ⅰ

講師:松下 賢治、川上 清

単位数:1単位　時間数:30時間　授業学年:3学年

必修選択:必修

■科目目標

小児に多い疾患を系統別、病態別に分類し、各疾患の病態・症状・診断・治療と看護について理解する

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	染色体異常・体内環境により発症する先天異常と看護について理解できる。	講義	講義前にテキストの第1章を読んでおくこと
2	新生児の看護について理解できる	講義	講義前にテキストの第2章を読んでおくこと
3	代謝性・内分泌・アレルギー性疾患と看護について理解できる	講義	講義前にテキストの第3・4・5章を読んでおくこと
4	感染症と看護について理解できる	講義	講義前にテキストの第6章を読んでおくこと
5	呼吸器疾患と看護について理解できる	講義	講義前にテキストの第7章を読んでおくこと
6	循環器疾患と看護について理解できる	講義	講義前にテキストの第8章を読んでおくこと
7	消化器疾患と看護について理解できる	講義	講義前にテキストの第9章を読んでおくこと
8	血液・造血器疾患と看護について理解できる	講義	講義前にテキストの第10章を読んでおくこと
9	悪性新生物と看護について理解できる	講義	講義前にテキストの第11章を読んでおくこと
10	腎・泌尿器および生殖器疾患と看護について理解できる	講義	講義前にテキストの第12章を読んでおくこと
11	神経疾患と看護について理解できる	講義	講義前にテキストの第13章を読んでおくこと
12	運動器疾患と看護について理解できる	講義	講義前にテキストの第14章を読んでおくこと
13	皮膚・眼・耳鼻咽喉疾患と看護について理解できる	講義	講義前にテキストの第15・16・17章を読んでおくこと
14	精神疾患と看護について理解できる	講義	講義前にテキストの第18章を読んでおくこと
15	終講試験およびまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

講義前に予習をし、講義後には復習を行うこと

■成績評価の方法

筆記試験　100点

■テキスト参考書など

『小児臨床看護各論』医学書院

■備考

適宜、資料を配布する

小児看護方法論Ⅱ

講師：四俣 芳子

単位数：1単位　時間数：30時間　授業学年：3学年

必修選択：必修

■科目目標

成長発達を踏まえて、健康問題や障害をもつ小児と家族の看護を理解する

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	病気や障害に対する子どもと家族の反応および看護を理解できる	講義・グループワーク	小児臨床看護総論 第1章を読んでくる
2	外来受診や入院などの状況（環境）が子どもと家族におよぼす影響を知り、必要な看護を理解できる	講義・グループワーク	小児臨床看護総論 第2章ABを読んでくる
3	入院及び在宅療養における小児看護の特徴を理解できる	講義・グループワーク	小児臨床看護総論 第2章ACを読んでくる
4	慢性期における子どもと家族の反応および看護を理解できる	講義・グループワーク	小児臨床看護総論 第3章Aを読んでくる
5	急性期における子どもと家族の反応および看護を理解できる	講義・グループワーク	小児臨床看護総論 第3章Bを読んでくる
6	周手術期における子どもと家族の反応および看護を理解できる	講義・グループワーク	小児臨床看護総論 第3章Cを読んでくる
7	検査・処置を受ける子どもの看護を理解できる	講義・グループワーク	小児臨床看護総論 第6章を読んでくる
8	症状を緩和し、評価するための基礎知識を習得することができる	協同学習	小児臨床看護総論 第5章を読んでくる 10症状（呼吸困難・チアノーゼ・ショック・意識障害・便秘・浮腫・出血・貧血・発疹・黄疸）から6つ選んでA3（1枚）にまとめる
9	子どものフィジカルアセスメントを理解できる	講義・グループワーク	小児臨床看護総論 第4章を読んでくる
10	障害のある子どもと家族の反応および看護を理解できる	講義・グループワーク	小児臨床看護総論 第7章を読んでくる
11	事故・外傷時の対処・処置・看護を理解できる	講義・グループワーク	小児臨床看護各論19章を読んでくる
12	子どもの虐待と看護を理解できる	講義・グループワーク	小児臨床看護総論 第8章を読んでくる
13	子どもの看護に必要な技術を習得できる （計測、バイタルサイン測定、フィジカルアセスメント、検査時の介助）	演習	クイックノートに調べたことを追記し、演習前に提出する
14	子どもの看護に必要な技術を習得できる （ハイムリック法、PBLS、殿部浴）	演習	演習後リフレクションレポート提出
15	終講試験およびまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

遅刻、欠席のない様にすること。グループワークではグループダイナミクスを活用し、積極的に参加すること

■成績評価の方法

出席状況・受講態度（10点）、10症状プリント（5点）、
リフレクションレポート（5点）、終講試験（80点）

■テキスト参考書など

『小児看護学概論　小児臨床看護総論』医学書院
『小児臨床看護各論』医学書院

■備考

適宜、資料を配布する

母性看護学概論

講師:上敷領 正子

単位数:1単位　時間数:15時間　授業学年:2学年

必修選択:必修

■科目目標

母性の概念、母性の発達、社会構造と母性の変化と母性看護の対象を理解する。
リプロダクティブヘルス／ライツの理念を基に看護の機能と役割を理解する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	母性看護学概論導入 母性の基盤となる概念を理解する	講義・討議	自己の母性観についてまとめておく(社会学等既習学習を復習しておく)
2	母性の基盤となる概念を理解する	講義	テキスト第1章・3章Cを予習しておくこと
3	リプロダクティブヘルス／ライツの概念 母性看護における法的・倫理的問題 (母体の権利・胎児の権利)	講義	第1章(C・d・G)を読み、最近の新聞等情報から母性看護に関するものを1つ以上集めておくこと
4	女性(男性含む)の性と生殖に関する解剖整理、妊娠の生理・思春期・更年期について理解できる	TBL	解剖生理学・疾病論ｖのテキスト・資料及び母性看護学概論第3章・5章(B・c・D)/母性看護学各論第3章を学習してくること
5	リプロダクティブヘルスの視点から、STD/STIの疾患理解と予防方法が理解できる。〈受胎調節の原理と実際が理解できる〉	講義・演習	母性看護学概論第6章(A・B・C・D)を読んでくること。関連する内容について臨床微生物・疾病論ｖなど関連する科目を事前に学習しておく。
6	感染症疾患を抱えている妊産褥婦及び新生児の看護が理解できる 妊娠の意思決定について理解できる	講義	母性看護学概論第6章(C・D)を読んでくること
7	性暴力被害者の身体的・心理的問題と看護について理解できる。外国人妊婦(在日外国人含む)問題について考える	講義	母性看護学概論第6章(F・G・H)読んでくること
8	終講試験およびまとめ	筆記試験	1～7回までの講義を深めておく

■受講上の注意

講義が中心となる。予習を行い積極的に講義に参加し発言を行う

■成績評価の方法

Team-based learning(TBL)　20点　　終講試験　80点

■テキスト参考書など

『母性看護学概論』 医学書院
必要時資料配布

■備考

母性看護学は今現在のあなたがたに深いかかわりのある講義です。産み・育てるとはどのようなことか？多様な性について理解し考えていく機会となります。看護者としての倫理とは何かを考えながら、世間の情報に興味関心を持ち、母性看護とは何かを学ぶ努力をしてほしい。

母性看護方法論Ⅰ

講師：上敷領 正子、堂園 光一郎

単位数：1単位　時間数：30時間　授業学年：3学年

必修選択：必修

■科目目標

周産期にある母体の生理的変化・胎児発育への理解を深める。
周産期にある家族の役割を学び新しい家族役割形成促進の援助について理解する
妊娠・分娩の異常おもな異常と医療的介入と看護について理解できる
生殖補助医療や遺伝カウンセリングを受ける人々の心理・社会的特徴を理解し、倫理的問題について理解する

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	妊娠の概念と妊娠の整理について理解できる 妊娠の理解（妊婦の生理的変化）	講義	母性看護学各論第2章（A）を読んでくること 妊娠に伴う母体の変化が理解できる
2	妊娠各期に行われる検査の目的が理解できる（妊娠の診断法）検査結果と妊娠への影響について理解できる	講義	母性看護学各論第2章（C）を読んでくること
3	妊娠各期の心理が理解できる 妊産褥婦を取り巻く人々の心理について理解できる	講義	母性看護学各論第2章（B）を読んでくること
4	妊婦の理解（妊婦・胎児の健康状態とアセスメントの視点が理解できる）	講義・演習	母性看護学各論Ⅰ（C）を読んでくること
5	妊娠の理解（マイナートラブル・日常生活アセスメント）	講義	母性看護学各論第3章（D）を読んでくること
6	妊娠の理解（保健指導）	講義	母性看護学各論第3章（D）を読んでくること
7	分娩の要素・機序	講義	母性看護各論第4章（A）を読んでくること
8	分娩進行状態つついて理解できる 分娩進行状態に応じた看護が理解できる	講義	母性看護学各論第4章を読んでくること
9	不妊・不育カップルへの看護が理解できる	講義	母性看護学各論第2章を読んでくること
10	ART　妊娠の異常について理解できる （ハイリスク妊娠）	講義	母性看護学各論第7章Ⅰ－Aを読んでくること
11	妊娠の異常について理解できる （妊娠期の感染症、妊娠疾患）	講義	母性看護学各論第7章Ⅰ－B・Cを読んでくること
12	妊娠の異常について理解できる （多胎妊娠、異所性妊娠他）	講義	母性看護学各論第7章D・E・Fを読んでくること
13	分娩の異常について理解できる	講義	母性看護学各論第7章Ⅱを読んでくること
14	分娩の異常について理解できる	講義	母性看護学各論第7章Ⅱを読んでくること
15	終講試験及びまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

本科目は、解剖生理・母性看護学概論にて妊娠までの経過を十分に理解したうえで学習を行うことが必要である。そのため、十分事前学習を行い講義に臨んでほしい。技術に関してはテキストと連動し予習を行うことが必要。欠席等については学則に準じる。

■成績評価の方法

産科医師と合わせて100点満点とする。（割合は講義回数で計算する）

■テキスト参考書など

『母性看護学概論』『母性看護学各論』『母性看護技術』医学書院　適宜資料配布

■備考

妊娠・分娩とダイナミックな変化を遂げる内容の学習に生命の神秘を感じてほしい。健康な妊産褥婦が異常にならないようにする為にどのような看護が必要であるのか柔軟な思考で学習に臨んでほしい。

母性看護方法論Ⅱ

講師：鈴木 泉、堂園 光一郎

単位数：1単位　時間数：30時間　授業学年：3学年

必修選択：必修

■科目目標

妊娠・分娩をふまえ産褥の生理と異常、褥婦、新生児の正常と異常の看護について理解する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	産褥期の身体的変化、心理・社旗的変化が理解できる。①	講義	テキスト第5章Aを読んでくる。 ミニテスト1
2	産褥期の身体的変化、心理・社会的変化を理解できる。②	講義	テキスト第5章A読んでくる。 ミニテスト2
3	新生児の生理が理解できる	講義	テキスト第4章Aを読んでくる。 ミニテスト3
4	正常な産褥経過(褥婦と新生児)のアセスメントの視点を考えられる。	講義	正常な産褥経過（褥婦と新生児はユニット。家族の関連性など）を考える。 テキスト第4章B,第5章B読んでくる。
5	正常な産褥経過(褥婦と新生児)のアセスメントの視点を考えられる。	講義	正常な産褥経過（褥婦と新生児はユニット。家族の関連性など）を考える。 テキスト第4章B,第5章B読んでくる。
6	正常な産褥経過(褥婦と新生児)のアセスメントの視点を考えられる。	講義	正常な産褥経過（褥婦と新生児はユニット。家族の関連性など）を考える。 テキスト第4章B,第5章B読んでくる。
7	褥婦と家族の看護がわかる	講義	テキスト第5章Cを読んでくる ミニテスト4
8	新生児の看護がわかる	講義	テキスト第4章Cを読んでくる ミニテスト5
9	産褥期に必要な看護技術が安全安楽に実施できる。	演習	「子宮底・腹囲測定」「おむつ交換」「抱っこ」「新生児の計測」「新生児のバイタルサイン測定」「沐浴」「調乳」「授乳」など
10	産褥期に必要な看護技術が安全安楽に実施できる。	演習	「子宮底・腹囲測定」「おむつ交換」「抱っこ」「新生児の計測」「新生児のバイタルサイン測定」「沐浴」「調乳」「授乳」など
11	産褥の異常	講義	テキスト第6章Dを読んでくる。
12	新生児の異常	講義	テキスト第6章Cを読んでくる。
13	産褥期の異常の看護がわかる	講義	テキスト第6章Dを読んでくる。
14	新生児の異常の看護がわかる	講義	テキスト第6章Cを読んでくる。 ミニテスト6
15	まとめと終講試験	筆記試験	

■受講上の注意

自己学習を行い、予習をしてくること、主体的に講義に望むこと

■成績評価の方法

ミニテスト(30点)、筆記試験(70点)により総合的に評価する。
家村先生とあわせて100点での評価を行う。（講義回数で計算する）

■テキスト参考書など

『母性看護学各論』医学書院
『母性看護技術』　医学書院

■備考

資料プリントは適時配布する

精神看護学概論

講師:山門 真樹

単位数:1単位　時間数:15時間　授業学年:2学年

必修選択:必修

■科目目標

精神の構造と機能、精神の健康保持・増進および疾病の予防と回復を援助する精神看護の基本的概念について学び、看護援助に必要な基礎的知識について理解する

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	精神的健康の意義と精神看護の考え方について理解できる	講義	講義前にテキストの序章を読んでおくこと
2	精神の構造と働き、精神の発達に関する主要な考え方について理解できる	講義	講義前にテキストの第1・2章を読んでおくこと。
3	学校および職場におけるストレス関連の症状や問題行動について考えることができる	講義	講義前にテキスト第4章を読んでおくこと。
4	・ストレス・危機と精神の健康問題について理解できる ・ストレスコーピングについて理解できる ・セルフマネジメントの考え方と方法を理解できる	講義	講義前にテキストの第5章を読んでおくこと。
5	社会構造や生活様式の変化に伴うこころの健康問題を考えることができる	講義・グループワーク	講義前にテキストの第6章を読んでおくこと。グループワークに積極的に取り組むこと
6	・精神保健医療福祉の歴史的変遷を学び、日本における精神医療の特色と課題について考えることができる。 ・神障がい者を取り巻く法律や制度について理解できる	講義・グループワーク	講義前にテキストの第7章を読んでおくこと。グループワークに積極的に取り組み、自分の意見を述べること
7	・リエゾン精神看護、司法精神医療、災害時の精神保健医療活動の概要を理解できる。 ・看護に求められる社会のニーズを理解できる	講義・グループワーク	グループワークに積極的に取り組み、自分の意見を述べること
8	まとめと終講試験	筆記試験	

■受講上の注意

精神保健医療看護の基本概念を理解する講義です。
予習を行い講義に臨むこと

■成績評価の方法

平常点　10点
筆記試験　90点

■テキスト参考書など

「精神看護学概論　精神保健」メヂカルフレンド社

■備考

講義での必要な資料等については、適宜紹介、配布する

精神看護方法論Ⅰ

講師:鮫島 稔弥

単位数:1単位　時間数:30時間　授業学年:3学年

必修選択:必修

■科目目標

主な精神疾患・精神症状と状態像および精神科での治療について理解する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	精神障害をもちながら生活する人について理解できる	講義	講義前にテキストの第1章を読んでおくこと
2	主な精神症状の分類と状態像が理解できる	講義	講義前にテキストの第2章を読んでおくこと
3	精神科で行われる精神科的診察の概要を理解できる	講義	講義前にテキストの第2章を読んでおくこと
4	精神科で行われる一般検査・画像検査・心理検査の概要を理解できる	講義	講義前にテキストの第2章を読んでおくこと
5	主な精神疾患・障害の診断基準と分類が理解できる	講義	講義前にテキストの第3章を読んでおくこと
6	神経発達症群・神経発達障害群の定義、病因、症状および治療と支援を理解できる	講義	講義前にテキストの第3章を読んでおくこと
7	統合失調症スペクトラム障害の定義、病因、症状および治療と支援を理解できる	講義	講義前にテキストの第3章を読んでおくこと
8	双極性障害および関連障害群、抑うつ障害群の定義、病因、症状および治療と支援を理解できる	講義	講義前にテキストの第3章を読んでおくこと
9	不安症群・不安障害群、強迫症・強迫性障害、心的外傷およびストレス因関連障害群の定義、病因、症状および治療と支援を理解できる	講義	講義前にテキストの第3章を読んでおくこと
10	解離症群・解離性障害群、身体症状症、食行動障害および摂食障害群、睡眠障害群の定義、病因、症状および治療と支援を理解できる	講義	講義前にテキストの第3章を読んでおくこと
11	物質関連障害および嗜癖性障害、神経認知障害群の定義、病因、症状および治療と支援を理解できる	講義	講義前にテキストの第3章を読んでおくこと
12	パーソナリティ障害群、てんかんの定義、病因、症状および治療と支援を理解できる	講義	講義前にテキストの第3章を読んでおくこと
13	講義前にテキストの第3章を読んでおくこと	講義	講義前にテキストの第3章を読んでおくこと
14	精神科のリハビリテーション療法、精神療法の概要を理解できる	講義	講義前にテキストの第3章を読んでおくこと
15	終講試験およびまとめ	筆記試験	100点の筆記試験およびまとめ

■受講上の注意

主な精神疾患・精神障害の概要と治療について理解し、精神を病む人を理解する講義です。
講義前に予習をし、講義後には復習を行うこと

■成績評価の方法

筆記試験　100点

■テキスト参考書など

「精神看護学②　精神障害をもつ人の看護」メヂカルフレンド社

■備考

講義での必要な資料等については、適宜紹介、配布する

精神看護方法論Ⅱ

講師：山門 真樹

単位数：1単位　時間数：30時間　授業学年：3学年

必修選択：必修

■科目目標

精神の健康問題をもつ対象の特徴を理解し、心のバランスを崩している人や精神障がい者及びその家族に対する援助について理解する。また、精神障がいが対象や家族に及ぼす影響を理解し、症状に応じた基本的看護援助を理解する

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	精神障害をもつ人との関わり方と基本的態度について理解できる。	講義	講義前にテキストの第4章を読んでおくこと
2	精神看護におけるアセスメントや看護援助の展開の特徴を理解できる	講義	講義前にテキストの第5章を読んでおくこと
3	精神障害をもつ人の入院における治療的環境とその影響について理解できる	講義	講義前にテキストの第6章を読んでおくこと
4	精神科における安全管理と安全を守るための援助について理解できる。また、倫理的配慮について考えることができる	講義	講義前にテキストの第6章を読んでおくこと
5	双極性障害・抑うつ障害をもつ患者の援助について理解できる	講義	講義に関する疾患について事前学習しておくこと。
6	統合失調症の各病期・各症状別の患者の援助について理解できる	講義・グループワーク	講義に関する疾患について事前学習しておくこと。講義では事例をもとにグループワーク・ロールプレイを実施する。
7	不安障害・ストレス因関連障害・パーソナリティ障害の患者の援助について理解できる	講義・グループワーク	講義に関する疾患について事前学習しておくこと。講義では事例をもとにグループワーク・ロールプレイを実施する。
8	物質関連障害・嗜癖性障害をもつ患者の援助について理解できる	講義・グループワーク	講義に関する疾患について事前学習しておくこと。講義では事例をもとにグループワーク・ロールプレイを実施する。
9	精神障害をもつ人とその家族への退院に向けた支援と地域における支援について理解できる	講義	講義前にテキストの第7章を読んでおくこと
10	事例をもとに精神障害をもつ対象の日常生活上の問題を理解し、問題解決過程の基本的な展開方法を理解できる	講義・個人ワーク	主体的に課題学習に取り組むこと。指示された提出期限を守ること
11	事例をもとに精神障害をもつ対象の日常生活上の問題を理解し、問題解決過程の基本的な展開方法を理解できる	個人ワーク	主体的に課題学習に取り組むこと。指示された提出期限を守ること
12	事例をもとに精神障害をもつ対象の日常生活上の問題を理解し、問題解決過程の基本的な展開方法を理解できる	個人ワーク	主体的に課題学習に取り組むこと。指示された提出期限を守ること
13	事例をもとに精神障害をもつ対象の日常生活上の問題を理解し、問題解決過程の基本的な展開方法を理解できる	個人ワーク	主体的に課題学習に取り組むこと。指示された提出期限を守ること
14	事例をもとに精神障害をもつ対象の日常生活上の問題を理解し、問題解決過程の基本的な展開方法を理解できる	個人ワーク・グループワーク	主体的に課題学習に取り組むこと。指示された提出期限を守ること
15	終講試験およびまとめ	筆記試験	終講試験およびまとめ

■受講上の注意

精神疾患・精神障害をもつ対象の理解を深め、精神を病む人への看護援助の基本を学ぶ講義です。
講義前に予習をし、講義後には復習を行うこと

■成績評価の方法

平常点　5点　課題レポート　25点
筆記試験　70点

■テキスト参考書など

「精神看護学②　精神障害をもつ人の看護」メヂカルフレンド社

■備考

講義での必要な資料等については、適宜紹介、配布する

成人・老年看護学実習Ⅰ

講師：冷水 陽子

単位数：3単位　時間数：135時間　授業学年：3学年

必修選択：必修

■科目目標

急性期にある患者の特徴を理解し、健康状態に合わせた看護援助を習得する

■科目内容

■学習のねらい

実習目標
1）生体機能に急激な変化が生じている患者を理解できる
2）急性期にある患者に必要な治療・検査・処置を理解し、回復を促進させる援助が実施できる
3）回復期にある患者の特徴が理解できる
4）回復を促進する因子を明らかにし、社会復帰に向けての援助が実施できる

実習期間・方法
4週間のうち18日間：病棟実習15日間
手術室実習・集中治療室実習・救急外来実習各1日
病棟実習では、1名の患者を受け持ち実習を行う
手術室・集中治療室・救急外来実習では、指導者のもと原則見学実習を行う
ただし、実習施設によって手術室・集中治療室・救急外来見学実習は、オリエンテーションとなる場合がある

■方法

病院等の実習施設での臨地実習

■学習上の留意点
臨地実習指導者、担当教員の指導のもと実習を行う
詳細は実習要綱参照

■受講上の注意
受け持たせていただく患者様とそのご家族に感謝の気持ちを忘れずに実習を行う
指導者とコミュニケーションを図り、実習グループメンバーと協働しながら主体的に実習を行う姿勢が必要である
実習期間が4週間となり、また見学実習は事前に日時が決められるので、遅刻・欠席等ないように時間管理・健康管理に十分注意する

■成績評価の方法
実習内容・実習記録の提出・実習態度を実習評価表に沿って、総合的に評価する

■テキスト参考書など
実習前に提示する

■備考
詳細は実習要綱参照

成人・老年看護学実習Ⅱ

講師：垂水 千春

単位数：3単位　時間数：135時間　授業学年：3学年

必修選択：必修

■科目目標

実習目的
慢性期もしくは終末期にある患者の特徴を理解し、健康状態に合わせた看護援助を習得する

（慢性期実習）
慢性期にある患者の特徴を理解し、患者のセルフケア能力や症状コントロール能力を高めるための看護援助を習得する
（終末期実習）
終末期にある患者の特徴を理解し、個別性を踏まえた看護援助を習得する

■科目内容

■学習のねらい

慢性期実習
患者の発達段階を踏まえて身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解できる
患者のセルフケア能力や症状コントロール能力に応じた日常生活の支援と自立への援助ができる
患者に必要な社会資源を活用し、包括的ケアについて考えることができる

終末期実習
終末期にある患者の発達段階を踏まえて、身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解できる
終末期にある患者が残された時間を全うし、その人らしく自己実現できるようにQOLを高める援助ができる
医療チーム（保険・医療）における協力・連携の必要性と看護の役割について考える
ことができる

実習期間・方法
4週間のうち18日間：病棟実習15日間
地域連携室実習・外来化学療法室実習・透析室実習各1日
病棟実習では、1名の患者を受け持ち実習を行う
地域連携室・外来化学療法室・透析室では、指導者のもと原則見学実習を行う
ただし、実習施設によって地域連携室・外来化学療法室・透析室実習見学実習は、オリエンテーションとなる場合がある

■方法

病院等の実習施設での臨地実習

■学習上の留意点
臨地実習指導者、担当教員の指導のもと実習を行う
詳細は実習要綱参照
■受講上の注意
受け持たせていただく患者様とそのご家族に感謝の気持ちを忘れずに実習を行う
指導者とコミュニケーションを図り、実習グループメンバーと協働しながら主体的に
実習を行う姿勢が必要である
実習期間が4週間となり、また見学実習は事前に日時が決められるので、遅刻・欠席等ないように時間管理・健康管理に十分注意する
■成績評価の方法
実習内容・実習記録の提出・実習態度を実習評価表に沿って、総合的に評価する
■テキスト参考書など
実習前に提示する
■備考
詳細は実習要綱参照

老年看護学実習

講師:山角 和美

単位数:2単位　時間数:90時間　授業学年:2学年

必修選択:必修

■科目目標

実習目的
地域で生活している高齢者の特徴を理解し、多職種との連携を踏まえた看護の役割と機能を学び必要な看護援助を習得する

■科目内容

■学習のねらい

実習目標
1. 高齢者の特徴を理解することができる
2. 高齢者の日常生活の自立に向けての援助の必要性を理解し、指導者とともに実践することができる
3. 高齢者を取り巻く保健医療福祉の役割と連携の必要性を理解することができる
4. 高齢者との関わりを通して自己の老年観を養うことができる

実習期間及び方法
介護老人保健施設または介護老人福祉施設:4日間(1名の利用者を受け持つ)
デイケアまたはデイサービス　:3日間
グループホーム　:3日間
高齢者福祉センター　:1日間
まとめ　:1日間

■方法

病院等の実習施設での臨地実習

■学習上の留意点
臨地実習指導者、担当教員の指導のもと実習を行う
詳細は実習要綱参照

■受講上の注意
実習場所が数か所になることや教員が常駐していないので、自主的に指導者や教員と連携を図る。各グループ間の事前の申し送りをしっかりする。
事前学習:老年期にある対象の特徴、老人福祉法・介護保険法、高齢者を支える職種と役割、認知症の病態生理及び看護、老年看護技術(日常生活援助)

■成績評価の方法
老年看護学実習の実習評価表に基づいて各実習施設ごとに評価する。

■テキスト参考書など
「老年看護学」医学書院　「基礎・臨床看護技術」医学書院

■備考
場所別の実習内容については、実習要綱参照

小児看護学実習

講師:四俣 芳子

単位数:2単位　時間数:90時間　授業学年:3学年

必修選択:必修

■科目目標

実習目的

小児の特徴を理解し、健康と成長・発達が促進されるよう小児とその家族の看護に必要な基礎的知識・技術・態度を習得する

■科目内容

■学習のねらい

実習目標(保育園)
健康な乳幼児の特徴を理解できる
発達過程に応じた養護と成長・発達を促す援助の実際について理解できる

実習目標(病院)
患児の発達段階・健康状態を理解できる
患児の健康状態に応じて、患児とその家族に必要な看護が理解できる
小児を対象とする病棟(外来)での看護師の役割を理解できる

実習目標(ことばの支援センター)
発達支援が必要な乳幼児の特徴を知る
発達過程に応じた養護と成長・発達を促す援助の実際について知る
小児の発達において活用できる社会資源を知る

実習期間および方法

保育園	5日間(37時間)	病棟(外来)	5日間(37時間)
ことばの支援センター	1日間(7時間)	学内演習	1日間(7時間)

■方法

病院等の実習施設での臨地実習

■学習上の留意点

臨地実習指導者、担当教員の指導のもと実習を行う
詳細は実習要綱参照

■受講上の注意

看護者の倫理綱領に基づき行動する
事前学習を十分に行い、主体的に実習に臨む

■成績評価の方法

ルーブリックに基づき、教員が評価を行う

■テキスト参考書など

小児看護学概論(医学書院)　小児臨床看護各論(医学書院)　その他

■備考

詳細は実習要綱参照

母性看護学実習

講師:上敷領 正子

単位数:2単位　時間数:90時間　授業学年:3学年

必修選択:必修

■科目目標

実習目的
妊娠・分娩・産褥期における母親と新生児及び家族の特徴を理解し、看護に必要な基礎的知識・技術・態度を習得する

■科目内容

■学習のねらい

実習目標
妊婦健康診査を通して、妊婦の身体的・心理的・社会特性を理解し、保健指導のあり方について考えることができる
分娩の進行状況を理解し、分娩の進行促進と産婦の安楽についての援助を考えることができる
褥婦の退行性変化と進行性変化を観察し、褥婦に必要な援助を考え実践することができる
新生児の胎外生活適応過程について理解し、安全に育児技術を実践することができる
周産期にある母子を取り巻く環境や社会資源について理解することができる
母性看護の実践を通して、自己の母性(父性)の育成を育む

実習期間及び方法
10日間の病院実習、1日は助産院実習、1日は学内指導技術演習　合計12日間

実習期間及び方法
産婦人科外来・病棟実習(産褥・新生児)・機能別実習(分娩・新生児・手術室・各種指導〔帰室指導/退院指導・沐浴指導〕)・マザークラス・1か月健診

■方法

病院等の実習施設での臨地実習

■学習上の留意点
臨地実習指導者、担当教員の指導のもと実習を行う
詳細は実習要綱参照
■受講上の注意
妊娠・分娩・産褥期にある女性と新生児及びその家族に対して真摯に向き合い感謝の気持ちをもって実習を行う
指導者とのコミュニケーションを図り、グループダイナミクスを活用しながらメンバーとともに学びを深める姿勢が大切である
母性看護学概論・母性看護学方法論Ⅰ・母性看護学方法論Ⅱ・看護過程展開論Ⅱ(母性)で学習したことを復習して臨む
事前学習を十分に行い、主体的に実習に臨む
■成績評価の方法
実習に臨む姿勢、実習内容、実習記録及び課題レポート・指導案(媒体含む)等の提出などを実習評価法に基づいて評価を行い、
■テキスト参考書など
実習前に指示する
■備考
詳細は実習要綱参照

精神看護学実習

講師：山門 真樹

単位数：2単位　時間数：90時間　授業学年：3学年

必修選択：必修

■科目目標

実習目的
精神障がいをもつ対象の理解を深め、こころの健康問題が日常生活に影響を及ぼしていることを把握し、看護に必要な知識・技術・態度を習得する

■科目内容

■学習のねらい

実習目標
1）精神に障がいをもつ対象と家族の特性を理解できる
2）対象の健康状態をアセスメントし、必要な日常生活援助ができる
3）治療的援助関係について理解できる
4）対象に行われている治療の実際と環境を理解し、必要な援助ができる
5）精神保健・医療・福祉チームの連携とチームにおける看護の役割について考えることができる
6）地域で生活する精神障がい者への支援の実際を知ることができる

実習期間および方法
精神科病院実習　（10日間）　1名の患者を受け持ち、実習を行う
精神科デイケア実習　（1日間）
地域医療福祉連携課実習（1日間）

■方法

病院等の実習施設での臨地実習

■学習上の留意点
臨地実習指導者、担当教員の指導のもと実習を行う
詳細は実習要綱参照
■受講上の注意
受け持たせていただく患者様とその家族に感謝の気持ちを忘れずに実習を行う。
指導者とコミュニケーションを図り、実習グループメンバーと協働しながら実習を行う姿勢が必要である。
事前学習を行い、主体的に実習に臨むこと。
■成績評価の方法
実習に臨む姿勢、実習内容、実習記録の提出等によって、実習評価表に基づいて評価を行う。
■テキスト参考書など
新体系看護学全書　精神看護学①　精神看護学概論　精神保健
■備考
詳細は実習要綱参照

在宅看護概論

講師：橋本 ちよみ

単位数：1単位　時間数：15時間　授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

社会の変化と多様化する在宅看護活動について学び、疾病や障害を持ちながら在宅で生活している療養者及び家族への理解を深め、在宅看護における看護師の役割と機能について理解する

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	在宅看護の歴史的変遷、社会的背景について理解できる	講義・グループワーク	テキスト第1章を読んでくる
2	在宅療養者と家族の支援、家族に関する基礎理論について理解できる	講義	テキスト第2章を読んでくる
3	在宅療養を支える看護について理解できる	講義	テキスト第3章を読んでくる
4	在宅ケアを支える制度と社会資源について理解できる	講義・グループワーク	テキスト第5章を読んでくる
5	在宅療養者の理解とそれを支える社会資源の実際について学ぶ	施設見学	施設見学前に、施設の概要・施設を利用する対象者について学習しまとめる
6	在宅療養者の理解とそれを支える社会資源の実際について学ぶ	施設見学	施設見学前に、施設の概要・施設を利用する対象者について学習しまとめる
7	在宅ケアのケアマネジメントと関係機関・関係職種間の連携について理解できる	講義・グループワーク	テキスト第4章を読んでくる
8	終講試験およびまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

グループワークなど、主体的に授業に参加する
正当な理由のない遅刻・早退・欠席は減点の対象となる

■成績評価の方法

終講試験（80点）、授業内課題（20点）

■テキスト参考書など

『地域療養を支えるケア』在宅看護論　メディカ出版

■備考

資料プリントは適宜配布する

在宅看護方法論Ⅰ

講師：冨安 恵子

単位数：1単位　時間数：30時間　授業学年：3学年

必修選択：必修

■科目目標

在宅で提供する基礎的看護技術を習得するために、在宅看護における基本技術や日常生活援助技術について理解する。また、看護師が行う在宅ケアマネジメントについても理解する

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	訪問看護の意義、訪問看護の特徴や対象者について理解できる	講義・グループワーク	テキスト在宅看護論②の1章を読んでくる（冨安）
2	訪問看護導入のプロセスと信頼関係成立の方法を理解する	ロールプレイ	グループメンバーと協力しながら積極的に取り組む（冨安）
3	療養生活を支える基本的な技術について理解できる	講義・グループワーク	テキスト在宅看護論②の2章を読んでくる（冨安）
4	在宅における援助技術（食・清潔のアセスメントと援助）について理解できる	講義・グループワーク	テキスト在宅看護論②の3章を読んでくる（冨安）
5	在宅における援助技術（移動のアセスメントと援助）について理解できる	講義・グループワーク	テキスト在宅看護論②の3章を読んでくる（冨安）
6	在宅における援助技術（排泄のアセスメントと援助、摘便）について理解できる	講義・演習	摘便についての事前学習を提出して臨む（冨安）
7	在宅における援助技術の計画立案・実施	講義・グループワーク	指示された事例について在宅における援助技術を計画する（冨安）
8	在宅における援助技術の実施	演習	計画書を作成し、前日までに提出する（冨安）
9	在宅における援助技術の実施	演習	計画書を作成し、前日に提出する（冨安）
10	在宅における援助技術の評価	グループワーク	場面を振り返り課題を整理する（冨安）
11	退院支援の連携とケアマネジメントの実際について理解できる	講義	テキスト在宅看護論①の4章を読んでくる（橋本）
12	ケアマネジメントの展開	講義・グループワーク	介護保険制度について復習して臨む（橋本）
13	ケアマネジメントの展開	個人ワーク	事例をもとに個人でケアプランを作成する（橋本）
14	作成したケアプランの評価	グループワーク	作成したケアプランに自分なりの意見をもって臨む（橋本）
15	終講試験およびまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

グループワークなど、主体的に授業に参加する
正当な理由のない遅刻・早退・欠席は減点の対象となる

■成績評価の方法

終講試験（50点）、演習（50点）

■テキスト参考書など

『地域療養を支えるケア』在宅看護論①　ナーシング・グラフィカ
『在宅療養を支える技術』在宅看護論②　ナーシング・グラフィカ

■備考

資料プリントは適宜配布する

在宅看護方法論Ⅱ

講師：橋本 ちよみ、松木 陽一、横道

単位数：1単位　時間数：30時間　授業学年：3学年

必修選択：必修

■科目目標

在宅看護の医療処置に伴う援助技術や医療機器を使用している療養者及び家族への支援について理解する。また、在宅リハビリテーションの活用について理解する

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	療養を支える看護技術（医療ケア）について理解できる	講義・グループワーク	テキスト第4章－1を読んでくる
2	胃瘻、在宅経管栄養法、在宅中心静脈栄養法について理解できる	講義・グループワーク	テキスト第4章—4・5を読んでくる
3	在宅酸素療法について理解できる	講義・グループワーク	テキスト4章—6・8を読んでくる
4	在宅人工呼吸療法、非侵襲的陽圧換気療法、気管カニューレ管理について理解できる	講義・グループワーク	テキスト第4章—7・9・10を読んでくる
5	尿道留置カテーテル、ストーマ管理について理解できる	講義・グループワーク	テキスト第4章—11・12を読んでくる
6	褥瘡管理について理解できる	講義・グループワーク	テキスト第6章—15を読んでくる
7	在宅における医療ケアの実際と看護について理解できる	講義（訪問看護師）	テキスト第4章を復習して臨む
8	在宅における医療ケアの実際と看護について理解できる	講義（訪問看護師）	テキスト第4章を復習して臨む
9	療養を支える看護技術が実施できる	演習	今までの講義資料を持参して臨む
10	在宅リハビリテーションの活用方法について理解し実施できる	講義・演習（理学療法士）	事前に提示した資料をもとに、演習して臨む
11	在宅リハビリテーションの活用方法について理解し実施できる	講義・演習（理学療法士）	事前に提示した資料をもとに、演習して臨む
12	在宅医療を継続するための支援方法について理解できる	個人ワーク	講義の前に確認テストを実施。パンフレット作成にあたり、資料を準備して臨む
13	在宅医療を継続するための支援方法について理解できる	個人ワーク	足りない資料を追加して臨む
14	在宅医療を継続するための支援方法について理解できる	グループワーク	パンフレットを作成して臨む
15	終講試験およびまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

グループワークなど、主体的に授業に参加する
正当な理由のない遅刻・早退・欠席は減点の対象となる

■成績評価の方法

終講試験（80点）、授業内課題（20点）

■テキスト参考書など

『地域療養を支えるケア』在宅看護論①　メディカ出版
『在宅療養を支える技術』在宅看護論②　メディカ出版

■備考

資料プリントは適宜配布する

医療安全

講師:植田 みよ子

単位数:1単位　時間数:15時間　授業学年:3学年

必修選択:必修

■科目目標

医療事故・看護事故の基礎知識を学び、医療安全の重要性を認識する。
また、対象者と医療従事者が事故を起こす危険要因を総合的に判断し、事故を防止するための基本的知識・技術・対応力を習得する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	医療安全を学ぶ意義と事故防止の考え方を理解できる	講義・グループワーク	実習で経験したヒヤリハット事例
2	診療の補助業務Ⅰ(注射、輸血、内服)の事故防止を理解できる	講義	
3	診療の補助業務Ⅱ(内服、経管栄養、各種チューブ管理)の事故防止を理解できる	講義	小テスト①
4	療養上の世話Ⅰ(転倒・転落)の事故防止を理解できる	講義・グループワーク	GW事例によるKYT(事後レポートあり)
5	療養上の世話Ⅱ(転倒・転落・誤嚥・異食・入浴)の事故防止を理解できる	講義	前回指示のレポート提出
6	患者間違いの要因、間違いの誘発要因について理解する	講義	小テスト②
7	事故防止のためのコミュニケーションと組織的な医療安全対策について理解する	講義	労働安全衛生上の事故防止について、これまでの講義での質問タイムを設ける
8	終講試験、まとめ	筆記試験	

■受講上の注意

看護実践者として対象者の安全確保を学ぶ重要な講義である事を認識し講義に臨んでほしい

■成績評価の方法

終講試験(80%)小テスト・レポート(10%)授業態度(10%)により、総合的に評価する

■テキスト参考書など

使用するテキスト:「医療安全」看護の統合と実践2　医学書院
参考文献:「医療安全」看護の統合と実践2　メディカ出版

■備考

講義資料は毎回配布する
PC使用し、パワーポイントにて講義する

災害看護

講師：山角 和美

単位数：1単位　時間数：30時間　授業学年：4学年

必修選択：必修

■科目目標

災害の特徴、災害医療及び看護の基本を理解するとともに、災害看護の各期に必要な知識、救援活動に必要な基本的技術を習得する

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	災害と災害看護の基礎知識が理解できる	講義・グループワーク	テキスト「1　災害看護とは」「2災害の種類と災害サイクル」を読み、予習して臨む
2	トリアージに関する基本的な内容が理解できる	講義・グループワーク	テキスト「8　災害時に必要な医療・看護技術」を読み、予習して臨む
3	災害サイクルの急性期における看護の役割が理解できる	講義・DVD	テキスト「7　災害初期から中長期における看護活動1～3」を読み、予習して臨む
4	災害サイクルの急性期における看護の役割が理解できる	講義・DVD	テキスト「7　災害初期から中長期における看護活動1～3」を読み、予習して臨む
5	災害サイクルの中長期における看護の役割が理解できる	講義・DVD	テキスト「7　災害初期から中長期における看護活動4～6」を読み、予習して臨む
6	災害サイクルの中長期における看護の役割が理解できる	講義・DVD	テキスト「7　災害初期から中長期における看護活動4～6」を読み、予習して臨む
7	被災者や救援者のストレスやこころのケアの重要性が理解できる	講義・演習	テキスト「6　被災者と支援者の心理の理解と援助」を読み、予習して臨む
8	被災者や救援者のストレスやこころのケアの重要性が理解できる	講義・演習	テキスト「6　被災者と支援者の心理の理解と援助」を読み、予習して臨む
9	被災者特性に応じた災害看護の展開方法が理解できる	講義	テキスト「5　配慮を必要とする人への支援と看護」を読み、予習して臨む
10	被災者特性に応じた災害看護の展開方法が理解できる	講義	テキスト「5　配慮を必要とする人への支援と看護」を読み、予習して臨む
11	鹿児島県の災害の特徴を踏まえ、地域における防災意識を高めることができる	演習	テキスト「4　危機管理：減災・防災マネジメント」を読み、予習して臨む
12	鹿児島県の災害の特徴を踏まえ、地域における防災意識を高めることができる	演習	テキスト「4　危機管理：減災・防災マネジメント」を読み、予習して臨む
13	ロールプレイを通して、災害時の基礎的知識を習得できる	演習	これまでの講義内容を復習し、臨む
14	ロールプレイを通して、災害時の基礎的知識を習得できる	演習	これまでの講義内容を復習し、臨む
15	終講試験およびまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

グループワーク・演習が多いので、主体的かつ積極的に取り組むこと
学習した知識と技術は自分自身のものになるよう、講義後に復習すること

■成績評価の方法

課題（40点）、終講試験（60点）により総合的に評価する

■テキスト参考書など

『看護の統合と実践③　災害看護』 メディカ出版

■備考

関連テキストの持参については、事前に連絡する
資料プリントは適宜配布する

国際看護

講師:谷口 光代

単位数:1単位　時間数:15時間　授業学年:4学年

必修選択:必修

■科目目標

国際社会の健康問題の現状と国際協力の仕組みについて理解し、異なった文化や社会における看護の役割を理解する

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	国際看護の主要概念、世界の現状	講義・グループワーク	
2	世界の保健・医療・看護の動向、異文化理解	講義・グループワーク	国際協力機関について予習して臨む
3	国際協力機関の協力の仕組みや　支援活動の実際ならびに課題	講義・グループワーク	国際看護、グローバリゼーションについて予習して望む
4	国際看護活動の実際	講義	
5	異文化理解と多文化共生	講義・グループワーク	
6	世界の国々の健康問題と看護 他国の文化および生活の実際	講義・グループワーク	
7	世界の健康問題と看護	講義・グループワーク	これまでの学習内容を理解してまとめて発表する
8	終講試験およびまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

・近年の世界情勢を把握して臨むこと。
・グループワークでは、自分の考えをしっかり持ち、主体的に自分の考えを述べるとともに、他者の話をよく聞くこと。また、ディスカッションの際には積極的な姿勢で臨むこと。

■成績評価の方法

筆記試験（80%）、講義への参加態度及び課題レポート（20%）

■テキスト参考書など

適宜、資料を配布

■備考

看護専門職論

講師：中村 育美

単位数：1単位　時間数：30時間　授業学年：4学年

必修選択：必修

■科目目標

チーム医療の重要性を認識し、看護管理システムについて理解を深めるとともに、看護の専門性を追求し、看護の自立と責任を理解する

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	看護管理の基本的概念を理解できる	講義	看護管理と看護管理者の役割について理解し具体的行動についてイメージする
2	マネジメントに必要な知識、技術と組織の理解と貢献を学ぶ	講義	マネジメントの基本的概念の理解と組織分析（SWOT）組織貢献を理解する
3	看護サービスとそのマネジメントが理解できる	講義	看護サービスの特徴と実際を知ることでイメージすること
4	看護職のマネジメントと看護管理マネジメントを理解する	講義・グループワーク	グループワークにて看護師の日常マネジメントを再考しマネジメントの重要性を理解すること
5	看護を取り巻く諸制度を理解し関心を高めることができる	講義	社会情勢や診療報酬の医療現場への影響と看護管理者が果たす役割を学ぶ
6	安全管理の重要性を理解できる	講義・演習	医療安全管理の重要性と基本的知識を演習を通して理解すること
7	感染対策管理と看護者の役割を理解できる	講義	看護管理者の重要な院内感染対策への取り組みを理解すること
8	リーダーシップの理解	講義	看護管理者のリーダーシップが分かる
9	フォロワーシップとリーダーシップの関係性を学ぶことができる	講義	フォロワーシップの重要性を理解すること
10	チーム医療と看護管理者の役割を学ぶことができる	講義	チーム医療の基本的概念を理解すること
11	看護業務管理の実際を理解できる	講義・演習	演習を通し、メンバーの特徴をとらえた業務分担を考え、作成する
12	倫理綱領を学び看護管理への活用を理解できる	講義	看護者の倫理綱領について予習してくること
13	看護の質向上について理解できる	講義	看護の質向上の必要性について理解する
14	看護ナラティブと看護師育成	講義	看護を語る重要性を理解すること
15	終講試験・まとめ	筆記試験	

■受講上の注意

講義への主体的参加とGWへ積極的に参加すること

■成績評価の方法

筆記試験　100点

■テキスト参考書など

看護管理学　医学書院

■備考

必要な資料等は適宜配布する

ケーススタディ

講師：高﨑 久美子

単位数：1単位　時間数：30時間　授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

ケーススタディの意義を理解し、自己の看護実践へ活かすために自己の課題を見出す。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	ケーススタディの意義：看護におけるケーススタディとは何かを理解できる	講義・演習	テキストのPart Ⅰ・Ⅱを読んで、「ケーススタディ」とは何かを調べてくること
2	ケーススタディの意義：看護におけるケーススタディとは何かを理解できる	講義・演習	テキストのPart Ⅰ・Ⅱを読んで、「ケーススタディ」とは何かを調べてくること
3	研究・実践の意義：看護における研究の意義や実践の意義について理解できる	講義・演習	「看護研究」とはについて予習してくること
4	研究・実践の意義：看護における研究の意義や実践の意義について理解できる	講義・演習	「看護研究」とはについて予習してくること
5	ケーススタディの具体的なプロセスについて理解できる	講義・グループワーク	ケーススタディの事例を読み、グループで内容の確認を行う。GWが中心となるので、主体的に取り組むこと
6	ケーススタディの具体的なプロセスについて理解できる	講義・グループワーク	ケーススタディの事例を読み、グループで内容の確認を行う。GWが中心となるので、主体的に取り組むこと
7	ケーススタディの具体的なプロセスについて理解できる	講義・グループワーク	ケーススタディの事例を読み、グループで内容の確認を行う。GWが中心となるので、主体的に取り組むこと
8	ケーススタディの具体的なプロセスについて理解できる	講義・グループワーク	ケーススタディの事例を読み、グループで内容の確認を行う。GWが中心となるので、主体的に取り組むこと
9	プロセスの理解	グループワークの発表	各Gでのまとめの発表を聞いて、ケーススタディへの理解を深める
10	文献検索の方法：文献検索の必要性と使用方法が理解できる	講義・演習	テキストPartⅣ「文献の活用」について予習してくること
11	文献検索の方法：文献検索の必要性と使用方法が理解できる	講義・演習	テキストPartⅣ「文献の活用」について予習してくること
12	卒業研究の聴講を行い、研究発表の方法を理解する	聴講	テキストPart Ⅴ「口頭発表」について読んでくる
13	老年看護学実習での学びを各自でまとめる（課題提出）	演習	個人ワークであるので、計画的に演習をすすめること
14	老年看護学実習での学びを各自でまとめる（課題提出）	演習	個人ワークであるので、計画的に演習をすすめること
15	終講試験・まとめ	筆記試験	

■受講上の注意

演習、GW、課題提出など、指示されたことを遵守し、主体的に取り組むこと

■成績評価の方法

筆記試験　80点　平常点　10点（出席状況、受講態度など）
課題提出　10点

■テキスト参考書など

テキスト：看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方　照林社
必要な資料は適宜配布する

■備考

看護研究Ⅰ

講師:冷水 陽子

単位数:1単位　時間数:30時間　授業学年:4学年

必修選択:必修

■科目目標

看護研究の基礎的知識・態度を習得する
1. 看護における研究の意義を理解できる
2. 看護研究に必要な基礎的能力(データ収集・論文作成・発表)の基本を身につける

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	看護研究の意義と内容を理解し、興味・関心を高めることができる	講義	テキスト「看護研究」の序章を読み、P11のワークを事前に行い講義に参加する
2	研究テーマ(リサーチクエスチョン)の立て方について理解できる	講義・演習	事前に興味のあることについて考えて参加すること
3	文献を読み、論文の構成について理解できる	講義・演習	クリティークを行うので、興味のあることについて複数の文献を集めておくこと
4	文献検索を行いながら、文献レビューの目的と方法について理解できる	講義・演習	リサーチクエスチョンに応じて文献検索を行い、文献リストを作成する
5	文献検索を行いながら、文献レビューの目的と方法について理解できる	講義・演習	リサーチクエスチョンに応じて、文献検索を行い、結果をまとめ提出する
6	看護研究における倫理的配慮と研究論文の構成要素を理解できる	演習	看護研究と倫理規定、倫理的配慮、同意書作成について
7	研究デザインについて理解できる ①質的研究	演習	各自の課題に積極的に取り組むこと
8	質的研究のデータの収集と分析方法が理解できる	演習	各自の課題に積極的に取り組むこと
9	質的研究のデータの収集と分析方法が理解できる	演習	各自の課題に積極的に取り組むこと
10	研究デザインについて理解できる ②量的研究	講義・演習	各自の課題に積極的に取り組むこと
11	量的研究のデータの収集と分析方法が理解できる	演習	各自の課題に積極的に取り組むこと
12	量的研究のデータの収集と分析方法が理解できる	演習	各自の課題に積極的に取り組むこと
13	研究デザインについて理解できる ③事例研究	講義	各自の課題に積極的に取り組むこと
14	研究計画書の作成について理解できる	講義	各自の課題に積極的に取り組むこと
15	論文作成の基本ルールとプレゼンテーションの意義を理解できる	講義	論文作成のルール、プレゼンの意義について理解すること (小テストを実施する)

■受講上の注意

演習での課題(グループワーク・個人ワーク)があるので積極的に参加すること
看護研究Ⅱへつながる科目であるために、確実に理解すること

■成績評価の方法

研究テーマ(リサーチクエスチョン)の提出(30%)　文献リストの提出(40%)
2年次に行った各自のケーススタディをクリティークした結果の提出(30%)

■テキスト参考書など

テキスト:『看護研究』 医学書院
そのほかプリントを講義時に提示する

■備考

演習や課題レポートについては講義時に指示を行う

看護研究Ⅱ

講師：山角 和美

単位数：2単位　時間数：60時間　授業学年：4学年

必修選択：必修

■科目目標

看護を多角的視点から深く考察し、質の高い看護を追求するとともに、看護実践につながる論理的思考力を養う

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	看護研究の意義について理解できる	講義・グループワーク	看護研究Ⅰの資料を読み、予習してくる
2	研究テーマの検討及び研究計画の立案	演習・個人ワーク	研究計画書の書き方について読んでくる
3	研究テーマの検討及び研究計画の立案	演習・個人ワーク	研究計画書の書き方について読んでくる
4	研究テーマの検討及び研究計画の立案	演習・個人ワーク	研究計画書の書き方について読んでくる
5	研究テーマの検討及び研究計画の立案	演習・個人ワーク	研究計画書の書き方について読んでくる
6	研究計画に基づき、文献検索を行う	演習・個人ワーク	文献検索の方法（文献の活用）について学習してくる
7	研究計画に基づき、文献検索を行う	演習・個人ワーク	文献検索の方法（文献の活用）について学習してくる
8	論文作成 計画書に沿って論文作成を行う。また、担当教員との面接指導を通して論文作成に取り組む	演習・個人ワーク	計画書をもとに、担当教員と指導を受ける日程を調整する 個人ワークであるために、計画的に積極的に進めていくこと
9	論文作成 計画書に沿って論文作成を行う。また、担当教員との面接指導を通して論文作成に取り組む	演習・個人ワーク	計画書をもとに、担当教員と指導を受ける日程を調整する 個人ワークであるために、計画的に積極的に進めていくこと
10	論文作成 計画書に沿って論文作成を行う。また、担当教員との面接指導を通して論文作成に取り組む	演習・個人ワーク	計画書をもとに、担当教員と指導を受ける日程を調整する 個人ワークであるために、計画的に積極的に進めていくこと
11	論文作成 計画書に沿って論文作成を行う。また、担当教員との面接指導を通して論文作成に取り組む	演習・個人ワーク	計画書をもとに、担当教員と指導を受ける日程を調整する 個人ワークであるために、計画的に積極的に進めていくこと
12	論文作成 計画書に沿って論文作成を行う。また、担当教員との面接指導を通して論文作成に取り組む	演習・個人ワーク	計画書をもとに、担当教員と指導を受ける日程を調整する 個人ワークであるために、計画的に積極的に進めていくこと
13	論文作成 計画書に沿って論文作成を行う。また、担当教員との面接指導を通して論文作成に取り組む	演習・個人ワーク	計画書をもとに、担当教員と指導を受ける日程を調整する 個人ワークであるために、計画的に積極的に進めていくこと
14	論文作成 計画書に沿って論文作成を行う。また、担当教員との面接指導を通して論文作成に取り組む	演習・個人ワーク	計画書をもとに、担当教員と指導を受ける日程を調整する 個人ワークであるために、計画的に積極的に進めていくこと
15	論文作成 計画書に沿って論文作成を行う。また、担当教員との面接指導を通して論文作成に取り組む	演習・個人ワーク	計画書をもとに、担当教員と指導を受ける日程を調整する 個人ワークであるために、計画的に積極的に進めていくこと
16	論文作成 計画書に沿って論文作成を行う。また、担当教員との面接指導を通して論文作成に取り組む	演習・個人ワーク	計画書をもとに、担当教員と指導を受ける日程を調整する 個人ワークであるために、計画的に積極的に進めていくこと
17	論文作成 計画書に沿って論文作成を行う。また、担当教員との面接指導を通して論文作成に取り組む	演習・個人ワーク	計画書をもとに、担当教員と指導を受ける日程を調整する 個人ワークであるために、計画的に積極的に進めていくこと
18	論文作成 計画書に沿って論文作成を行う。また、担当教員との面接指導を通して論文作成に取り組む	演習・個人ワーク	計画書をもとに、担当教員と指導を受ける日程を調整する 個人ワークであるために、計画的に積極的に進めていくこと
19	論文作成 計画書に沿って論文作成を行う。また、担当教員との面接指導を通して論文作成に取り組む	演習・個人ワーク	計画書をもとに、担当教員と指導を受ける日程を調整する 個人ワークであるために、計画的に積極的に進めていくこと

20	論文作成 計画書に沿って論文作成を行う。また、担当教員との面接指導を通して論文作成に取り組む	演習・個人ワーク	計画書をもとに、担当教員と指導を受ける 日程を調整する 個人ワークであるために、計画的に積極的に進めていくこと
21	論文作成 計画書に沿って論文作成を行う。また、担当教員との面接指導を通して論文作成に取り組む	演習・個人ワーク	計画書をもとに、担当教員と指導を受ける 日程を調整する 個人ワークであるために、計画的に積極的に進めていくこと
22	論文作成のまとめ	演習・個人ワーク	計画書をもとに、担当教員と指導を受ける 日程を調整する 個人ワークであるために、計画的に積極的に進めていくこと
23	論文作成のまとめ	演習・個人ワーク	計画書をもとに、担当教員と指導を受ける 日程を調整する 個人ワークであるために、計画的に積極的に進めていくこと
24	研究発表の準備（発表原稿の作成）	演習・個人ワーク	他者へ分かりやすく伝わりやすい内容とするように心がける
25	研究発表の準備（発表原稿の作成）	演習・個人ワーク	他者へ分かりやすく伝わりやすい内容とするように心がける
26	研究発表	発表	他者の発表をも聞いて、看護について考えるとともに自己の課題を見出す
27	研究発表	発表	他者の発表をも聞いて、看護について考えるとともに自己の課題を見出す
28	研究発表	発表	他者の発表をも聞いて、看護について考えるとともに自己の課題を見出す
29	研究発表	発表	他者の発表をも聞いて、看護について考えるとともに自己の課題を見出す
30	リフレクション	講義	論文作成を通して、自己の看護を振り返る

■受講上の注意

看護を探求する科目です。個人ワークが中心ですので積極的に取り組むこと
担当教員との連携をしっかりと図り、主体的に指導を受けること
倫理的配慮に基づき、論文作成を行うこと

■成績評価の方法

評価表に沿って①研究活動の実際②研究発表会の参加③研究の振り返り　以上の視点で2名の教員で総合評価する（100点満点）
研究論文が提出期限内に提出されなかった場合は、評価の対象とならない

■テキスト参考書など

テキスト『看護研究』 医学書院
参考書：よくわかる看護研究の進め方・書き方　医歯薬出版株式会社
　　看護学生のためのレポート・論文の書き方　高谷　修

■備考

ケーススタディや看護研究Ⅰでの資料等を活用すること

看護技術総合評価Ⅰ

講師：鈴木 泉

単位数：1単位　　時間数：30時間　　授業学年：3学年

必修選択：必修

■科目目標

既習の知識・技術を統合し、対象の健康状態に応じた看護を実践する能力を養う

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	1. 演習の意義・目標、進め方を理解することができる 2.シナリオの患者を理解することができる。（知識確認テスト①） 3.シミュレーション1、プレOSCE、OSCEについて理解できる。	講義・個人ワーク	1.事前学習：看護過程の復習および看護技術の原理原則と方法について学習・演習をして望んでください。 2.講義前にシナリオを提示します。必要な事前学習および病態関連図を提出する。（初回時に） 3.知識確認テスト①を行う. 4.シナリオの病態を理解できる。
2	1.シナリオの患者を理解することができる。 2.シミュレーション1（情報収集と看護師の身だしなみ）から患者のイメージ化ができる。 3.入院当日の患者への対応を考えることができる。	シミュレーション1個人ワーク	1.シミュレーションを行い、自己の課題を明確にする。 2.対象の理解ができる。（想定患者） 3.追加された情報化をもとに患者をイメージ化できる。 4.入院初日の患者の気持ちを考えることができる。 5.入院時の情報から看護の必要性を考えることができる。
3	1.シナリオから個人の看護診断計画を作成できる。 2.作成した看護計画から必要な演習を考えることができる。 3.グループ間で看護診断計画を検討できる。 4.プレOSCE、OSCEについてのオリエンテーションを行う。	個人ワーク②グループワーク	1.シナリオから、個人の看護診断計画をグループメンバーにプレゼンテーションする。 2.グループ内でカンファレンスを行い、個人の看護診断計画を検討できる。 3.プレOSCE、OSCEが理解できる。 4.必要な演習を計画することができる。
4	1.個人の看護診断計画をグループで検討できる。 2.必要な演習を計画し実施することができる。 3.実施した演習に対して、カンファレンスを行い内容を検討できる。	個人ワーク②グループワーク技術演習	1.シナリオから、個人の看護診断計画をグループメンバーにプレゼンテーションする。 2.グループ内でカンファレンスを行い、個人の看護診断計画を検討できる。 3.プレOSCE、OSCEが理解できる。 4.必要な演習を計画することができる。 5.実施した演習を検討することができる。
5	1.プレOSCE（入院1日目）を受験できる。 2.自己の課題を明確化できるようにリフレクションできる。	プレOSCE（事例課題シミュレーション）演習	1.入院1日目の課題から実際の観察及び看護をシミュレーションできる。 2.行ったプレOSCEから、個人の看護診断計画をの振り返りができる。 3.追加の計画および演習の必要性が分かる。 4.リフレクションを提出できる。
6	1.プレOSCE（入院1日目）を受験できる。 2.自己の課題を明確化できるようにリフレクションできる。	プレOSCE（事例課題シミュレーション）演習	1.入院1日目の課題から実際の観察及び看護をシミュレーションできる。 2.行ったプレOSCEから、個人の看護診断計画をの振り返りができる。 3.追加の計画および演習の必要性が分かる。 4.リフレクションを提出できる。
7	1.入院1日目の情報やプレOSCEから、計画の追加修正と技術の追加修正ができる。 2.計画の追加修正から、演習を行う。 3.OSCEに向けてのイメージができる。	演習	1.プレOSCEから、追加情報をもとに必要な看護を考えることができる。 2.追加修正した看護技術の演習ができる。 3.演習の振り返りを、グループ間で行える。
8	1.入院1日目の情報やプレOSCEから、計画の追加修正と技術の追加修正ができる。 2.計画の追加修正から、演習を行う。 3.OSCEに向けてのイメージができる。	演習	1.プレOSCEから、追加情報をもとに必要な看護を考えることができる。 2.追加修正した看護技術の演習ができる。 3.演習の振り返りを、グループ間で行える。

9	1.入院2日目の朝までの情報をもとに、必要な看護計画の追加修正ができる。 2.追加した看護技術の演習ができる。 3.OSCEに向けてのイメージ化ができる。	演習	1.入院2日目の追加情報をもとに必要な看護を考えることができる。 2.追加修正した看護技術の演習ができる。 3.演習の振り返りを、グループ間で行える。
10	1.入院2日目の朝までの情報をもとに、必要な看護計画の追加修正ができる。 2.追加した看護技術の演習ができる。 3.OSCEに向けてのイメージ化ができる。	演習	1.入院2日目の追加情報をもとに必要な看護を考えることができる。 2.追加修正した看護技術の演習ができる。 3.演習の振り返りを、グループ間で行える。
11	1.入院2日目の朝までの情報をもとに、必要な看護計画の追加修正ができる。 2.追加した看護技術の演習ができる。 3.OSCEに向けてのイメージ化ができる。	演習	1.入院2日目の追加情報をもとに必要な看護を考えることができる。 2.追加修正した看護技術の演習ができる。 3.演習の振り返りを、グループ間で行える。
12	1.入院2日目の朝までの情報をもとに、必要な看護計画の追加修正ができる。 2.追加した看護技術の演習ができる。 3.OSCEに向けてのイメージ化ができる。	演習	1.入院2日目の追加情報をもとに必要な看護を考えることができる。 2.追加修正した看護技術の演習ができる。 3.演習の振り返りを、グループ間で行える。
13	1.OSCEを受けることができる。入院2日目の患者の看護 2.自己の課題が明確になるようなリフレクションができる。	OSCE（客観的臨床能力試験）	1.入院2日目の課題から、必要な看護を実践することができる。 OSCE（客観的臨床能力試験） 2.各自リフレクションを提出することができる。
14	1.OSCEを受けることができる。入院2日目の患者の看護 2.自己の課題が明確になるようなリフレクションができる。	OSCE（客観的臨床能力試験）	1.入院2日目の課題から、必要な看護を実践することができる。 OSCE（客観的臨床能力試験） 2.各自リフレクションを提出することができる。
15	1.知識確認テスト② 2.個人課題の明確化ができる	講義	1.識と技術の統合ができる。 2.知識確認テスト

■受講上の注意

今までの学びを統合する授業です。知識技術だけでなく、倫理的態度も求められます。主体的に取り組んで下さい。

■成績評価の方法

知識確認テスト①②（20点）、事前学習（5点）、病態関連図（5点）、個人看護診断計画（30点）、OSCE（30点）、個人リフレクション①②（10点）、
出席状況として総合点から欠席毎に2点減点する。

■テキスト参考書など

NANDA－Ⅰ看護診断
資料プリントは適宜配布する

■備考

講義前にシナリオ、事前課題を提示する。
＊事前課題①シナリオから患者に必要な援助（ワークシート1参照）②病態関連図（ワークシート2参照）
確認テストはシナリオの内容をもとに行う

看護技術総合評価Ⅱ

講師：冷水 陽子

単位数：1単位　時間数：30時間　授業学年：4学年

必修選択：必修

■科目目標

臨地実習の経験を踏まえ、クリティカルな状態にある対象の看護を臨機応変に実践するための基礎的能力を養う

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	1. 演習の意義・目標、進め方、評価方法を理解することができる 2. シナリオの患者を理解することができる	講義・グループワーク	1.シナリオを理解する 2.複数受け持ちとする。 3.チームとして考えることができる。
2	1. シナリオの看護診断・看護計画を立案できる	個人ワーク	1.個別性を踏まえた看護診断・看護計画に留意する。 2.看護診断・看護計画を提出する①
3	1.個人の看護診断・看護計画を発表できる 2.チームで看護診断・看護計画を検討できる 3.個人で看護診断・看護計画を完成できる	個人・グループワーク	個人の看護診断計画をチームにプレゼンテーションするので積極的に意見交換を行う。
4	1.個人の看護診断・看護計画を発表できる 2.チームで看護診断・看護計画を検討できる 3.個人で看護診断・看護計画を完成できる	個人・グループワーク	個人の看護診断計画をチームにプレゼンテーションするので積極的に意見交換を行う。
5	1.看護計画に沿った援助が安全・安楽に基づいて実施できる 2.看護計画の追加・修正を行うことができる。	演習	
6	1.看護計画に沿った援助が安全・安楽に基づいて実施できる 2.看護計画の追加・修正を行うことができる。	演習	
7	1.看護計画に沿った援助が安全・安楽に基づいて実施できる 2.看護計画の追加・修正を行うことができる。	演習	1. これまでに使用したチェッククリストを活用する。 2. 必要時、チームで演習及び計画を検討する。 3. 修正・追加した看護診断・看護計画を提出する。②
8	1.看護計画に沿った援助が安全・安楽に基づいて実施できる 2.看護計画の追加・修正を行うことができる。	演習	
9	1.看護計画に沿った援助が安全・安楽に基づいて実施できる 2.看護計画の追加・修正を行うことができる。	演習	
10	1.状況に応じた判断と必要な援助が実施できる 2.自己の課題を明確にできる	OSCE	
11	1.状況に応じた判断と必要な援助が実施できる 2.自己の課題を明確にできる	OSCE	1.OSCEで行った看護実践を振り返り、自己の課題を明確にする。 2.個人リフレクションシートを提出できる。①
12	1.状況に応じた判断と必要な援助が実施できる 2.自己の課題を明確にできる	OSCE	
13	1.状況に応じた判断と必要な援助が実施できる 2.自己の課題を明確にできる	OSCE	
14	リフレクションを基に、必要な看護について理解できる	グループワーク	1. 個人のリフレクションシートを元に、チーム内で振り返り・検討する。 2. 個人リフレクションシートを提出する。②
15	終講試験 個人の課題の明確化ができる。	筆記試験	

■受講上の注意

これまでの臨地実習の学びを統合する講義です。主体的・積極的に取り組んで下さい。

■成績評価の方法

個人の看護診断・看護計画①②（30点）、OSCE（50点）、
個人リフレクション①②（20点）

■テキスト参考書など

事例に必要なテキストを活用する

■備考

講義前にシナリオを提示する。

しまの医療と看護Ⅰ

講師：冨安 恵子

単位数：1単位　時間数：30時間　授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

体験を通して、鹿児島の特徴であるしまの生活を理解することができる

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	科目の位置づけ、概要を知ることができる	講義・DVD	しまの概要について調べられるものを用意してくる
2	しまの概要（歴史、文化、生活、医療、環境、交通）について理解できる	協同学習	しまの概要について、個人、グループで主体的に調べる
3	しまの概要（歴史、文化、生活、医療、環境、交通）について理解できる	協同学習	しまの概要について、個人、グループで主体的に調べる
4	奄美の歴史と文化と生活 奄美市の人々の医療と看護の現状住民の様子と保健活動について理解できる	体験学習	目的を持って、しっかり聞く
5	奄美の歴史と文化と生活 奄美市の人々の医療と看護の現状住民の様子と保健活動について理解できる	体験学習	目的を持って、しっかり聞く
6	奄美の歴史と文化と生活 奄美市の人々の医療と看護の現状住民の様子と保健活動について理解できる	体験学習	目的を持って、しっかり聞く
7	生活の理解について理解できる （しまの探索）	体験学習	時間厳守にて行動し、住民と触れ合うときの服装、言動、行動には十分注意する
8	生活の理解について理解できる （しまの探索）	体験学習	時間厳守にて行動し、住民と触れ合うときの服装、言動、行動には十分注意する
9	生活の理解について理解できる （しまの探索）	体験学習	時間厳守にて行動し、住民と触れ合うときの服装、言動、行動には十分注意する
10	生活の理解について理解できる （住民との交流）	体験学習	時間厳守にて行動し、住民と触れ合うときの服装、言動、行動には十分注意する
11	生活の理解について理解できる （住民との交流）	体験学習	時間厳守にて行動し、住民と触れ合うときの服装、言動、行動には十分注意する
12	生活の理解について理解できる （住民との交流）	体験学習	時間厳守にて行動し、住民と触れ合うときの服装、言動、行動には十分注意する
13	学びの整理をする	グループワーク	調べたことと実際を照らし、テーマごとに学びを整理する
14	学びの整理、共有をする	グループワーク	調べたことと実際を照らし、テーマごとに学びを整理する
15	学びについて意見交換をし、しまの生活についての理解を深める	発表	一人ひとりが主体的に発言する

■受講上の注意

主体的に授業に参加する
服装、言動、行動等には十分注意する
配布済みの資料は、指定の方法でファイリングし、毎時、必ず持参すること

■成績評価の方法

受講態度（70%）、課題レポート（30%）（事前学習、日誌、事後レポート）

■テキスト参考書など

市勢要覧、観光パンフレット、しま関連の書籍

■備考

資料プリントは適宜配布する

しまの医療と看護Ⅱ

講師：東 直子

単位数：1単位　時間数：30時間　授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

鹿児島の特徴であるしまの人々との触れ合いを通して、しまの健康管理体制と健康課題を知る

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	科目の概要を知ることができる	講義・グループワーク	しまの医療と看護Ⅰを振り返っておく
2	学習計画を立案できる 瀬戸内町の概要と健康に関する背景を理解できる	協同学習	グループ毎に着席する
3	学習計画を立案できる 瀬戸内町の概要と健康に関する背景を理解できる	協同学習	グループ毎に着席する
4	学習計画を修正し、行動計画を確認できる	協同学習	各自で役割を意識して活動する
5	学習計画を修正し、行動計画を確認できる	協同学習	各自で役割を意識して活動する
6	瀬戸内町の保健医療福祉と医療を理解できる （住民に多い疾患、保健施策、健康管理体制）	体験学習	瀬戸内町の概要を把握して臨む
7	瀬戸内町の保健医療福祉と医療を理解できる （住民に多い疾患、保健施策、健康管理体制）	体験学習	瀬戸内町の概要を把握して臨む
8	瀬戸内町の保健医療福祉と医療を理解できる （住民に多い疾患、保健施策、健康管理体制）	体験学習	瀬戸内町の概要を把握して臨む
9	交流をとおして、健康に関する考えや取り組みを知る	体験学習	積極的に参加し、目的を意識して行動する
10	交流をとおして、健康に関する考えや取り組みを知る	体験学習	積極的に参加し、目的を意識して行動する
11	交流をとおして、健康に関する考えや取り組みを知る	体験学習	積極的に参加し、目的を意識して行動する
12	新聞作成をとおして、学びを整理する	グループワーク	グループ毎に着席する 体験学習時の画像で必要なものを精選し 印刷して持参する
13	新聞作成をとおして、学びを整理する	グループワーク	グループ毎に着席する 体験学習時の画像で必要なものを精選し 印刷して持参する
14	学びについて意見交換をし、しまの健康管理体制と健康課題について理解を深める	発表・まとめ	時間を意識しながら、積極的に臨む
15	学びについて意見交換をし、しまの健康管理体制と健康課題について理解を深める	発表・まとめ	時間を意識しながら、積極的に臨む

■受講上の注意

学生の組織を活用し、各自が目的意識を持って主体的に取り組むこと
配布済みの資料は、指定の方法でファイリングし、毎時、必ず持参すること

■成績評価の方法

出席状況（3割）、受講態度と参加状況（3割）、課題評価（4割）

■テキスト参考書など

町勢要覧、行政機関が発行する統計データなど

■備考

資料プリントは適宜配布する

感染症と看護

講師：濱田 亜弥

単位数：1単位　時間数：30時間　授業学年：3学年

必修選択：必修

■科目目標

今日の国内外において問題となっている感染症およびその動向、並びに感染看護の歴史について理解する
感染成立と発症に至る経過について理解を深め、医療関連感染に関する基礎知識や考え方、感染予防策の原則・方法について理解する
感染症患者および易感染患者に対しての看護、および組織的に取り組むための感染管理について理解する

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	オリエンテーション 感染看護の歴史と現代の感染の動向を学ぶ 感染の基礎知識：感染成立の条件や発症とは、感染に関連した用語について学ぶ	講義	「看護覚え書き」を読んでおく
2	オリエンテーション 感染看護の歴史と現代の感染の動向を学ぶ 感染の基礎知識：感染成立の条件や発症とは、感染に関連した用語について学ぶ 国内外の感染看護活動（WHO・CDCなど）について学ぶ	講義	「看護覚え書き」を読んでおく
3	感染症防止や感染対策に関する関係法規（医療法・感染症法・学校保健安全法など）について学ぶ 市内感染、院内感染、医療関連感染の定義について学ぶ	講義	
4	国内外の感染看護活動（WHO・CDCなど）について学ぶ 感染症防止や感染対策に関する関係法規（医療法・感染症法・学校保健安全法など）について学ぶ 市内感染、院内感染、医療関連感染の定義について学ぶ	講義	
5	隔離予防策（標準予防策・経路別予防策）、医療関連感染対策、サーベイランス、職業感染対策、医療廃棄物の対処を知り、安全に看護を実践することを学ぶ	講義・演習・グループワーク	
6	隔離予防策（標準予防策・経路別予防策）、医療関連感染対策、サーベイランス、職業感染対策、医療廃棄物の対処を知り、安全に看護を実践することを学ぶ	講義・演習・グループワーク	
7	隔離予防策（標準予防策・経路別予防策）、医療関連感染対策、サーベイランス、職業感染対策、医療廃棄物の対処を知り、安全に看護を実践することを学ぶ	講義・演習・グループワーク	
8	ライフステージ（小児・成人・母性・老人）ごとの感染症の特徴と看護について学ぶ	講義	
9	隔離の倫理的側面について考える	グループワーク	
10	医療関連感染予防のための院内組織について学ぶ 感染管理認定看護師、感染症看護専門看護師の役割や活動について学ぶ	講義	
11	感染症を持つ患者や易感染患者、患者家族への看護について、事例を通し理解を深める ・耐性菌の事例　・インフルエンザの事例 ・感染性腸炎の事例（予定）	演習・グループワーク	看護の展開が出来るよう、感染症とライフステージごとの特徴をよく理解しておく
12	感染症を持つ患者や易感染患者、患者家族への看護について、事例を通し理解を深める ・耐性菌の事例　・インフルエンザの事例 ・感染性腸炎の事例（予定）	演習・グループワーク	看護の展開が出来るよう、感染症とライフステージごとの特徴をよく理解しておく
13	感染症を持つ患者や易感染患者、患者家族への看護について、事例を通し理解を深める ・耐性菌の事例　・インフルエンザの事例 ・感染性腸炎の事例（予定）	演習・グループワーク	看護の展開が出来るよう、感染症とライフステージごとの特徴をよく理解しておく
14	感染症を持つ患者や易感染患者、患者家族への看護について、事例を通し理解を深める ・耐性菌の事例　・インフルエンザの事例 ・感染性腸炎の事例（予定）	演習・グループワーク	看護の展開が出来るよう、感染症とライフステージごとの特徴をよく理解しておく
15	終講試験・解説	筆記試験	

■受講上の注意

■成績評価の方法

出席状況と授業態度（10%）、演習（GW）と成果物（30%）、終講試験（60%）

■テキスト参考書など

テキストなし。適宜、資料を配布する
参考文献は講義の中で紹介する

■備考

認定看護セミナー

講師：東 直子

単位数：2単位　時間数：60時間　授業学年：4学年

必修選択：必修

■科目目標

特定分野についての新しい知見、高度な技術をもつ認定看護師を通して、看護の専門性を追求し、看護実践への関心を高め、生涯にわたり学習し続ける意義を再認識し、専門職としての今後の展望をもつ

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	看護専門職の資格と機能：看護職における専門・認定看護師、特定看護師について自ら調べ機能・役割について理解できる	講義・演習	看護の資格認定制度について予習し、看護の専門性について自己の考えをまとめる（終了後にレポートを提出する）
2	看護専門職の資格と機能：看護職における専門・認定看護師、特定看護師について自ら調べ機能・役割について理解できる	講義・演習	看護の資格認定制度について予習し、看護の専門性について自己の考えをまとめる（終了後にレポートを提出する）
3	看護における専門分化と機能：調べた看護専門職の機能・役割についてグループで討議し、互いに共有できる	グループワーク・演習	自己の学び、考え（レポート）をもとにグループで意見交換し看護の高度化・専門分化について学びを深める
4	看護における専門分化と機能：調べた看護専門職の機能・役割についてグループで討議し、互いに共有できる	グループワーク・演習	自己の学び、考え（レポート）をもとにグループで意見交換し看護の高度化・専門分化について学びを深める
5	診療看護師：特定行為研修制度に関する講義を受けて、看護実践能力への関心を高めることができる	グループワーク・演習	特定行為研修制度について調べる
6	診療看護師：特定行為研修制度に関する講義を受けて、看護実践能力への関心を高めることができる	講義・DVD	
7	診療看護師：特定行為研修制度に関する講義を受けて、看護実践能力への関心を高めることができる	講義・DVD	
8	診療看護師：特定行為研修制度に関する講義を受けて、看護実践能力への関心を高めることができる	グループワーク、個人ワーク	学びをレポートにまとめて提出
9	救急看護：救急看護認定看護師より、看護実践における役割と実際の講義を受けて、看護実践能力への関心を高めることができる	講義・グループワーク	救急看護の認定看護師について調べる
10	救急看護：救急看護認定看護師より、看護実践における役割と実際の講義を受けて、看護実践能力への関心を高めることができる	講義・DVD	
11	救急看護：救急看護認定看護師より、看護実践における役割と実際の講義を受けて、看護実践能力への関心を高めることができる	講義・DVD	
12	救急看護：救急看護認定看護師より、看護実践における役割と実際の講義を受けて、看護実践能力への関心を高めることができる	グループワーク・個人ワーク	学びをレポートにまとめて提出
13	精神科看護：精神科看護認定看護師より、看護実践における役割と実際の講義を受けて、看護実践能力への関心を高めることができる	講義・グループワーク	精神科看護の認定看護師について調べる
14	精神科看護：精神科看護認定看護師より、看護実践における役割と実際の講義を受けて、看護実践能力への関心を高めることができる	講義・DVD	
15	精神科看護：精神科看護認定看護師より、看護実践における役割と実際の講義を受けて、看護実践能力への関心を高めることができる	講義・DVD	
16	精神科看護：精神科看護認定看護師より、看護実践における役割と実際の講義を受けて、看護実践能力への関心を高めることができる	グループワーク・個人ワーク	学びをレポートにまとめ添付提出
17	がん化学療法看護：がん化学療法看護認定看護師より、看護実践における役割と実際の講義を受けて、看護実践能力への関心を高めることができる	講義・グループワーク	がん化学療法看護の認定看護師について調べる
18	がん化学療法看護：がん化学療法看護認定看護師より、看護実践における役割と実際の講義を受けて、看護実践能力への関心を高めることができる	講義・DVD	
19	がん化学療法看護：がん化学療法看護認定看護師より、看護実践における役割と実際の講義を受けて、看護実践能力への関心を高めることができる	講義・DVD	
20	がん化学療法看護：がん化学療法看護認定看護師より、看護実践における役割と実際の講義を受けて、看護実践能力への関心を高めることができる	グループワーク・個人ワーク	学びをレポートにまとめて提出

21	認知症看護：認知症看護認定看護師より、看護実践における役割と実際の講義を受けて、看護実践能力への関心を高めることができる	講義・グループワーク	認知症看護の認定看護師について調べる
22	認知症看護：認知症看護認定看護師より、看護実践における役割と実際の講義を受けて、看護実践能力への関心を高めることができる	講義・DVD	
23	認知症看護：認知症看護認定看護師より、看護実践における役割と実際の講義を受けて、看護実践能力への関心を高めることができる	講義・DVD	
24	認知症看護：認知症看護認定看護師より、看護実践における役割と実際の講義を受けて、看護実践能力への関心を高めることができる	グループワーク・個人ワーク	学びをレポートにまとめて提出
25	自己の課題の明確化：認定看護師から受けた講義をもとに、自己の興味・関心のある分野の認定看護師について調べ、看護職における生涯学習の重要さと自己の課題を見出す	演習	認定看護師の講義で得た学びをもとに、看護職としての自覚をもち、自己研鑽することの重要性について考え、今後の自己の課題についてまとめる
26	自己の課題の明確化：認定看護師から受けた講義をもとに、自己の興味・関心のある分野の認定看護師について調べ、看護職における生涯学習の重要さと自己の課題を見出す	演習	認定看護師の講義で得た学びをもとに、看護職としての自覚をもち、自己研鑽することの重要性について考え、今後の自己の課題についてまとめる
27	自己の課題の明確化：認定看護師から受けた講義をもとに、自己の興味・関心のある分野の認定看護師について調べ、看護職における生涯学習の重要さと自己の課題を見出す	演習	認定看護師の講義で得た学びをもとに、看護職としての自覚をもち、自己研鑽することの重要性について考え、今後の自己の課題についてまとめる
28	自己の課題の明確化：認定看護師から受けた講義をもとに、自己の興味・関心のある分野の認定看護師について調べ、看護職における生涯学習の重要さと自己の課題を見出す	演習	認定看護師の講義で得た学びをもとに、看護職としての自覚をもち、自己研鑽することの重要性について考え、今後の自己の課題についてまとめる
29	学びの発表とまとめ：自己の課題を明確にし、専門職としての今後の展望を発表する	発表	発表原稿を作成しまとめる 終了後はまとめた資料を提出する
30	学びの発表とまとめ：自己の課題を明確にし、専門職としての今後の展望を発表する	講義	発表原稿を作成しまとめる 終了後はまとめた資料を提出する

■受講上の注意

自分で意欲的に学ぶ科目です。主体的に取り組み学びを深めること
グループワークが主体の講義ですので、積極的に参加すること

■成績評価の方法

課題レポート　60点
課題の発表　30点
平常点　10点（出席状況・受講態度など）

■テキスト参考書など

講義で必要な資料等は、適宜配布する

■備考

在宅看護実習

講師:橋本 ちよみ

単位数:2単位　時間数:90時間　授業学年:3学年

必修選択:必修

■科目目標

実習目的
在宅で療養している対象とその家族を理解し、在宅での看護が実践できるために必要な基礎的知識・技術・態度を習得する

■科目内容

■学習のねらい

実習目標
在宅で療養している対象を理解する
対象の療養生活環境を理解する
在宅で療養している対象の看護を理解する
療養生活を支援するために必要な社会資源、他職種との協働の実際を理解する

実習期間および方法
訪問看護ステーション　10日間(75時間)
鹿児島市社会福祉協議会　1日間(7.5時間)
地域包括支援センター　1日間(7.5時間)

■方法

病院等の実習施設での臨地実習

■学習上の留意点
臨地実習指導者、担当教員の指導のもと実習を行う
詳細は実習要綱参照

■受講上の注意
看護者の倫理綱領に基づき行動する
事前学習を十分に行い、主体的に実習に臨む

■成績評価の方法
実習内容・実習記録の提出・実習態度を実習評価表に沿って、総合的に評価する

■テキスト参考書など
『地域療養を支えるケア』メディカ出版　『在宅療養を支える技術』メディカ出版　その他

■備考
詳細は実習要綱参照

統合実習

講師:冷水 陽子

単位数:3単位　時間数:135時間　授業学年:4学年

必修選択:必修

■科目目標

実習目的
看護専門職者として、自己の課題を明確にし、自己研鑽する能力を養うとともに、看護チームの一員として、実務に即した看護実践に主体的に取り組み、看護実践能力の向上をめざす

■科目内容

■学習のねらい

実習目標
患者の健康状態に応じて適切な判断を行い、看護を実践できる
看護チームの一員として、その役割を理解できる
チーム医療におけるマネジメントの実際をとおして、看護における基礎的なマネジメントについて理解できる
病院における医療安全について理解できる
看護専門職者としての自己の課題を明確にできる

実習期間および方法
・4週間の月～金曜日実習　18日間
・基本的に看護管理実習は半日
・受け持ち・複数受け持ち実習、夜間業務見学・リーダー業務見学実習1日
・夜勤実習では、11:30～20:00とする

■方法

病院等の実習施設での臨地実習

■学習上の留意点
臨地実習指導者、担当教員の指導のもと実習を行う
詳細は実習要綱参照

■受講上の注意
今実習は、これまでの講義や各領域の実習で学習してきたことを統合し、より実践的な体験を行う。さらに看護専門職論、チーム医療論に繋げられるように理解を深めること。
来年チーム医療・看護チームの一員として働くことを意識しながら主体的に取り組むこと。

■成績評価の方法
統合実習の実習評価に基づいて評価を行う

■テキスト参考書など
看護管理のテキスト、これまでの講義や各領域の実習で学習した多職種連携に関する資料参照

■備考
詳細は実習要綱参照

しまの看護実習

講師:冨安 恵子

単位数:1単位　時間数:45時間　授業学年:3学年

必修選択:必修

■科目目標

実習目的
しまで暮らす人々の健康管理と看護活動の実際を体験し、看護活動の特徴を理解するとともに、しまにおける看護師の果す役割について考察する

■科目内容

■学習のねらい

実習目標
①しまで暮らす人々の健康管理の実際を理解する
②しまで健康問題を抱えて生活する人々の看護活動の実際を理解する
③①、②を通して、しまの看護活動の特徴と看護師の役割を理解する

実習期間および方法
役場、施設、病院、診療所での実習(5日間)を通してしまで暮らす人々の健康管理の実際と看護活動の実際を理解する
1日　学内でまとめを行う

■方法

病院等の実習施設での臨地実習

■学習上の留意点
臨地実習指導者、担当教員の指導のもと実習を行う
詳細は実習要綱参照

■受講上の注意
しまの医療と看護Ⅰ・Ⅱを土台にした実習である。グループで協力して積極的に行動すること。宿泊を伴う実習であるので、体調管理に留意すること。

■成績評価の方法
実習内容・実習記録の提出・実習態度を実習評価表に沿って、総合的に評価する

■テキスト参考書など
しまと医療と看護Ⅰ、Ⅱで使用した講義資料　しまに関する資料(書籍、DVD)など

■備考
詳細は実習要綱参照